一般国道９号米子道路埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅴ

鳥取県米子市

泉中峰（イズミナカミネ）・泉前田（イズミマエタ）遺跡

1994

財団法人　鳥取県教育文化財団
建設省　倉吉工事事務所

正誤表

（泉中峰・泉前田遺跡）

頁			誤	正
Ⅵ	図版15		SI-06 出土遺物	SI-06・08 出土遺物
23	11行		南側	北側
33	23行		短軸0.25m以上を	短軸0.56mを
38	11行		長軸1.2m×短軸1.0m	長軸1.20m×短軸1.02m
74			S22	S21
76	挿表1	02		側溝あり
		06	土師器甕・台付椀（赤色顔料塗付）	土師器甕・高坏
			須恵器高坏・坏蓋・甕	須恵器坏蓋
			5世紀中頃	5世紀後半
				側溝あり
		07	図版番号7-15	図版番号16
		08	なし	土師器甕・台付椀（赤色顔料塗付）
				須恵器甕・坏蓋
			側溝あり	空欄
77	挿表3	SK-09	円形	楕円形
		SK-11	隅丸長方形	隅丸方形
		SK-19	底面ピット14×12	底面ピット14×24
		SK-21	楕円形	長方形
		SK-23	深さ55	深さ67
78	挿表4	Po14	13	14
79		Po28	SI-06	SI-08
		Po30	〃	〃
		Po32	〃	〃
		Po33	〃	〃
		Po34	〃	〃
		Po35	〃	〃
80		Po36	〃	〃
		Po37	〃	〃
	図版15		SI-06 出土遺物	SI-06・08 出土遺物

序

鳥取県西部地域の米子市・淀江町周辺は、北に雄大な日本海、南に秀峰大山を控え、美しい自然環境に恵まれた地域であります。さらに、古くから遺跡の宝庫としても知られており、西日本では珍しい縄文時代の櫛が出土した井手胯遺跡、本州では唯一の出土であり九州との関連性が考えられる国重要文化財「石馬」、切石積石室をもつ国指定史跡の岩屋古墳など後期の前方後円墳が集中する向山古墳群、彩色壁画や3基の塔心礎の出土で注目される上淀廃寺など、当時の活発な交流を物語る遺物・遺構が数多く存在しております。

当財団では、このような遺跡地帯を平成2年度より一般国道9号米子道路工事に伴い発掘調査を実施してまいりましたが、平成5年度も鳥取県教育委員会文化課が建設省倉吉工事事務所と協議の上で、財団法人鳥取県教育文化財団が委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所が発掘調査を実施致しました。

その結果、住居跡は見つからなかったものの縄文時代早期の土器が出土したことから、その当時から人々が当地域一帯で生活を営んでいたことが明らかとなりました。また、古墳時代後期の住居跡が見つかり、一帯に数多く存在する群集墳を築いた人々との関係が注目されることとなりました。これらは、未解明な部分の多い郷土の歴史を解き明かしていくうえでの貴重な基礎的資料であります。今後一層の調査研究が期待されるところであり、本報告書が多方面にわたって広くご活用していただけることを心から願っております。

最後になりましたが、この度の調査の実施および報告書の作成にあたり、御理解と御協力を頂いた地元の方々をはじめとする関係各位に、深く感謝の意を表する次第であります。

平成6年3月

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西尾邑次

序　　文

建設省が管理する一般国道９号は、京都市を起点として福知山を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、山口県下関に至る延長約609kmの路線であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根県境）までの76.4kmを管理しており、各種の道路整備事業を実施しています。そのうちの一つに西伯郡淀江町及び米子市地内において、将来の国土開発幹線道路として、当面活用できる機能を有する高規格な自動車専用道路である米子道路の整備を進めています。

米子道路は米子市及びその周辺部における一般国道９号の交通混雑を緩和するために計画され、昭和47年から事業に着手し、現在までに米子市尾高～陰田町間約8.1km（一部ランプ使用）を供用しています。

現在、西伯郡淀江町今津から米子市赤井手及び米子市陰田町から県境までの間を自動車専用道路として施工中です。

このルートには、多数の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存を行うことになりました。

このうち今年度は、「大下畑遺跡」「泉中峰・泉前田遺跡」「尾高御建山遺跡」「陰田久幸山遺跡（仮称）」の４箇所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査が行われました。

残りの箇所についても、工事工程等と調整を行い、来年度以降引き続き発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を進めてもらう予定です。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心を持っていることにご理解をいただければ幸いに存じます。

おわりに、事前の協議をはじめ現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力をいただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し感謝いたします。

平成６年３月

建設省倉吉工事事務所長

濱　谷　武　治

例　　言

1．本報告は、一般国道９号米子道路工事に伴い1993年度に実施された米子市泉に所在する泉中峰・泉前田遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録である。

2．発掘調査は、建設省倉吉工事事務所の委託により財団法人鳥取県教育文化財団西部埋蔵文化財調査事務所が行った。調査担当調査員は西川・山川・志田である。

3．本報告書に収載した泉中峰・泉前田遺跡は、新発見の遺跡のため当初「泉所在遺跡」と呼称した遺跡である。なお、遺跡名は字名に基づき、泉中峰遺跡はＣ区に、泉前田遺跡はＡ・Ｂ区にあたる。報告はまとめて行う。

4．調査地には、国土座標第５系に対応する10×10mのグリッドを設定し、東西ラインをアラビア数字、南北ラインをアルファベットで表し、グリッド名とした。方位は真北、レベルは海抜標高である。

5．本報告書に掲載の地形図は国土地理院発行の５万分の１地形図「米子」を使用した。

6．本報告書の作成は調査員の討議に基づく。
　報告書本文は調査員が分担して執筆し、執筆担当者名を目次に記載した。編集は西川が行った。
　遺構・遺物の実測並びに浄写、遺構・遺物写真の撮影は調査員を中心に行った。
　本報告書の作成には、鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得た。

7．出土遺物・図面・写真等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的には米子市教育委員会に移管する予定である。

8．現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々に指導・協力を頂いた。　（敬称略、五十音順）
　稲田　孝司　　岩田　文章　　岡崎　友子　　下高　瑞哉　　杉谷　愛象　　中原　斉　　中山　和之
　根鈴　輝雄

凡　　例

1．遺物には遺跡名を「ＩＺ」と略称でネーミングしている。

2．観察表中で取上番号と共にカッコ書きされた数字は遺跡調査システム「ＳＩＴＥ」を利用して取り上げた遺物に付けられたもので、各遺物の厳密な位置特定が可能である。

3．本報告書における遺構記号は下記のように表す。
　ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＫ：土坑・土壙　　ＳＤ：溝状遺構
　ＳＳ：段状遺構　　Ｐ：柱穴・ピット

4．本報告書における遺物記号は下記のように表す。
　Ｐｏ：土器・土製品　　Ｓ：石器　　Ｆ：鉄製品

5．土器実測図のうち、縄文土器・弥生土器・土師器は断面白抜き、須恵器・瓦質土器は断面黒塗りで表した。
　遺物実測図における記号は以下の通りとする。
　→：ケズリの方向（砂粒の動き）

6．挿図中のドットは次のように表す。
　●：土器　　■：石器　　▲：鉄製品

7．遺構挿図中におけるセクション・エレベーションの基準線標高はＨ＝の記号で表す。

8．遺物観察表については以下の通りとする。
　法量の欄の番号は次の通りとする。なお、数値の後についた※は復元値、△は残存値であることを表す。
　①口径　②器高　③胴部最大径　④底部径　⑤脚径　⑥脚高　⑦長さ　⑧幅　⑨穴径

目　　次

序
序　文
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
挿表目次
図版目次

第1章　調査の経緯　西川
第1節　発掘調査に至る経緯……1
第2節　調査の経過と方法……1
第3節　調査体制……2

第2章　位置と環境　西川
第1節　地理的環境……3
第2節　歴史的環境……4

第3章　調査の内容　西川・山川・志田
第1節　竪穴住居跡……14
第2節　掘立柱建物跡……31
第3節　土坑・土壙……31
第4節　溝状遺構……55
第5節　段状遺構……56
第6節　ピット群……61
第7節　遺構外の遺物……62

第4章　まとめ　西川
……75

西川・志田
遺構一覧表……76
遺物観察表……77

挿図目次

挿図1　泉中峰・泉前田遺跡位置図……3
挿図2　周辺遺跡分布図……5
挿図3　調査前地形測量図……7
挿図4　A区遺構図……8
挿図5　B区遺構図……9・10
挿図6　C区遺構図……11・12
挿図7　調査地・トレンチ位置図……13
挿図8　SI－01遺構図……14
挿図9　SI－01遺物出土状況図……15
挿図10　SI－01遺物実測図……15
挿図11　SI－02遺構図……16
挿図12　SI－02遺物出土状況図……17
挿図13　SI－02遺物実測図……18
挿図14　SI－03遺物実測図……18
挿図15　SI－03・SS－05遺構図……19
挿図16　SI－04遺構図……20
挿図17　SI－04遺物実測図……21
挿図18　SI－05遺構図……22
挿図19　SI－05遺物実測図……23
挿図20　SI－06・08遺物実測図……24
挿図21　SI－06・08遺構図……25・26
挿図22　SI－07遺物実測図……27
挿図23　SI－07遺構図……27
挿図24　SI－09遺構図……28
挿図25　SB－01遺構図……29・30
挿図26　SK－01遺構図……31
挿図27　SK－02遺構図……32
挿図28　SK－03遺構図……33
挿図29　SK－04遺構図……33
挿図30　SK－05遺構図……34
挿図31　SK－06遺構図……34
挿図32　SK－06遺物実測図……35
挿図33　SK－07遺構図……35
挿図34　SK－07遺物実測図……36
挿図35　SK－08遺構図……36
挿図36　SK－09遺構図……37
挿図37　SK－09遺物実測図……37
挿図38　SK－10遺物実測図……38
挿図39　SK－10遺構図……38

挿図40　ＳＫ－11遺構図……38
挿図41　ＳＫ－12遺構図……39
挿図42　ＳＫ－13遺構図……39
挿図43　ＳＫ－14遺構図……40
挿図44　ＳＫ－15遺構図……40
挿図45　ＳＫ－16遺構図……41
挿図46　ＳＫ－17遺構図……41
挿図47　ＳＫ－18遺構図……42
挿図48　ＳＫ－19遺構図……42
挿図49　ＳＫ－20遺構図……43
挿図50　ＳＫ－21遺構図……43
挿図51　ＳＫ－22遺構図……44
挿図52　ＳＫ－23遺構図……44
挿図53　ＳＫ－24遺構図……45
挿図54　ＳＫ－25遺構図……45
挿図55　ＳＫ－26遺構図……46
挿図56　ＳＫ－27遺構図……46
挿図57　ＳＫ－28遺構図……46
挿図58　ＳＫ－29遺構図……47
挿図59　ＳＫ－30遺構図……47
挿図60　ＳＫ－31遺構図……48
挿図61　ＳＫ－32遺構図……48
挿図62　ＳＤ－01遺構図……49・50
挿図63　ＳＤ－02遺構図……51・52
挿図64　ＳＤ－03遺構図……53・54
挿図65　ＳＤ－01遺物実測図……55
挿図66　ＳＤ－03遺物実測図……56
挿図67　ＳＳ－01遺構図……56
挿図68　ＳＳ－02遺物実測図……57
挿図69　ＳＳ－02遺構図……57
挿図70　ＳＳ－03遺物実測図……58
挿図71　ＳＳ－03遺構図……59・60
挿図72　ＳＳ－04遺構図……61
挿図73　ＳＳ－04遺物実測図……61
挿図74　遺構外出土縄文土器……62
挿図75　遺構外出土弥生土器……63
挿図76　遺構外出土土師器(1)……64
挿図77　遺構外出土土師器(2)……65
挿図78　遺構外出土土師器(3)……66
挿図79　遺構外出土手捏ね土器……66
挿図80　遺構外出土須恵器(1)……67
挿図81　遺構外出土須恵器(2)……68

挿図82　遺構外出土須恵器(3)……69
挿図83　遺構外出土須恵器(4)……70
挿図84　遺構外出土瓦質土器……71
挿図85　遺構外出土土製品……71
挿図86　遺構外出土石器(1)……73
挿図87　遺構外出土石器(2)……74

挿表目次

挿表1　竪穴住居跡一覧表……76
挿表2　掘立柱建物跡一覧表……76
挿表3　土坑・土壙一覧表……77
挿表4　土器・土製品観察表……78
挿表5　石器観察表……92

図版目次

図版1　泉中峰・泉前田遺跡全景
図版2　A区全景
　　C区全景
図版3　SI－01土層断面
　　SI－01完掘状況
　　SI－01遺物出土状況(1)
　　SI－01遺物出土状況(2)
図版4　SI－02土層断面
　　SI－02完掘状況
　　SI－02遺物出土状況
　　SI－02遺物接写
図版5　SI－03土層断面
　　SI－03遺物出土状況
　　SI－04土層断面
　　SI－04遺物出土状況
図版6　SI－05土層断面
　　SI－05完掘状況
　　SI－05遺物出土状況(1)
　　SI－05遺物出土状況(2)
図版7　SI－06・08土層断面
　　SI－06・08完掘状況
　　SI－06・08遺物出土状況(1)
　　SI－06・08遺物出土状況(2)
図版8　SB－01土層断面
　　SB－01完掘状況
　　C区谷部土層断面
　　作業風景
図版9　SK－01土層断面
　　SK－02土層断面
　　SK－20土層断面
　　SK－05完掘状況
　　SK－24完掘状況
図版10　SK－06検出状況
　　SK－06土層断面
　　SK－06完掘状況
　　SK－09完掘状況
図版11　SD－01土層断面
　　SD－02土層断面
　　SD－02完掘状況
　　SD－03土層断面
図版12　SS－01完掘状況
　　SS－02遺物出土状況
　　SS－03遺物出土状況
　　SS－03土層断面

図版13　ＳＩ－01出土遺物
ＳＩ－02出土遺物
ＳＩ－03出土遺物
図版14　ＳＩ－04出土遺物
ＳＩ－05出土遺物
図版15　ＳＩ－06出土遺物
図版16　ＳＩ－07出土遺物
ＳＫ－06出土遺物
ＳＫ－07土遺物
ＳＫ－09出土遺物
ＳＫ－10出土遺物
ＳＤ－01出土遺物
図版17　ＳＤ－03出土遺物
ＳＳ－02出土遺物
ＳＳ－03土遺物
ＳＳ－04出土遺物
遺構外出土縄文土器
図版18　遺構外出土弥生土器
図版19　遺構外出土土師器(1)
図版20　遺構外出土土師器(2)・手捏ね土器
図版21　遺構外出土須恵器(1)
図版22　遺構外出土須恵器(2)
図版23　遺構外出土須恵器(3)
図版24　遺構外出土須恵器(4)
図版25　遺構外出土須恵器(5)・瓦質土器・土製品
図版26　遺構外出土石器

第１章　調査の経緯

第１節　発掘調査に至る経緯

鳥取県西部地域における交通渋滞解消を図る目的で計画された一般国道９号米子道路工事に伴い、埋蔵文化財発掘調査が西部埋蔵文化財調査事務所によって平成２年度から開始された。平成２～４年度に西伯郡淀江町内の福岡遺跡、平成３・４年度に西伯郡淀江町内の井手跨遺跡、平成４年度に西伯郡淀江町内の今津塚田遺跡、平成４・５年度に米子市内の尾高御建山遺跡、平成５年度に西伯郡淀江町内の大下畑遺跡、米子市内の陰田久幸山遺跡（仮称）と調査が順次実施されている。

米子市から淀江町にまたがる一般国道９号米子道路のルート予定地周辺には、周知の遺跡である尾高古墳群・百塚古墳群などの多くの古墳群、多くの竪穴住居跡が出土した百塚遺跡群などの遺跡が集中する地域であるため、工事に先立って予定地内の遺跡・遺構の有無を確認する必要性が生じた。そのため、平成元年度に米子市教育委員会が試掘調査を実施した。試掘調査では明確な遺構は確認されなかったものの、縄文土器片・須恵器片・石鏃等が出土した。この結果から遺跡の存在が予想されることとなった。これを受けて、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所は鳥取県教育委員会文化課と協議し、発掘調査の実施を決定し、財団法人鳥取県教育文化財団が記録保存のための発掘調査の委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所が調査を担当することとなった。調査地は総計で 11000㎡、期間は平成５年４月～平成６年３月までと予定された。

第２節　調査の経過と方法

調査開始に先立ち、業者委託によって調査前の地形測量を行う。

発掘調査は４月12日より開始した。米子市教育委員会の行った試掘調査の結果より、調査予定地の南側は後世の削平により遺構が残っていないことが考えられた。そこで、土層確認と遺構の広がりをつかむために計21本のトレンチを設定し掘り下げた。

表土剝ぎには重機を使用したが、調査地を道路や用水路が寸断し、これらを保護する必要があったために一度に表土剝ぎを行うことができず、南側から順次表土剝ぎを実施した。道路によって区切られた範囲を南側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区とした。Ａ区は水田、Ｂ区は畑地、Ｃ区は谷および舌状の尾根である。

４月15日にＡ区から表土剝ぎを開始した。排土は南西側の用貿地内に搬出した。

続いて４月23日よりＢ区の表土剝ぎに移ったが、排土の適当な置き場がないためＢ区北側の３分の１程度の場所に残る部分の排土を仮置きして先行して調査を行い、調査終了後にそれらの土を調査の終了した場所に移動させ未調査部分の調査を実施した。

Ｃ区の表土剝ぎには、Ｂ区の先行部分の剝ぎが終了した５月11日から取り掛かった。排土は谷部を境として、南側はＢ区に、北側は北側調査区外に搬出した。

谷部の掘り下げでは排土の置き場に制約があるため、ベルトコンベアーを10台繋いでＢ区側に搬出することとした。

調査においては、コンピュータ・システム株式会社製の遺跡調査システム「ＳＩＴＥ」を利用して効率的な調査を目指した。谷部には多くの土器の流れ込みがあり、これらの土器の取り上げに効果的であった。

10月14日、調査地完掘状況をラジコンヘリコプターを用いて写真撮影し、10月15日に調査を終了した。

第3節　調査体制

調査は、鳥取県教育委員会・鳥取県埋蔵文化財センターの指導・助言のもと、下記の体制で実施された。

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	西尾邑次（鳥取県知事）
副理事長兼常務理事	入江圭司
事務局長	若松良雄

財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

所長	土井田憲治（鳥取県教育委員会文化課長）
次長	山根豊己
調査指導係長	田中弘道（鳥取県埋蔵文化財センター次長）
庶務係長	山根夏男（鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長）
主任事務職員	木下利雄
事務	嶋村八重子

○調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団　西部埋蔵文化財調査事務所

所長	松尾忠一
調査員	北浦弘人・西川徹・原田雅弘
	山田真一・仲田信一・山川茂樹
	中山寧人・志田睦
調査補助員	樋口友枝・山崎裕子
整理員	杉田千津子

○調査協力　米子市教育委員会

下記の方々に発掘調査作業員・整理作業員として協力していただいた。記して謝意を表したい。

発掘作業参加者

秋里登志子　安藤絹恵　石門安定　石倉信夫　石倉信子　岩本美保子
宇那手章　遠藤札枝　大原豊　岡田キクノ　加藤智恵子　門田正美
金田千枝子　金田信夫　越田民代　佐伯進　坂田君子　坂田やえの
阪本淳一郎　清水積三　下本愛子　陶山幸子　陶山静恵　陶山幸子
瀬尾昌子　関とし子　建部たつ子　谷野麻記子　田原恭吉　露無克子
中原八千代　中本和枝　西村とし子　埒寿子　野口喜八郎　野口君枝
橋本春子　花房幸子　原田純子　平井節子　吹野房子　吹野雪乃
細川砂子　馬田千鶴子　松田とし子　松山岩水　湊縫子　三宅武
村岡美津子　安田貞則　山内玉江　山根麟　山本たつ子　吉岡初江
吉原三代子　（敬称略、五十音順）

整理作業参加者

稲垣美智恵　遠藤和子　岡田千秋　小川哲　表明美　小山菜穂子
左藤博　田中和子　塚田文子　中原千恵　二宮さおり　福田弥千代
山本清子　山本久美恵　（敬称略、五十音順）

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

鳥取県

鳥取県は中国地方の５県の内の１つの県である。中国地方は瀬戸内海に面する山陽地方の３県と、日本海に面する山陰地方と呼ばれる２県に分けられる。両者の間には標高1200mを越える山々を擁する中国山地が存在し、両者の環境を大きく異なるものにしている。その違いは特に冬に顕著である。比較的晴れて温暖な気候が続きあまり雪の降らない山陽地方に対し、山陰地方ではどんよりとした曇り空が続き雪がかなり積もるのである。鳥取県はこのような山陰地方に属している。

鳥取県は、北側に日本海があり、南側を岡山県と広島県、東側を兵庫県、西側を島根県と接している。鳥取県の面積は3,492.34㎢であるが、その８割近くが林野である。県内は千代川水系に属し鳥取市周辺を中心とする東部地区、天神川水系に属し倉吉市周辺を中心とする中部地区、日野川水系に属し米子市周辺を中心とする西部地区に大きく分けられる。これらの地域は、中国山地から日本海に向けて流れる県下を代表する３つの河川の中・下流域に発達した沖積平野に依拠しているのである。また各平野の海岸線には、全国的にも有名な鳥取砂丘をはじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

鳥取県は、前述した３市に国内でも有数の漁港をもつ境港市を加えた４市を中心に39市町村から構成されている。人口は61万4789人（平成５年12月１日現在）である。

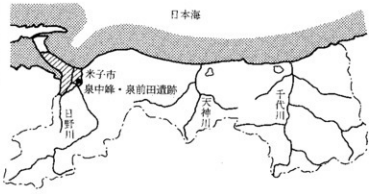
米子市

米子市は、鳥取県の西部に位置し市域は100.1㎢、人口は13万3571人（平成６年１月１日現在）である。

東は淀江町や大山町、南は岸本町・会見町や西伯町、西は境港市や島根県安来市、北には日吉津村があり、日本海とも接している。地形は中国山地より流れでた日野川によって形成された米子平野、日野川と合流する法勝寺川流域に形成された法勝寺平野などの沖積平野が基本となっているが、周辺部には低平な山地や台地がせまる。特に、東方には中国地方の最高峰である大山（1,713m）から続く広大な台地状の山麓が広がっている。なお、海岸部には弓ヶ浜半島のような砂州が広がり、変化に富む地形となっている。

調査地域

調査地域の米子市泉は、米子市と東側に位置する淀江町との境界部にあたり、大山から壺瓶山に向けてのびる山麓縁辺部を形成する台地の突端部近くに位置する。台地には幅の狭い谷が切り込み、いくつもの舌状の尾根を形成している。調査地は谷部や舌状尾根の先端部を含む。



挿図１　遺跡位置図

第2節　歴史的環境

旧石器時代　米子市・淀江町域に限らず、鳥取県内には旧石器時代の遺構とされるものは確認されていないが、大山山麓一帯を中心としていくつかの旧石器が発見されている。淀江町小波出土の東山・杉久保型系統の黒曜石製ナイフ型石器、溝口町長山第1遺跡出土の細石刃（マイクロ・ブレイド）などが発見されている。旧石器時代～縄文時代草創期とされる有舌尖頭器は、黒曜石製が淀江町中西尾から、サヌカイト製のものが米子市奈喜良遺跡・会見町諸木遺跡(34)・岸本町貝田原遺跡(23)をはじめ大山町の坊領や荘田地区などでも発見されている。

縄文時代　鳥取県内から草創期の土器は発見されていない。しかし、大山山麓の縁辺部で有舌尖頭器が出土していることを考えると、今後この時代の遺構・遺物が大山山麓を中心に発見される可能性が高いであろう。

早期になると大山山麓を中心に押型文土器を伴う遺跡が発見されている。米子市の上福万遺跡(17)では多くの土坑や配石墓と考えられる集石が発見されている。土器や石器も多く見つかっており、早期の拠点的な遺跡となっている。当遺跡に近接する尾高御建山遺跡（7）からも若干の押型文土器が出土している。

前期になると遺跡も増えてくる。前期から中期を中心とする米子市の目久美遺跡からはドングリを蓄えた多くの貯蔵穴が検出されている。陰田遺跡からは人為的な痕跡の残る多くの獣骨が見つかっている。淀江町の鮒ケ口遺跡からは多くの土器や石器が見つかっている。土器のなかには九州に特徴的な曽畑式土器に類似するものが含まれており注目される。

中期に新たに始まる遺跡は米子市・淀江町とも見つかっていない。

後期から晩期には米子市の青木遺跡(40)から200基以上の落し穴が検出された。淀江町の河原田遺跡からは多くの土器が出土した。井手腑遺跡は河川跡を中心とするが多くの土器に混じって西日本では珍しい2個の朱漆塗りの結歯式櫛や木胎耳栓が出土し注目される。

弥生時代　弥生時代になると遺跡の数も多くなる。

前期の遺跡には、米子市の目久美遺跡や口陰田遺跡・勝田遺跡、淀江町の今津岸の上遺跡が挙げられる。目久美遺跡は前期から中期にかけての低湿地遺跡であり、3層の水田跡と多くの木製農具が見つかった。今津岸の上遺跡では長径135mと推定されるV字状の環濠が検出されている。

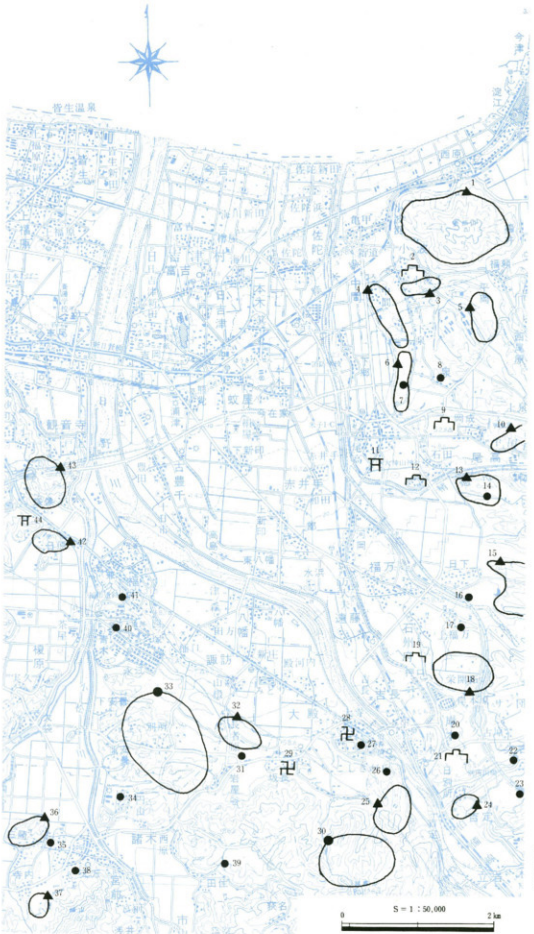
中期には米子市の青木遺跡や福市遺跡(41)、淀江町の晩田遺跡・角田遺跡・福岡遺跡などが現れる。青木遺跡・福市遺跡は後期以降も続く大規模集落である。角田遺跡からは建物や船などを描いた線刻土器が出土した。福岡遺跡からは200基以上の粘土採掘坑が見つかった。

後期には米子市の池ノ内遺跡・陰田第1遺跡・尾高浅山遺跡(14)、淀江町の井手挟遺跡・坂の上遺跡などが現れる。池ノ内遺跡からは古墳時代後期までの5面の水田層が検出された。尾高浅山遺跡は一部3重の環濠がめぐる集落と四隅突出型墳丘墓が近接して存在する遺跡である。尾高浅山遺跡の近くには四隅突出型墳丘墓を含む弥生から古墳時代にかけての墳墓群が出土した日下遺跡(16)がある。井手挟遺跡・坂ノ上遺跡は集落跡である。

古墳時代　米子市・淀江町域における前期古墳の様相は明確でない。

前期古墳は米子市では石州府29号墳・日原6号墳などが存在する。数多く存在する方墳は前期のものが多いと考えられており、特徴的である。淀江町内では前期古墳は見つかっていない。

中期になると米子市の陰田41号墳・宗像41号墳、淀江町では上ノ山古墳・向山3号墳などが知られ


1 壺瓶山古墳群
2 小渡城跡
3 小渡古墳群
4 中間古墳群
5 百塚古墳群
6 尾高古墳群
7 尾高御建山遺跡
8 泉中畔・泉前田遺跡
9 岡成城跡
10 岡成古墳群
11 大神山神社
12 尾高城跡
13 石田古墳群
14 尾高浅山遺跡
15 日下古墳群
16 日下遺跡
17 上垣万遺跡
18 石州府古墳群
19 河岡城跡
20 岸本原遺跡
21 岸本要害跡
22 久古第１遺跡
23 貝田原遺跡
24 古定古墳群
25 越敷山古墳群
26 大寺原遺跡
27 越敷ヶ丘遺跡
28 大寺廃寺
29 坂中廃寺
30 越敷山遺跡群
31 長者屋敷遺跡
32 長者原古墳群
33 諏訪遺跡群
34 猪木遺跡
35 宮尾遺跡
36 三崎古墳群
37 善段寺古墳群
38 天万遺跡
39 田住人面土器出土地
40 青木遺跡
41 福市遺跡
42 日原古墳群
43 東宗像古墳群
44 宗像神社
● 遺跡
▲ 古墳群
城跡
廃寺
神社
S＝1：50,000
0
2 km

挿図２　周辺遺跡分布図

ている。

後期になると多くの群集墳が形成される。米子市の尾高古墳群(6)・石州府古墳群(18)・東宗像古墳群(43)・宗像古墳群などの群集墳が米子平野を取り囲むように、淀江町の中間古墳群(4)・百塚古墳群(5)・向山古墳群などが淀江平野を取り囲むように形成される。向山古墳群は独立丘陵上にあり前方後円墳8基と方墳1基からなる。このうち、岩屋古墳は切石積の横穴式石室をもち、人物や水鳥などの形象埴輪が出土した。長者ケ平古墳は割石小口積みで両袖式を呈し全長10.3mの横穴式石室をもつ。付随する箱式石棺からは県内唯一の金銅製冠が出土している。これらの古墳は6世紀～7世紀にかけて築かれたと考えられる。

石馬谷古墳出土と言われている石馬は本州で唯一の類例であり、福岡県の岩戸山古墳例との関連性が考えられているものである。終末期の晩田山31号墳では舟形の線刻がある扉石が発見された。

歴史時代　律令制の施行により、現在の鳥取県域は西側の伯耆国と東側の因幡国という2つの国に編成される。伯耆国は6郡よりなるが、現在の米子市・淀江町域は会見郡から汗入郡にかけてに該当する。会見郡衙は、圃場整備に伴って調査が行われ、掘立柱建物と焼米が見つかった岸本町の長者屋敷遺跡(31)であろうと考えられている。汗入郡の郡衙と思われる遺跡は見つかっていない。

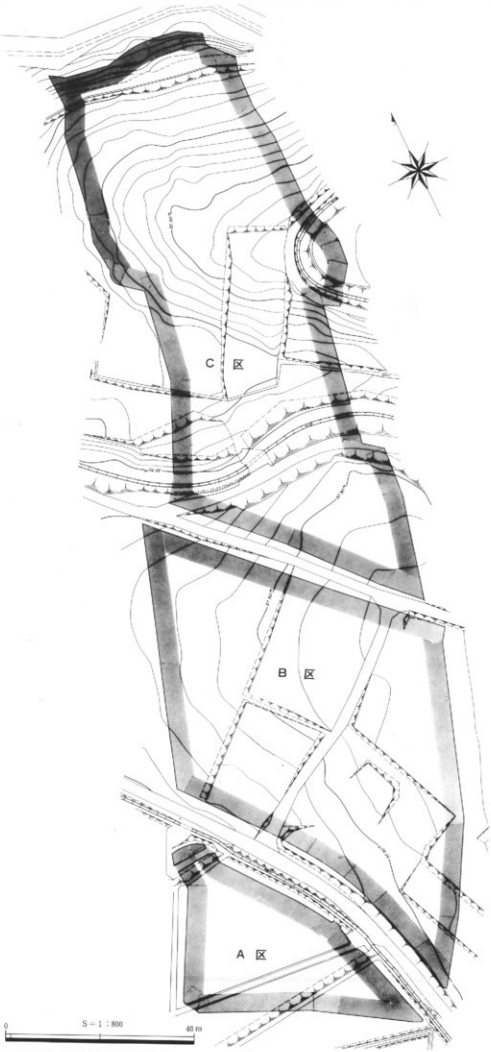
白鳳時代になると寺院の建立が始まる。米子市域にこの時期の寺院は見つかっていないが、隣接する岸本町内に白鳳時代の大寺廃寺(28)、奈良時代の坂中廃寺(29)がある。大寺廃寺の伽藍配置は変形の法起寺式で塔心礎はいわゆる三重孔の心礎で山陰地方では唯一である。なお、全国で2例しか見つかっていない石製鴟尾が残っている。淀江町の上淀廃寺は、最近の調査により、彩色壁画片が出土した。白鳳期の彩色仏教壁画は法隆寺金堂壁画に次いで2例目であり、発掘調査によって出土したのは初めてである。さらに、伽藍配置では南北に瓦積基壇が近接して2塔並び、その北側にも基壇はないがもう1つの心礎が見つかり、3つの塔心礎が南北に並ぶ特異な伽藍配置をしていたことが明らかとなった。上淀廃寺の北側に楚利遺跡が存在する。この遺跡は鍛冶場跡と考えられているが、布目瓦・鴟尾瓦・彩釉陶器・石帯などの破片が出土し上淀廃寺との関係が注目されている。

奈良時代には、近接する位置にある青木遺跡(40)や福市遺跡(41)・樋ノ口遺跡群で掘立柱建物が見つかっている。また、上福万遺跡(17)では掘立柱建物・土壙などが出土した。

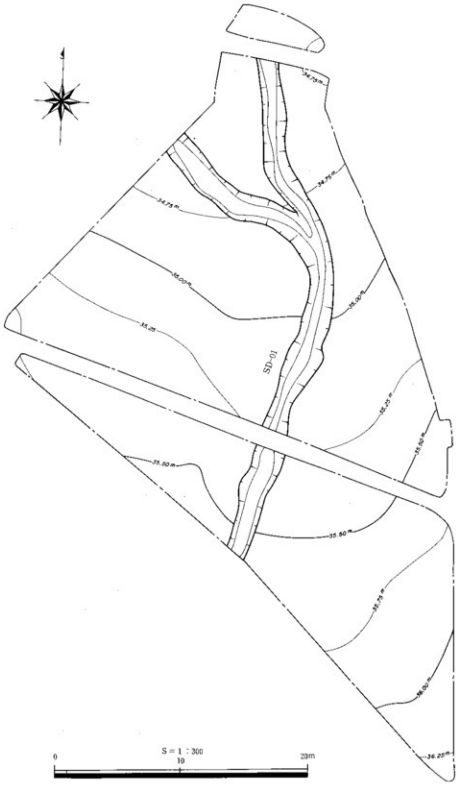
中世城館としては、米子市尾高城(12)・河岡城(19)、淀江町小波城(2)・淀江城・稲吉城・香原山城などが文献に現れる。米子市尾高地域は山陰道と山陽側に抜ける日野道との分岐点に位置し、伯耆西部の交通・流通の要衝であったため、尾高城の争奪をかけて尼子・毛利両氏が幾度もの激戦を繰り広げた。尾高城は大山山麓の入り組んだ谷と丘陵を巧みに利用し、空堀と土塁で守られた8つの主要な郭を連ねる構造である。それに対し、淀江町内にあったとされる城とは砦の様なものであったと考えられているが、未だ正確な位置が特定されてはおらず不明な点が多いが、1333年の後醍醐天皇の隠岐脱出に関連する名和長年と隠岐国守護佐々木清高による小波城の攻防戦を初めとして、「大永の五月崩れ」として知られる1524年の尼子経久の伯耆への侵入に際しては山名氏方であった淀江城が陥落、1569年には尼子氏と毛利氏による淀江城・稲吉城を巡っての争いなどが起こった事などが文献に残されている。

江戸時代になると、吉川広家によって築城が始められていた米子城を中村一忠が完成させ、1601年米子城に中村一忠が移ると尾高城は廃城となる。その後、米子城は鳥取藩の支城として存続したが、明治になってから廃城となった。

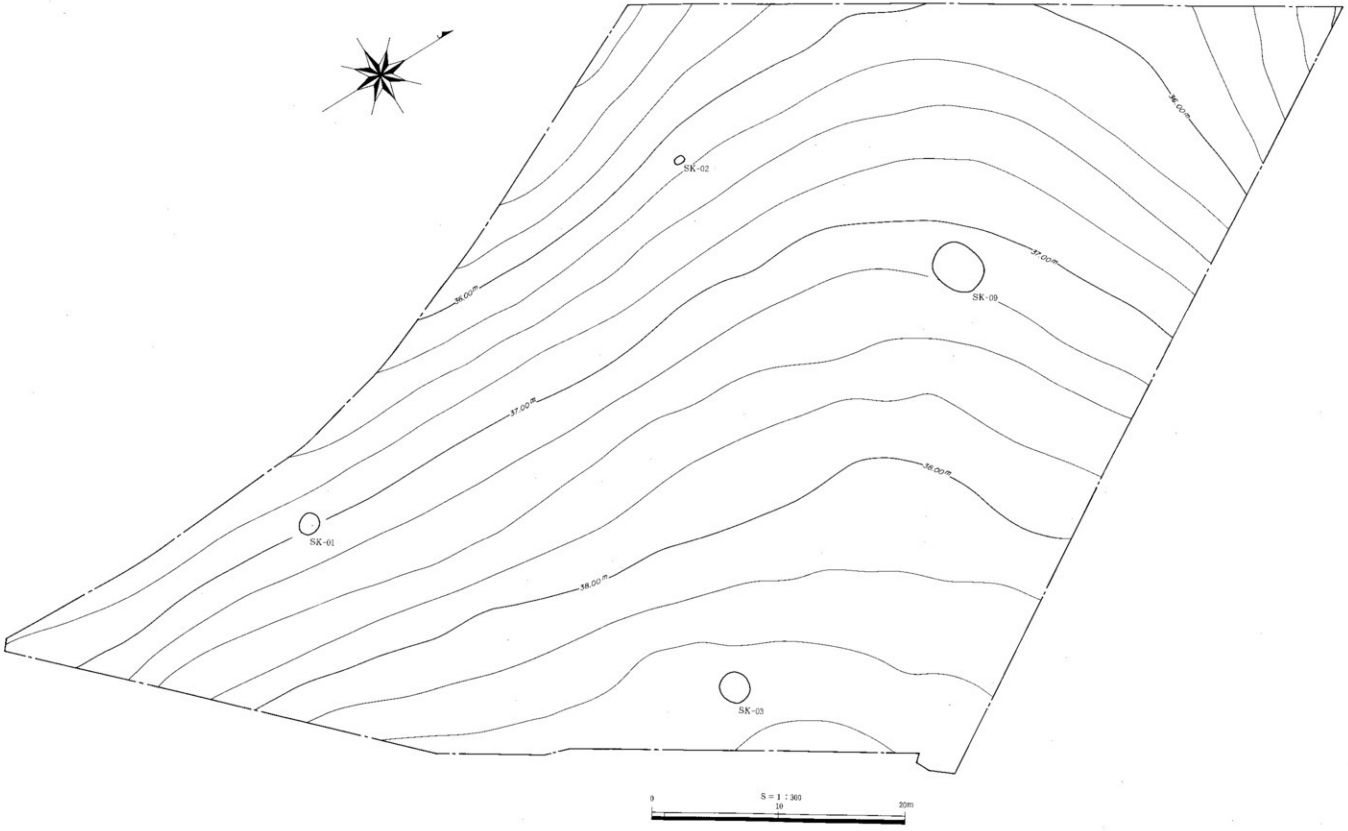
本地域周辺は、明治9年島根県に編入されたが、明治14年には鳥取県に再編入されて現在に至っている。



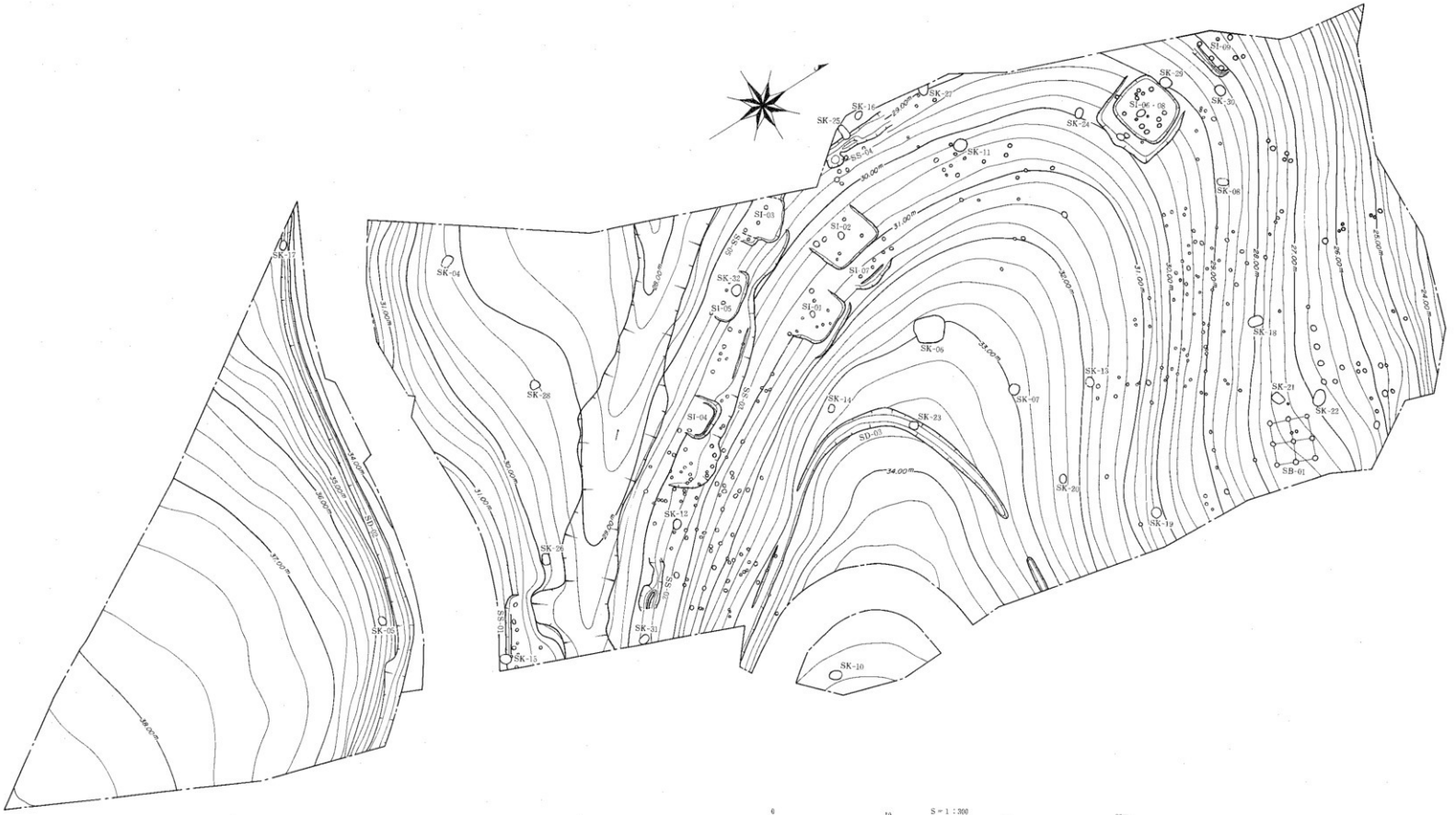
挿図３　調査前地形測量図



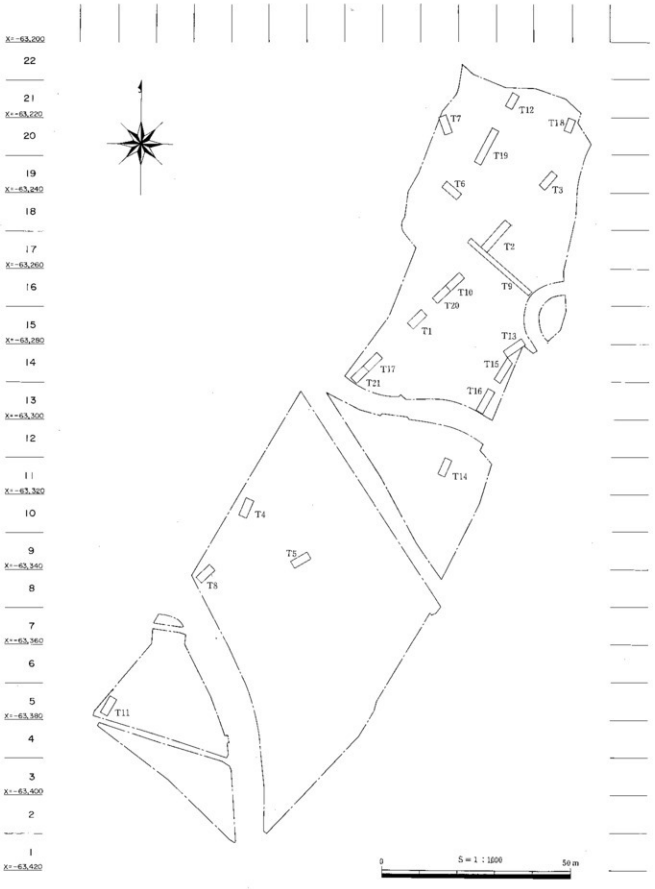
挿図4　A区遺構図



挿図5　B区遺構図


SK-17
SK-04
SK-28
SK-26
SK-05
SK-15
SK-31
SK-12
SK-10
SK-14
SK-23
SK-06
SK-07
SK-13
SK-20
SK-19
SK-18
SK-21
SK-22
SK-08
SK-30
SK-29
SK-24
SK-11
SK-27
SK-16
SK-25
SK-32
SI-01
SI-02
SI-03
SI-04
SI-05
SI-06・08
SI-07
SI-09
SD-03
SB-01
S=1:300
0
10
20
30m

挿図6　C区遺構図



挿図7　調査地・トレンチ位置図

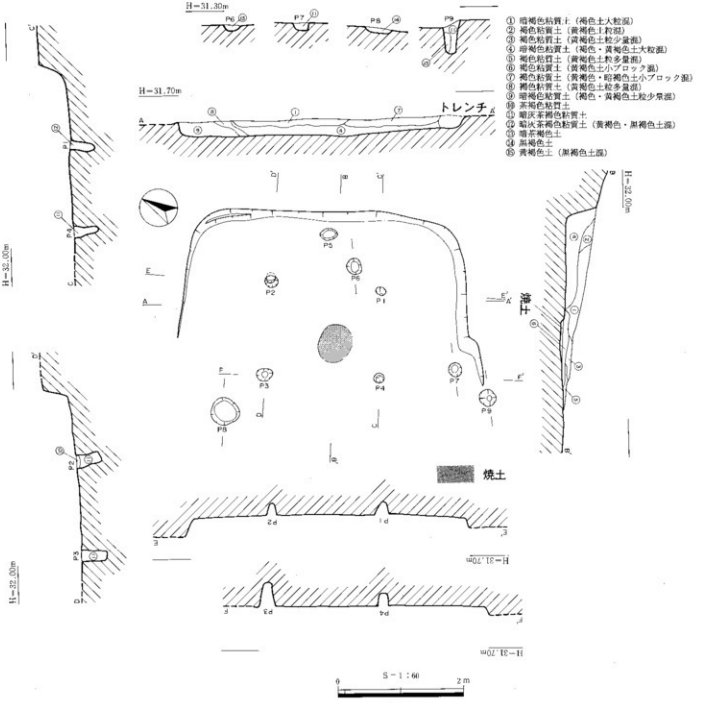
第三章　調査の内容

第１節　竪穴住居跡

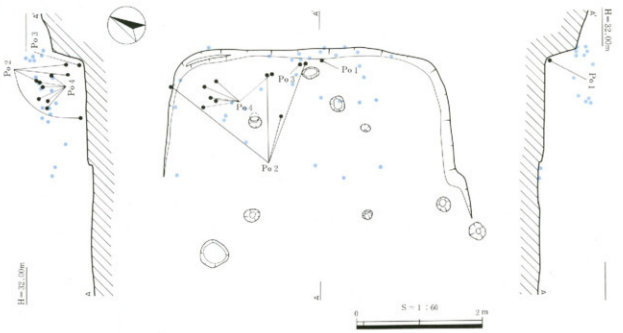
ＳＩ－01（挿図８～10　図版３・13）

位　置　　Ｃ区の中央南寄り、Ｊ16・17、Ｋ16・17グリッド中央付近で、舌状尾根南西側の斜面の標高30.9m～31.5m付近に位置する。北西側にＳＩ－02・07、南西側にＳＩ－05がある。

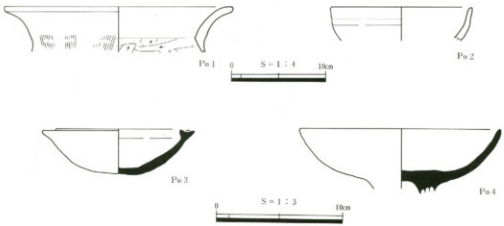
形　態　　斜面に立地しているため南西側が流失しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から平



挿図８　ＳＩ－01遺構図



挿図9　ＳＩ—01遺物出土状況図



挿図10　ＳＩ—01遺物実測図

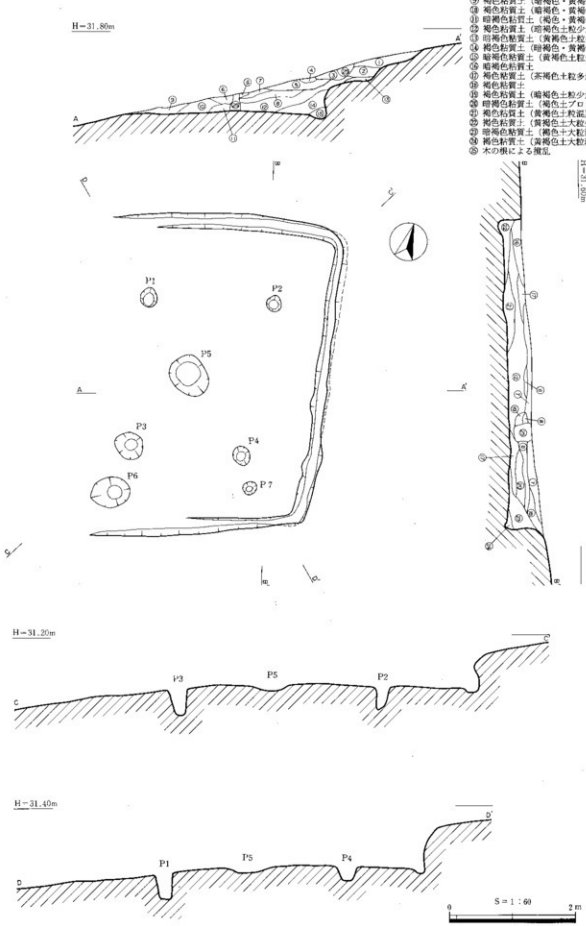
面形は隅丸方形を呈するものと考える。規模は東西1.7m以上、南北4.7mを測り、床面積は11.6㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.5mである。

遺構内にＰ１～９が検出され、このうちＰ１～４は主柱穴と考える。規模（長軸×短軸—深さ）は、それぞれＰ１'（0.17×0.15—0.37）m、Ｐ２（0.22×0.20—0.41）m、Ｐ３（0.26×0.21—0.42）m、Ｐ４（0.18×0.16—0.38）m、Ｐ５（0.37×0.19—0.06）m、Ｐ６（0.27×0.23—0.08）m、Ｐ７（0.23×0.21—0.13）m、Ｐ８（0.46×0.44—0.07）m、Ｐ９（0.27×0.21—0.13）mを測る。Ｐ５～９は用途不明である。

埋　土　埋土は９層に分層できる。推定される住居範囲の中央部に焼土が検出された。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕口縁部片Po１、赤色顔料を塗布した土師器高坏口縁部片Po２、須恵器坏身Po３、須恵器高坏Po４がある。このうちPo１・３は床面直上で出土した。

時　期　床面出土遺物より、古墳時代後期（７世紀前半）と推測する。



挿図11　ＳＩ—02遺構図

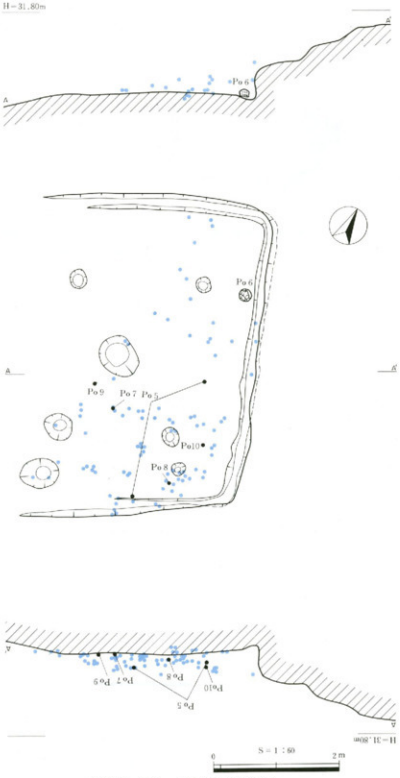
ＳＩ－02（挿図11～13　図版４・13）

位　置　Ｃ区の中央部西寄り、Ｊ17グリッドの中央付近で、西に向かって緩やかに下っていく標高30.5m～31.5m付近に位置する。南東側にＳＩ－01、東側にＳＩ－07がある。

形　態　斜面に立地しているため西側が流出しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から平面形は方形を呈するものと考える。規模は東西3.4m以上、南北4.9mを測り、床面積は16.7㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.42mを測る。

側溝は、南北壁の西側が流出しているが側壁に沿うように検出された。幅0.04m～0.22m、深さ最大0.09mを測る。東壁側の側溝は一部側壁をえぐるように掘り込まれている。

主柱穴は、Ｐ１～４で、規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（0.15×0.13－0.21）m、Ｐ２（0.12×0.11－0.19）m、Ｐ３（0.23×0.20－0.21）m、Ｐ４（0.16×0.13－0.10）mを測る。中央に中央ピットＰ５（0.34×0.28－0.04）mを検出した。

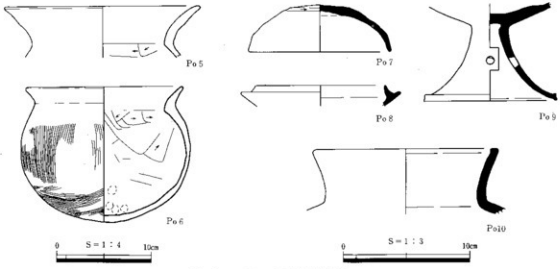


挿図12　ＳＩ－02遺物出土状況図

埋　土　埋土は24層に分層できる。これらは南西に向かって堆積しており、自然堆積が窺える。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕Po５・６、須恵器坏蓋Po７、須恵器坏身Po８、須恵器高坏Po９、須恵器壺Po10がある。このうち床面からは、Po６が伏せた状態で東側壁付近から、Po７・９が中央付近から出土した。

時　期　床面出土遺物より、古墳時代後期（７世紀中頃）と推測する。



挿図13　ＳＩ－02遺物実測図

ＳＩ－03（挿図14・15　図版５・13）

位　置　Ｃ区の中央部西寄り、Ｉ15・16、Ｊ15・16グリッドにまたがる中央付近で、西に向かって緩やかに下っていく標高28.9m～29.6m付近に位置する。西側はＳＳ－05を切る。

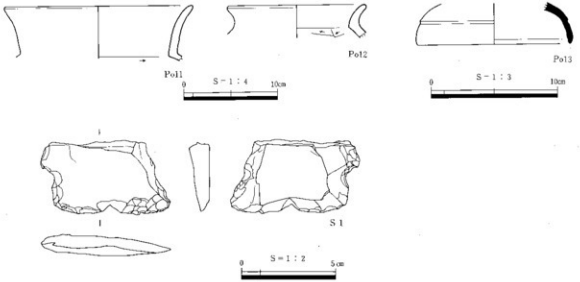
形　態　斜面裾に立地しており原形を留めていないが、残存する壁の状態から平面形は隅丸方形を呈するものと考える。規模は東西1.5m以上、南北3.5m以上を測り、床面積は5.2㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.65mを測る。

主柱穴と考えられるＰ１は、長軸0.39m×短軸0.38m、深さ0.13mを測るが、Ｐ１に対応するものは検出されなかった。Ｐ２・３については用途不明である。

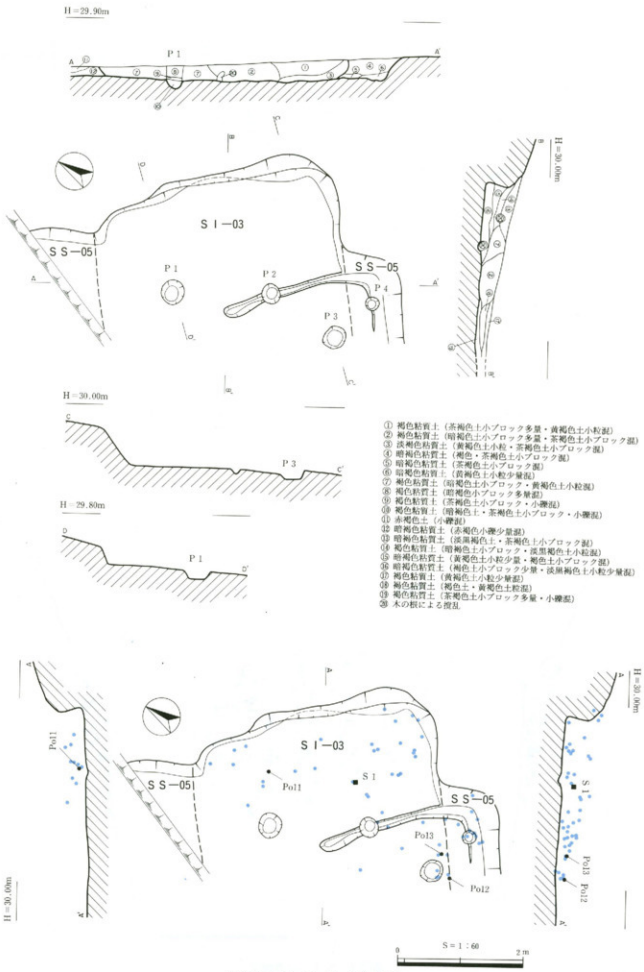
埋　土　埋土は14層に分層できる。これらは南西に向かって堆積しており、自然堆積が窺える。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕Po11・12、須恵器蓋坏Po13、打製石庖丁Ｓ１が検出された。いずれも浮いた位置での出土である。

時　期　床面出土の遺物がなく時期の特定はできないが、出土遺物は古墳時代後期（５世紀末～６世紀前半）に属するものである。



挿図14　ＳＩ－03遺物実測図



挿図15　SI—03・SS—05遺構図

挿図16　ＳＩ−04遺構図

ＳＩ－04（挿図16・17　図版５・14）

位　置　Ｃ区中央部、Ｊ15・Ｋ15グリッドの中間付近で、舌状に延びた尾根西側の急斜面の裾、標高29.7m～30.3m付近に位置する。北側はＳＳ－03と重複しており、上部をＳＳ－03に削平されている。

形　態　斜面に立地しているために西側が流失しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から平面形は隅丸方形を呈するものと考える。規模は東西2.0m以上、南北3.2mを測り、床面積は6.2m²以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.32mを測る。

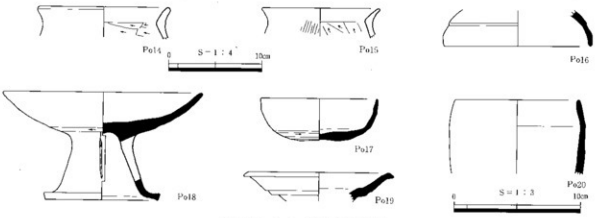
側溝は、南北の壁の西側が一部流失しているが側壁に沿うように検出された。幅0.11m～0.26m、深さ最大0.20mを測り、断面は逆台形を呈する。

主柱穴と考えられるものは検出されなかったが、北壁寄りにＰ１が検出された。規模は、長軸0.43m×短軸0.34m、深さ0.36mを測る。用途不明である。

埋　土　埋土は⑤～⑨の５層に分層できる。これらは南西に向かって堆積しており、自然堆積が窺える。⑧・⑨層は住居構築時の整地層と考える。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕口縁部Po14・15、須恵器坏蓋Po16、須恵器坏身Po17、須恵器高坏Po18、須恵器口縁部Po19、須恵器椀Po20がある。このうち床面からは、西側側溝付近でPo17が出土している。その他は埋土中からの出土である。また、Po20はＳＳ－03出土の破片と接合した。

時　期　床面出土遺物より、古墳時代後期（７世紀中頃）と推測する。



挿図17　ＳＩ－04遺物実測図

ＳＩ－05（挿図18・19　図版６・14）

位　置　Ｃ区南西部、Ｊ13グリッド南西寄り、舌状尾根南西側の斜面の標高29.2m～29.9m付近に位置する。北東側にＳＩ－01、北側にＳＩ－02・07がある。本遺構の床面下でＳＫ－32が検出された。

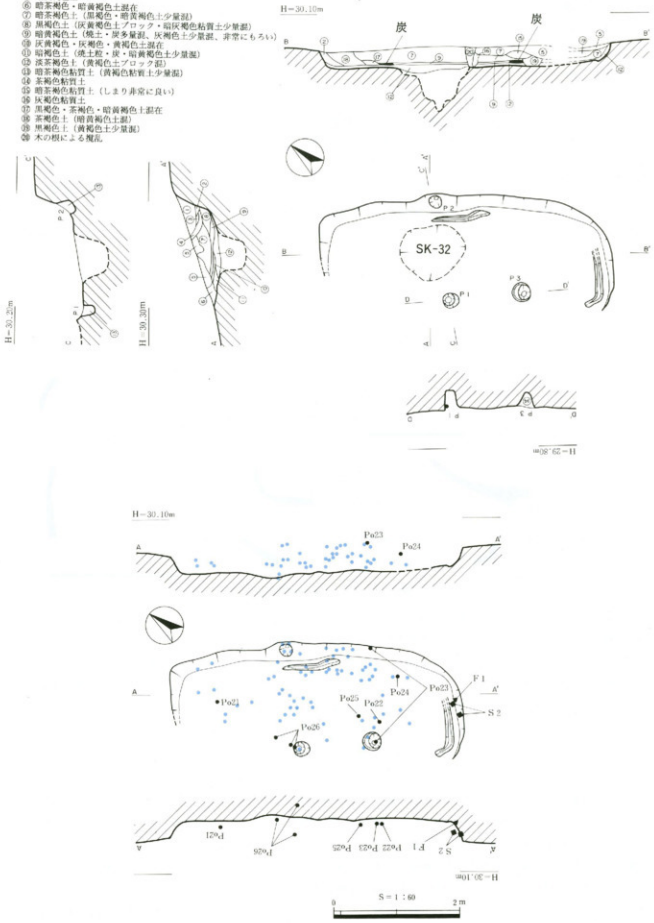
形　態　遺存状態があまり良くなく、南西側が流失しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から方形を呈するものと考えられる。規模は、東西1.1m以上、南北4.7mを測り、床面積は5.2m²以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.35mを測る。

側溝は、東壁と南壁に沿ってわずかな範囲で検出された。規模は幅0.1m前後、深さ最大0.03mを測る。

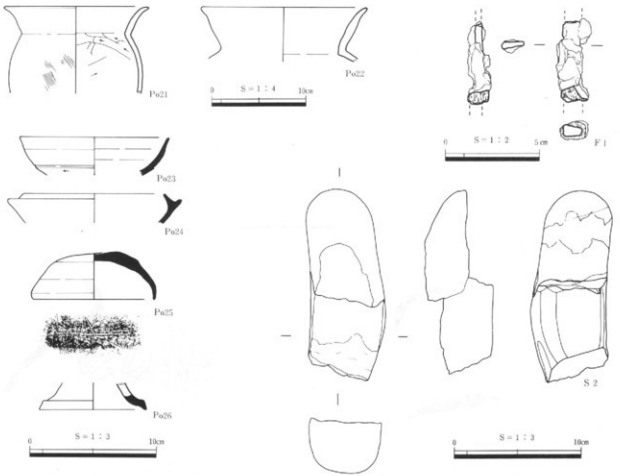
遺構内にＰ１～３が検出され、このうちＰ３は主柱穴と考えられるが、これに対応するピットは検出できなかった。他は用途不明である。規模（長軸×短軸－深さ）は、それぞれＰ１（0.13×0.12－0.15）m、Ｐ２（0.10×0.06－0.13）m、Ｐ３（0.16×0.15－0.11）mを測る。

埋　土　埋土は19層に分層できる。堆積状況より⑫層淡茶褐色土（黄褐色土ブロック混）は、貼床と考えられる。⑫層上面で炭と焼土を検出した。炭は東壁に近いところに広がっており、東壁南側では、ある程度の大きさをもった炭が点在し、壁に立てかかった状態で出土したものもある。東壁北側では、小さな炭片が、薄く部分的に広がっている。焼土は床面全体に広がり、東壁付近ほど層が厚く良好な状態で残っ

① 黒褐色土
② 灰黄褐色土
③ 黒褐色・暗灰褐色土混在（灰黄褐色ブロック混）
④ 暗灰褐色粘質土（灰黄褐色土少量混）
⑤ 暗灰褐色土
⑥ 暗茶褐色・暗黄褐色土混在
⑦ 暗茶褐色土（黒褐色・暗黄褐色土少量混）
⑧ 黒褐色土（灰黄褐色土ブロック・暗灰褐色粘質土少量混）
⑨ 暗黄褐色土（焼土・炭多量混、灰褐色土少量混、非常にもろい）
⑩ 灰黄褐色・灰褐色・黄褐色土混在
⑪ 暗褐色土（焼土粒・炭・暗黄褐色土少量混）
⑫ 淡茶褐色土（黄褐色土ブロック混）
⑬ 暗茶褐色粘質土（黄褐色粘質土少量混）
⑭ 茶褐色粘質土
⑮ 暗茶褐色粘質土（しまり非常に良い）
⑯ 灰褐色粘質土
⑰ 黒褐色・茶褐色・暗黄褐色土混在
⑱ 茶褐色土（暗黄褐色土混）
⑲ 黒褐色土（黄褐色土少量混）
⑳ 木の根による攪乱



挿図18　ＳＩ－05遺構図



挿図19　ＳＩ－05遺物実測図

ており、東壁の一部にも及んでいる。以上の点から焼失住居の可能性が考えられる。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕Po21、土師器口縁部片Po22、須恵器高坏Po23、須恵器坏身Po24、須恵器坏蓋Po25、鏃Ｆ１、磨石Ｓ２が出土した。このうちPo21が床面から出土した。

時　期　出土遺物より、古墳時代後期（６世紀前半）と推測する。

ＳＩ－06・08（挿図20・21　図版７・15）

位　置　Ｃ区の北部、Ｊ19・20、Ｋ19・20グリッドにまたがる中央付近で、北に向かって緩やかに傾斜する標高29.0m～29.8m付近に位置する。

形　態　斜面に立地しているため北部が流出しており原形を留めていないが、残存する壁の状態から平面形は

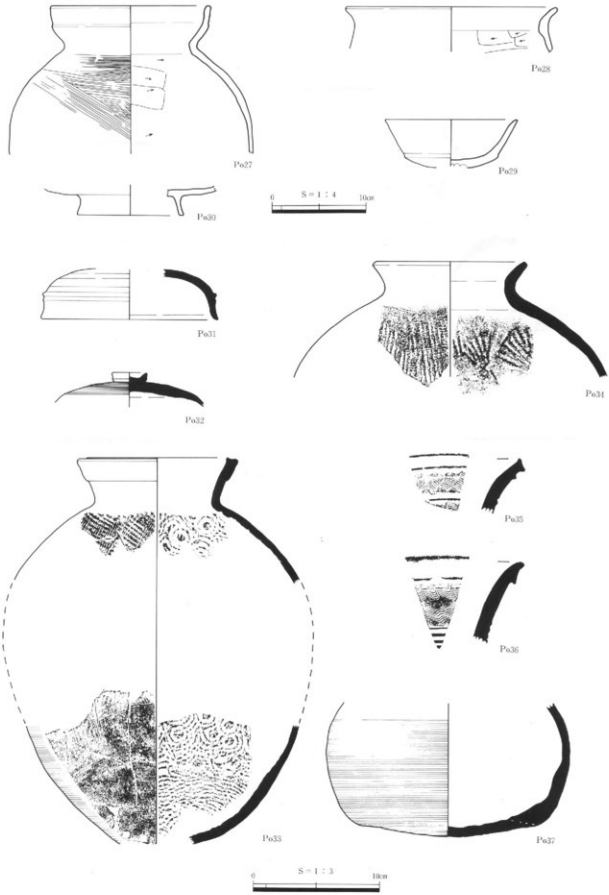
SI-06　長方形を呈するものと考える。規模は東西5.95m、南北6.6m以上を測り、床面積は33.32㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い南壁で最大0.78mを測る。

側溝は、南側が流出しているが他の三方で検出された。幅0.16m～0.28m、深さ最大0.08mを測り、断面は逆台形を呈する。

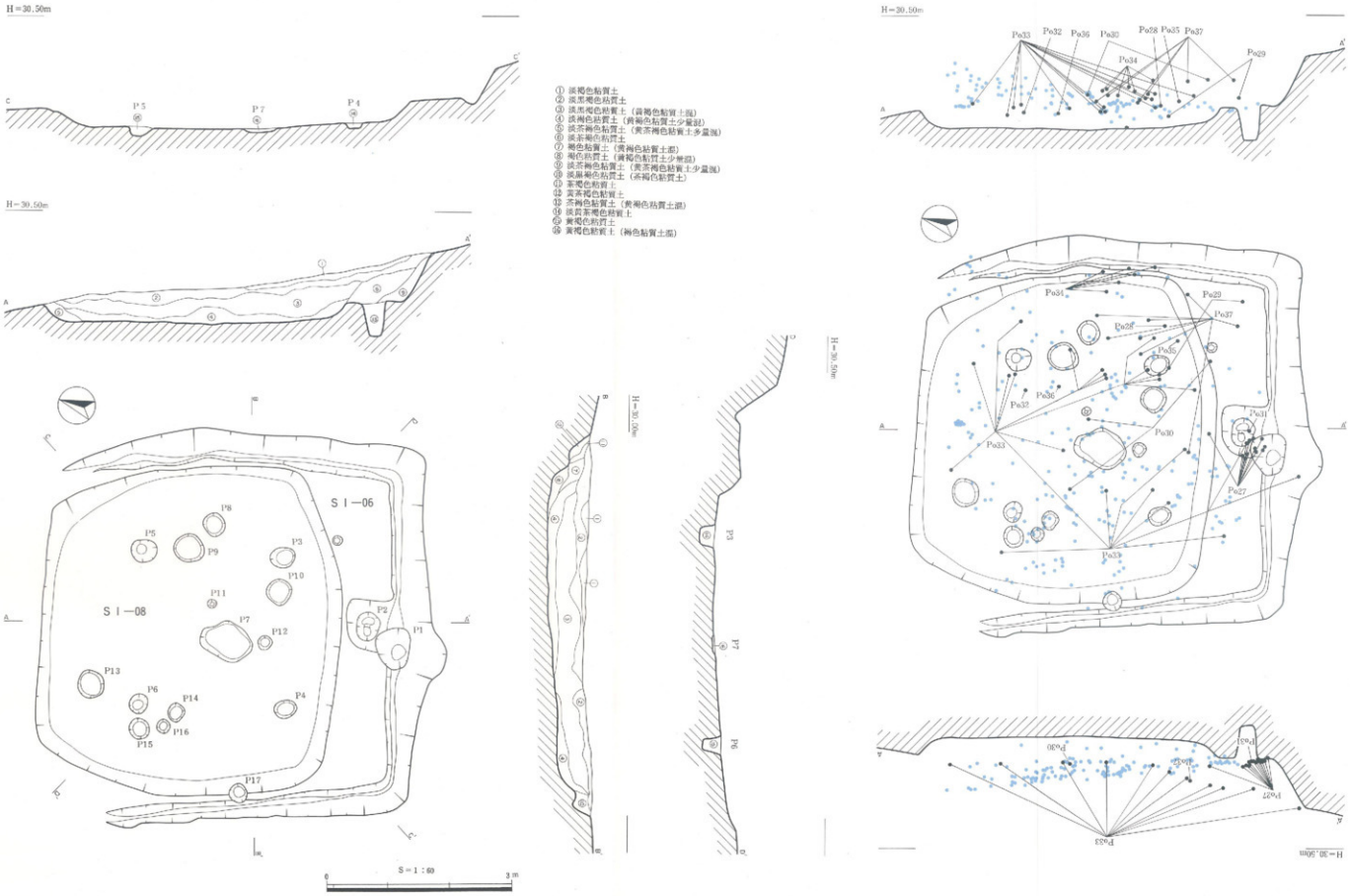
主柱穴はＰ３～６と考えられ、規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ３（0.38×0.37－0.24）m、Ｐ４（0.36×0.28－0.08）m、Ｐ５（0.42×0.41－0.14）m、Ｐ６（0.34×0.28－0.30）mを測る。南壁際中央部でＰ１・２を検出、Ｐ１の用途は不明であるが、Ｐ２は主柱穴とも考えられる。

SI-08　ＳＩ－08の平面形は、隅丸長方形を呈している。壁面の遺存状態も良く、規模は東西4.95m、南北4.45mを測り、床面積は19.4㎡である。残存壁高は最大0.50mを測る。

主柱穴となるピットは検出されなかったが、中央ピットＰ７を検出し、規模は（0.70×0.62－0.06）m



挿図20　ＳＩ—06・08遺物実測図



挿図21　S I −06・08遺構図

であった。他のピットについては用途不明である。

埋　土　埋土は16層に分層できる。これらは北に向かって堆積しており、自然堆積が窺える。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに、土師器甕Po27・28、土師器高坏Po29、赤色顔料を塗布した土師器台付椀Po30、須恵器坏蓋Po31・32、須恵器甕Po33・34、須恵器口縁Po35・36、須恵器底部Po37がある。このうち、ＳＩ―06の床面からはPo27・29・31が出土した。ＳＩ―08の床面からは遺物は出土しなかった。

時　期　ベルト断面により、ＳＩ―06の埋没後ＳＩ―08を構築したと考えられる。

ＳＩ―06については床面出土遺物より、古墳時代中期後半（５世紀後半）と考える。ＳＩ―08については、床面より遺物が出土しなかったが、切り合い関係より古墳時代中期後半以降と考える。

ＳＩ―07（挿図22・23　図版16）

位　置　Ｃ区の中央部、Ｊ17グリッド東寄り付近で、舌状尾根西側の斜面、標高31.4m～31.9m付近に位置する。南側にＳＩ―01、西側にＳＩ―02がある。

形　態　斜面に立地しているために東側の側壁とそれに続く南側の側壁の一部以外は流失しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から隅丸方形を呈するものと考える。規模は東西（Ｅ－Ｅ'）1.6m以上、南北4.0m以上を測り、床面積は6.4㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い東壁で最大0.32mを測る。

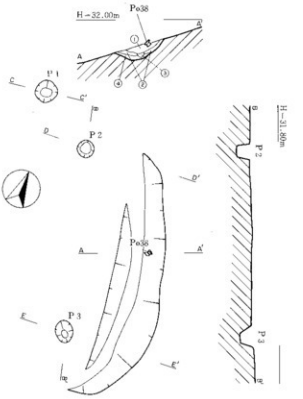
側溝は、東側壁の中央部で一部検出された。幅0.16m～0.29m、深さ最大0.08mを測る。断面は逆台形を呈する。

主柱穴はＰ２・３と考えられる。それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ２（0.28×0.36－0.09）m、Ｐ３（0.36×0.29－0.27）mを測る。Ｐ１（0.36×0.36－0.09）mは用途不明である。

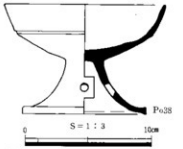
埋　土　埋土は４層に分層でき、自然堆積が窺える。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに須恵器高坏Po38がある。これは埋土上面から出土である。

時　期　Po38は古墳時代後期（６世紀中頃）のものであるが、埋土上面からの出土で



挿図23　ＳＩ―07遺構図



挿図22　ＳＩ―07遺物実測図

あるためＳＩ―07の時期決定の資料としては問題を含み、断定はできない。

ＳＩ―09（挿図24）

位　置　Ｃ区の北部、Ｊ21グリッド付近で北に向かって緩やかに傾斜する標高28.00m付近に位置する。

形　態　西側は調査区外に及び、また北側は斜面に立地しているために流失しており原形を留めていないが、残存している壁の状態から平面形は隅丸方形を呈するものと考える。規模は東西で3.6m以上、南北1.4m以上を測り、床面積は5.0㎡以上である。残存壁高は、最も遺存状態の良い南壁で最大0.42mを測る。

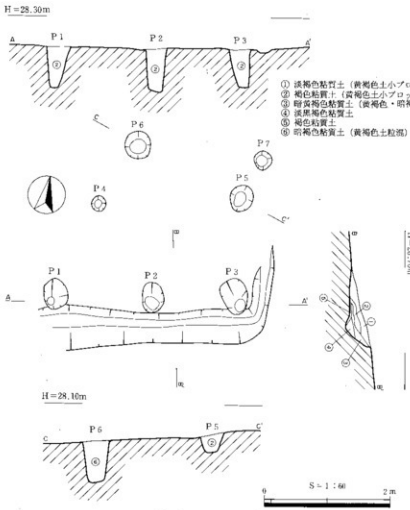
側溝は、東・南壁に沿うように検出した。幅0.09m～0.12m、深さ最大0.06mを測り、断面は逆台形を呈する。

主柱穴と考えられるピットはＰ１～３・６が検出された。規模（長軸×短軸―深さ）は、Ｐ１（0.49×0.36―0.64）m、Ｐ２（0.48×0.34―0.68）m、Ｐ３（0.57×0.34―0.60）m、Ｐ６（0.45×0.43―0.65）mを測る。Ｐ６はＰ２に対応すると考えられるが、Ｐ１・３に対応する主柱穴は検出できなかった。Ｐ４・５は用途不明である。

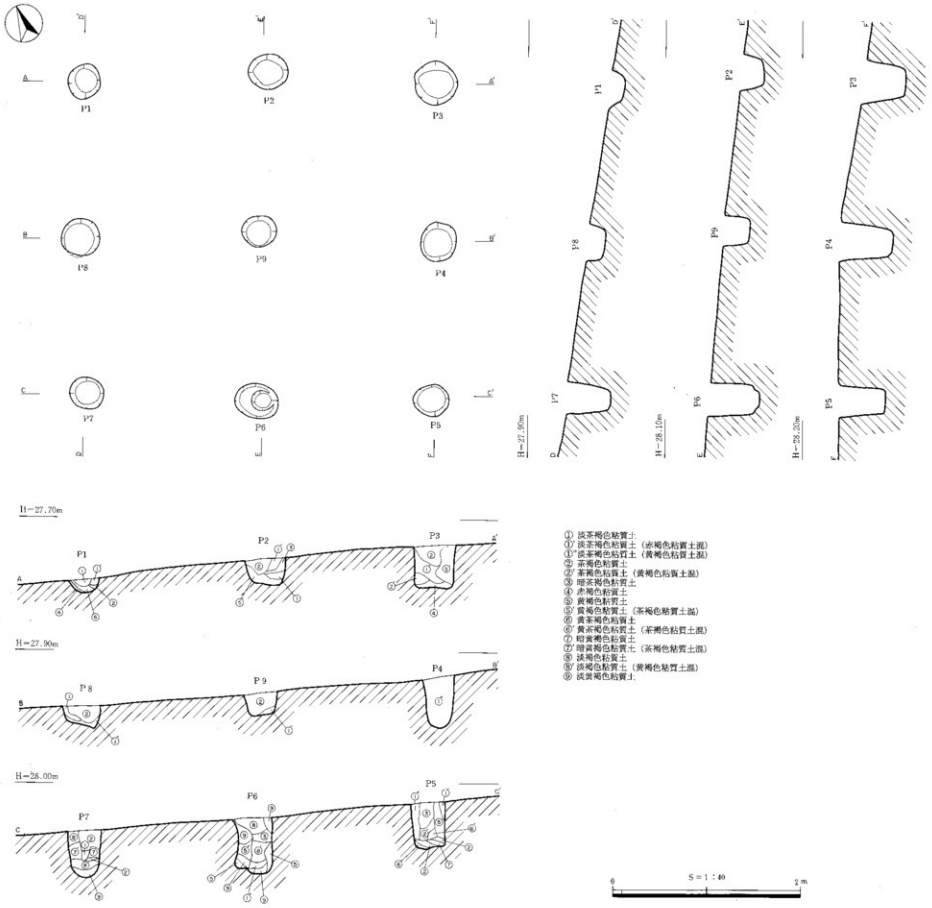
埋　土　埋土は５層に分層できる。これらは北に向かって堆積しており、自然堆積が窺える。

遺　物　出土しなかった。

時　期　特定できない。



挿図24　ＳＩ―09遺構図



插図25　ＳＢ－01遺構図

第２節　掘立柱建物跡

ＳＢ－01（挿図25　図版８）

位　置　Ｃ区の北部東側、M19～N20グリッドにかけて、舌状尾根が北へ下る斜面途中の平坦部、標高27.0m～27.8m付近に位置している。

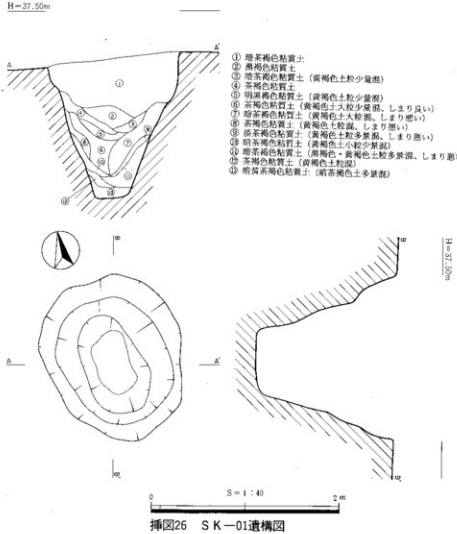
形　態　桁行２間・3.65m、梁行２間・3.40mを測る掘立柱建物跡である。主軸方向はN-22°-Eである。柱穴は９個で、規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（0.34×0.37－0.14）m、Ｐ２（0.43×0.37－0.27）m、Ｐ３（0.44×0.47－0.43）m、Ｐ４（0.36×0.42－0.54）m、Ｐ５（0.38×0.34－0.48）m、Ｐ６（0.45×0.36－0.58）m、Ｐ７（0.37×0.33－0.49）m、Ｐ８（0.41×0.40－0.21）m、Ｐ９（0.37×0.32－0.23）mを測る。柱穴間距離は、Ｐ１～２、Ｐ２～３と順にＰ８～１まで測ると、1.93m、1.72m、1.71m、1.70m、1.80m、1.86m、1.65m、1.71mとなり、中央のＰ９からＰ２、Ｐ４、Ｐ６、Ｐ８までは、それぞれ1.70m、1.84m、1.82m、1.90mを測る。

埋　土　ピットによって異なるが、１～16層に分層できる。そのうち、Ｐ５・６には柱痕跡と思われる層が認められる。

遺　物　出土しなかった。

時　期　不明である。

第３節　土坑・土壙



挿図26　ＳＫ－01遺構図

ＳＫ－01（挿図26　図版９）

位　置　Ｂ区の南西部、Ｆ４グリッドの西寄りで緩やかに西側に向けて地形が下っていく標高37.0m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともにややいびつな楕円形を呈し、断面形は検出面近くが直立気味でそれ以下が徐々に狭まる逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.75m×短軸1.47m、底面で長軸0.66m×短軸0.38mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは1.52mを測る。

埋　土　埋土は13層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

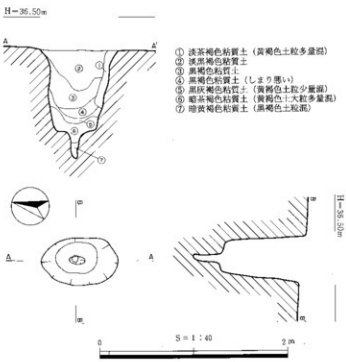
性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。

ＳＫ－02（挿図27　図版９）

位　置　Ｂ区の西側、Ｅ８グリッドの西寄りで緩やかに西側に向けて地形が下っていく標高36.2m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに楕円形を呈し、断面形は壁の立ち上がりが直立気味の逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.82m×短軸0.52m、底面で長軸0.43m×短軸0.32m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.97mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は検出面で長軸0.16m×短軸0.08m、深さ0.28mを測る。

埋　土　埋土は７層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。



挿図27　ＳＫ－02遺構図

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－03（挿図28）

位　置　Ｂ区の東側、Ｉ６グリッドの北西側で緩やかに北東側に向けて地形が下っていく標高38.6m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともにややいびつな円形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は、検出面で長軸2.41m×短軸2.34m、底面で長軸1.54m×短軸1.48mを測る。残存する部分の底面までの最大の深

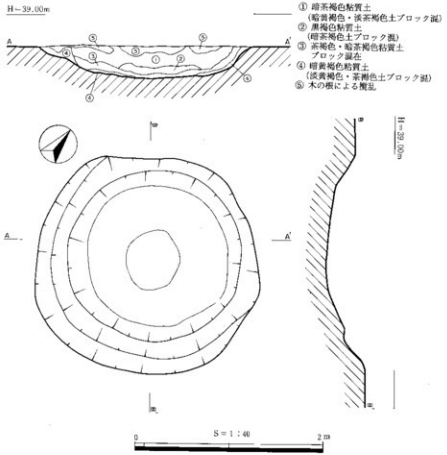
さは0.34mを測る。

埋　土　埋土は5層に分層でき、ブロック状の混在である。堆積状況から人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。



挿図28　ＳＫ－03遺構図

ＳＫ－04（挿図29）

位　置　Ｃ区の南西側、H14グリッドのほぼ中央で北東に向けて地形が下っていく標高29.7m付近に位置する。

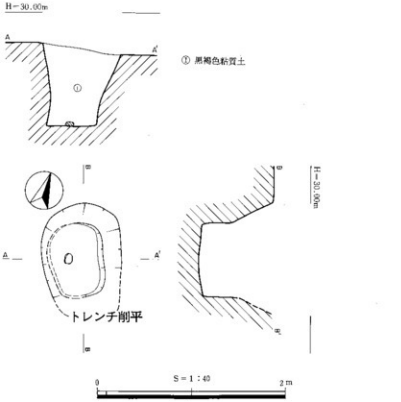
形　態　平面形は、第４トレンチにより一部破壊してしまったことと壁体の崩落が早かったために実測が不十分であったが、残存部より検出面・底面ともに隅丸長方形を呈すると推定され、断面形は下部でやや垂直に降りる逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.00m以上×短軸0.84m、底面では長軸0.77m×短軸0.25m以上を測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.83mを測る。

埋　土　埋土は黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　黒ボク層中から掘り込まれているが、遺物の出土がないため時期の特定はできない。

性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。



挿図29　ＳＫ－04遺構図

ＳＫ―05（挿図30　図版９）

位　置　　Ｃ区の南側、Ｊ12グリッドの東寄りで北に向けて急な斜面となる標高35.7m付近に位置する。

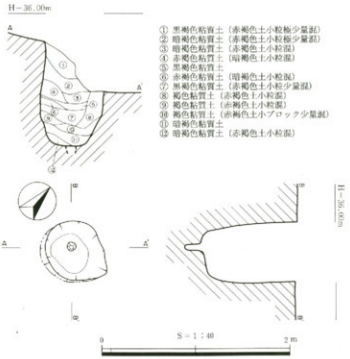
形　態　　上部はＳＤ―02掘削時に大きく削平を受けていると考えられるが、平面形は検出面・底面ともにいびつな円形を呈し、断面形はほぼ垂直に降りる長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.74m×短軸0.61m、底面で長軸0.43m×短軸0.39m、残存する部分の底面までの最大の深さは1.11mを測る。底面よりピットを検出し、規模は検出面で長軸0.10m×短軸0.09m、深さ0.17mを測る。

埋　土　　埋土は12層に分層でき、基本となる土は褐色粘質土である。堆積状況から壁体の崩落、上部からの流れ込みが認められる。底面ピットの埋土は不明である。

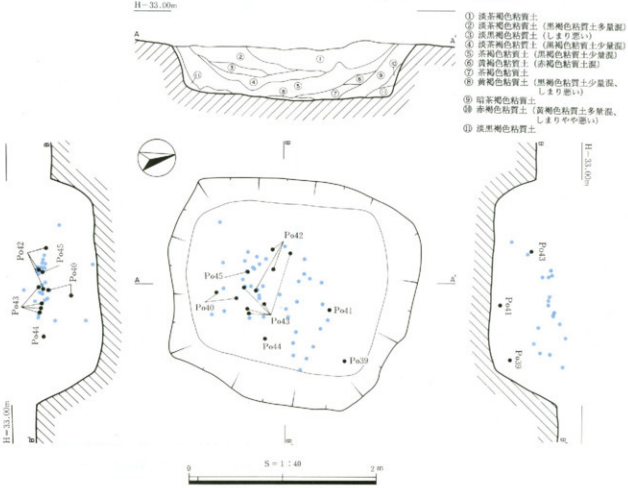
遺　物　　遺物は出土しなかった。

時　期　　特定できない。

性　格　　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



挿図30　ＳＫ―05遺構図



挿図31　ＳＫ―06遺構図

ＳＫ－06（挿図31・32　図版10・16）

位　置　　Ｃ区のほぼ中央、K17グリッドの北寄りで尾根を北西に下った標高32.7m付近に位置する。

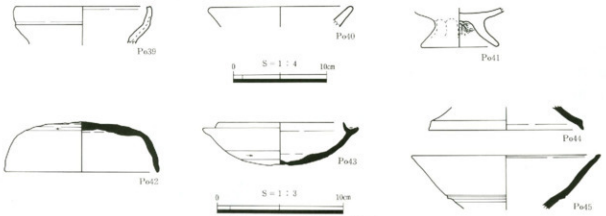
形　態　　平面形は、検出面・底面ともにいびつな隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸2.66m×短軸2.41m、底面で長軸2.10m×短軸1.73mを測る。残存する部分の底面までの深さは最大0.62mを測る。

埋　土　　埋土は11層に分層できる。

遺　物　　出土遺物は、図化できたものに土師器甕口縁Po39・40、土師器低脚坏脚部Po41、須恵器坏蓋Po42、須恵器坏身Po43、須恵器高坏脚部Po44、須恵器口頸部Po45がある。Po41は底面出土遺物である。

時　期　　底面出土遺物より、古墳時代中期末と推測する。

性　格　　不明である。



挿図32　ＳＫ－06遺物実測図

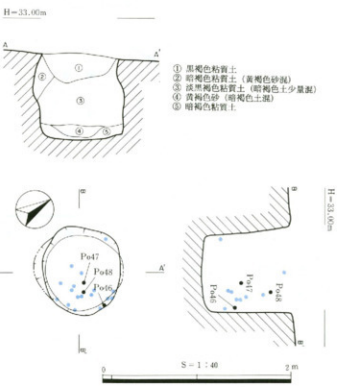
ＳＫ－07（挿図33・34　図版16）

位　置　　Ｃ区の中央北側、L18グリッドの南寄りで舌状に延びる尾根の頂部近く標高32.7m付近に位置する。

形　態　　平面形は、検出面・底面ともにいびつな円形を呈し、断面形は下部でやや曲がっているものの垂直に降りる長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.97m×短軸0.84m、底面で長軸0.80m×短軸0.77mを測る。残存する部分の最大の深さは0.88mを測る。

埋　土　　埋土は５層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。④層は壁体の崩落と考えられる。

遺　物　　埋土中で縄文晩期の口縁部Po46～48が出土した。Po46・47は口縁部に刻み目を施すもの。Po48は口縁端部に刻み目を施し、外面に刻み目突帯を貼り付けるもの。



挿図33　ＳＫ－07遺構図

挿図34　ＳＫ－07遺物実測図

時　期　出土遺物より縄文時代晩期後半と考えられる。

性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。

ＳＫ－08（挿図35）

位　置　Ｃ区の北部、Ｌ20グリッドの南東寄りで北に向けて地形が下っていく標高28.8m付近に位置する。

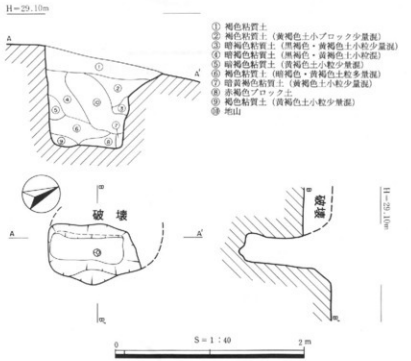
形　態　平面形は、検出面は掘り過ぎのため遺構の肩を破壊してしまい不明確であるが、底面ともにいびつな長方形を呈すると考えられ、断面形は上部北側で摺鉢状、下部でほぼ垂直に降りる長方形を呈する。規模は、検出面で長軸1.23m×短軸0.64m以上、底面で長軸0.77m×短軸0.28m、残存する部分の最大の深さは1.05mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は検出面で径0.08m、深さ0.06mを測る。

埋　土　埋土は９層に分層でき、基本となる土は暗褐色粘質土である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　形態は落し穴に類似しているが、埋土が落し穴と考えられる土坑に共通する黒褐色系の単純層をもたないため判断できない。不明である。

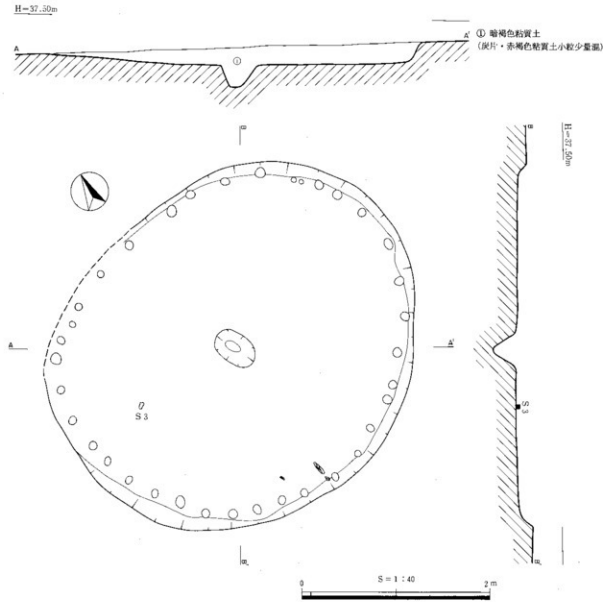


挿図35　ＳＫ－08遺構図

ＳＫ－09（挿図36・37　図版10・16）

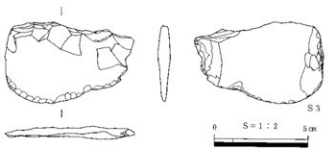
位　置　Ｂ区の北側、Ｇ10グリッドの南西寄りで緩やかに南西側に向けて地形が下っていく標高37.3m付近に位置する。

形　態　平面形は、北西の肩を一部欠くものの検出面・底面ともに楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸4.19m×短軸3.52m、底面で長軸3.96m×短軸3.35m、残存する部分の最大の深さは0.14mを測る。底面中央よりピットを検出し、その規模は長軸0.47m×短軸0.31m、深さ0.23mを測る。また、底面の壁際に沿って径0.1m前後の小穴が狭い間隔で底面全体に巡る。



挿図36　ＳＫ－09遺構図

埋　土　　埋土は暗褐色粘質土の単層である。
遺　物　　底面直上より石匙Ｓ３が出土した。
時　期　　特定できない。
性　格　　時期を決定できる遺物がなく、遺構の上部を削平されているが、形態から考えて縄文時代の住居跡の可能性が考えられる。



挿図37　ＳＫ－09遺物実測図

ＳＫ－10（挿図38・39　図版16）

位　置　　Ｃ区の東側、M15グリッドの南寄りの緩やかに北東側に向けて地形が下っていく標高35.5m付近に位置する。

形　態　　平面形は、検出面・底面ともにいびつな楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は、検出面で長軸1.08m×短軸0.77m、底面で長軸0.69m×短軸0.38mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さ

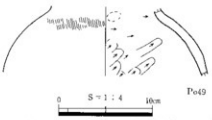
は0.15mを測る。

埋　土　埋土は2層に分層できる。堆積状況から自然堆積が認められる。

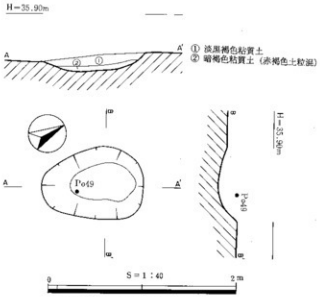
遺　物　底面より土師器甕胴部片Po49が1出土した。

時　期　出土遺物より古墳時代と推測する。

性　格　不明である。



挿図38　ＳＫ－10遺物実測図



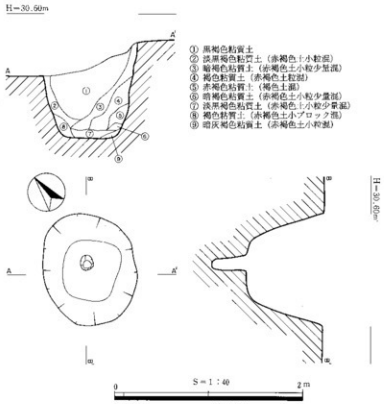
挿図39　ＳＫ－10遺構図

ＳＫ－11（挿図40）

位　置　C区の西側、J18グリッドの北西寄りの緩やかに北西側に向けて地形が下っていく標高30.3m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面は楕円形、底面はほぼ隅丸方形を呈しており、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸1.2m×短軸1.0m、底面で長軸0.64m×短軸0.58m、残存する部分の底面までの最大の深さは1.02mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は検出面で長軸0.16m×短軸0.15m、深さ0.38mを測る。

埋　土　埋土は9層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。底面ピットの埋土は不明である。



挿図40　ＳＫ－11遺構図

遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　特定できない。
性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－12（挿図41）

位　置　Ｃ区の南東側、K14グリッドの北東寄りの緩やかに南西側に向けて地形が下っていく標高30.6m付近に位置する。

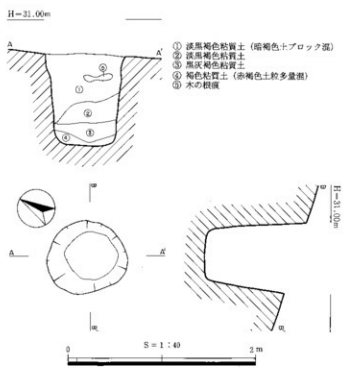
形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな円形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.86m×短軸0.78m、底面で長軸0.51m×短軸0.50mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.97mを測る。

埋　土　埋土は４層に分層できる。基本となる土は、黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。



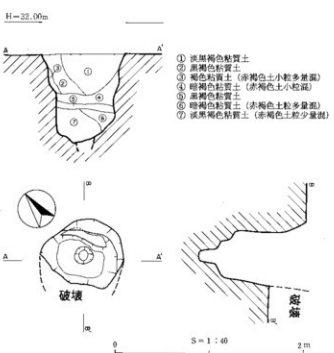
挿図41　ＳＫ－12遺構図

ＳＫ－13（挿図42）

位　置　Ｃ区のほぼ中央部、L18グリッドの中央で緩やかに北側に向けて地形が下り始める標高31.7m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面は南半分が破壊されているがほぼ円形を呈すると推測され、底面は円形を呈し、断面形は凸凹しながら検出面以下が徐々に狭まる逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.87m×短軸0.71m以上、底面で長軸0.50m×短軸0.33mを測り、残存する部分の底面までの最大の深さは0.94mを測る。底面よりピットを検出した。その規模は長軸0.19m×短軸0.18m、深さ0.23mを測る。

埋　土　埋土は７層に分層できる。基本となる土は、黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。底面ピットの埋土は不明である。



挿図42　ＳＫ－13遺構図

遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　特定できない。
性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

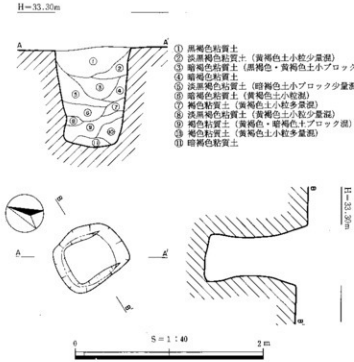
ＳＫ－14（挿図43）

位　置　Ｃ区のほぼ中央部、Ｋ16グリッドの中央で緩やかに南西側に向けて地形が下り始める標高33.0m付近に位置する。

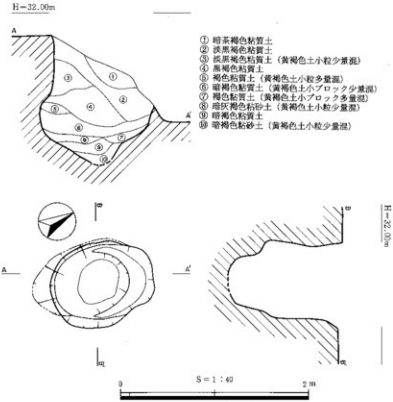
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は検出面と底面の中程が狭まっており、壁体が外反したような形を呈する。規模は、検出面で長軸0.76m×短軸0.64m、底面で長軸0.59m×短軸0.57mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは1.04mを測る。

埋　土　埋土は11層に分層できる。基本となる土は、黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　特定できない。
性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。



挿図43　ＳＫ－14遺構図



挿図44　ＳＫ－15遺構図

ＳＫ－15（挿図44）

位　置　Ｃ区の南隅、Ｋ13グリッドの南東隅で緩やかに南西側に向けて地形が下っていく標高31.8m付近に位置する。

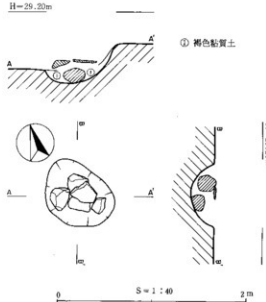
形　態　上部をＳＳ－01によって切られているが、平面形は検出面・底面ともに楕円形を呈すると推測され、断面形は不定形である。規模は、検出面で長軸1.10m×短軸0.96m、底面で長軸0.51m×短軸0.43mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは1.36mである。遺構断面図の底部破線部分を上面とする底面ピットがあったと推測されるが、直下に水脈があり検出することはできなかった。

埋　土　埋土は10層に分層できる。基本となる土は、⑤・⑥層の上部と下部で異なっており、上部では黒褐色粘質土、下部では褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。



挿図45　ＳＫ－16遺構図

ＳＫ－16（挿図45）

位　置　Ｃ区の西隅、Ｉ18グリッドの南隅で緩やかに西側に向けて地形が下っていく標高28.9m付近に位置する。

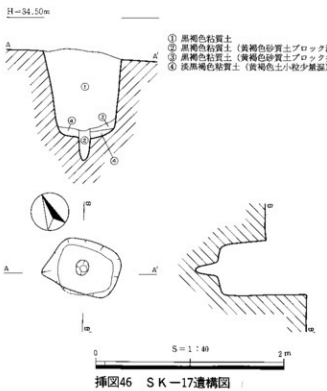
形　態　平面形は、検出面は楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は、検出面で長軸0.81m×短軸0.63mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.27mである。

埋　土　埋土は褐色粘質土の単層である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。なお、土坑中央に自然石が検出されたが、人為的なものかどうかは判断できなかった。



挿図46　ＳＫ－17遺構図

ＳＫ－17（挿図46）

位　置　Ｃ区の南西部、Ｇ13グリッドのほぼ中央で標高34.1m付近に位置する。本遺構はＳＤ－02に北東側を切られる状態で検出した。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.73m×短軸0.56m、底面では長軸0.63m×短軸0.57m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.95mを測る。底面でピットを検出し、その規模は長軸0.17m×短軸0.13m、深さ0.24mを測る。

埋　土　埋土は4層に分層でき、基本となる土は黒褐色粘質土である。②層は④層の上面から掘り込んだ形状を呈し、杭の痕跡を示すものと思われる。杭の存在中に③・④層が堆積し、杭の腐朽後に②層が杭痕跡に堆積したものと推測する。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－18（挿図47）

位　置　Ｃ区の北部、Ｌ20グリッドの南東寄りで標高27.8m付近に位置する。

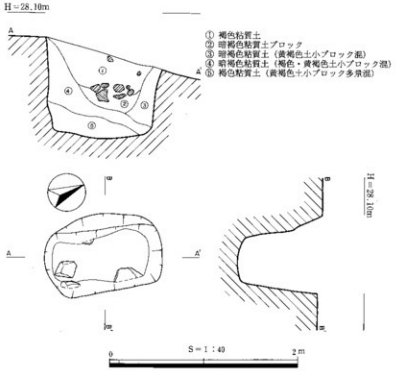
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.25m×短軸0.83m、底面で長軸1.04m×短軸0.56mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.90mを測る。

埋　土　埋土は5層に分層でき、基本となる土は暗褐色粘質土である。②～⑤層は人為的な埋め戻しの可能性がある。

遺　物　埋土中より礫群を検出したが、平面実測は行えなかった。また、底面付近からも石を検出したが、自然石であった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。

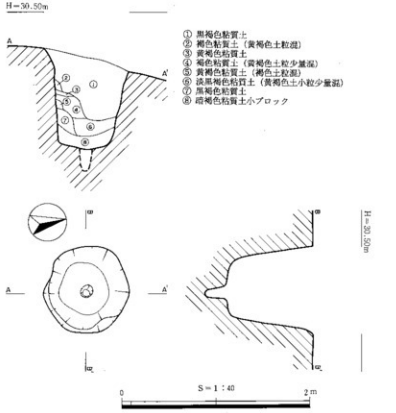


挿図47　ＳＫ－18遺構図

ＳＫ－19（挿図48）

位　置　Ｃ区の北東部、M18グリッドの東寄りで、舌状尾根が北側に下る緩斜面上の標高30.1m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面では長軸0.92m×短軸0.90m、底面では長軸0.58m×短軸0.52m、残存する部分の底面までの最大の深さは1.0mを測る。底面でピットを検出し、その規模は長軸0.14m×短軸0.12m、深さ0.24mを測る。



挿図48　ＳＫ－19遺構図

埋　土　埋土は8層に分層でき、基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から斜面上部からの流れ込みが認められる。底面ピットの埋土は不明である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－20（挿図49　図版９）

位　置　Ｃ区のほぼ中央、M17・18グリッドの中間で舌状尾根の頂部から斜面にかわる標高31.9m付近に位置する。

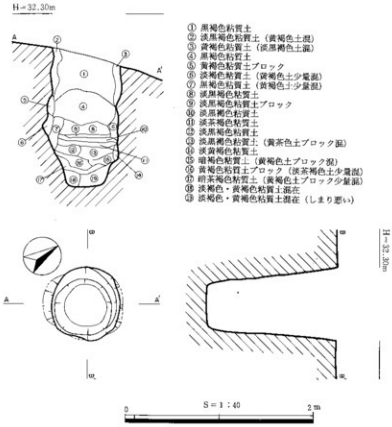
形　態　平面形は、検出面・底面ともにほぼ円形を呈し、断面形はいびつな長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.77m×短軸0.68m、底部は長軸0.46m×短軸0.43mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは1.45mを測る。

埋　土　埋土は19層に分層でき、基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。②・③・⑤・⑥層は壁体の崩落と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットは検出されなかったが、底面ピットの存在する土坑に共通する黒褐色粘質土を基本土層とする自然堆積であることから、落し穴と推測する。

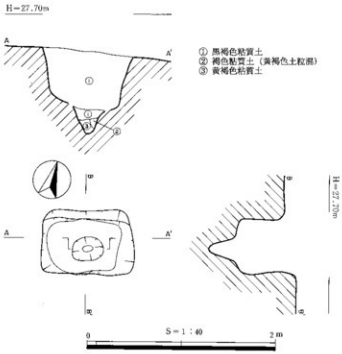


挿図49　ＳＫ－20遺構図

ＳＫ－21（挿図50）

位　置　Ｃ区の北部、M19グリッドの北寄りで標高27.4m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに長方形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.98m×短軸0.77m、底面で長軸0.75m×短軸0.55m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.63mを測る。底面にピットを検出し、その規模は長軸0.32m×短軸0.25m、深さ0.28mを測る。



挿図50　ＳＫ－21遺構図

埋　土　埋土は3層に分層でき、基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－22（挿図51）

位　置　Ｃ区の北部、M20グリッドの南東寄りで標高26.8m付近に位置する。

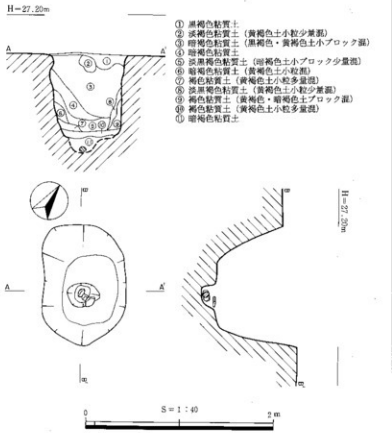
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.29m×短軸0.87m、底面で長軸0.74m×短軸0.58m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.86mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は長軸0.36m×短軸0.26m、深さ0.17mを測る。

埋　土　埋土は11層に分層でき、基本となる土は暗褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　底面ピット付近及びピット内より石を検出した。杭の固定材として用いられたと考えられる。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



挿図51　ＳＫ－22遺構図

ＳＫ－23（挿図52）

位　置　Ｃ区の中央部、L17グリッド南西寄りで標高33.1m付近に位置する。本遺構はＳＤ－03に切られている。

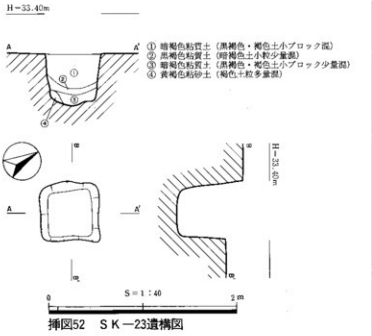
形　態　平面形は、検出面・底面ともに方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.63m×短軸0.61m、底面で長軸0.48m×短軸0.46mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.67mを測る。

埋　土　埋土は4層に分層でき、基本となる土は暗褐色粘質土である。④層は壁体からの崩落と考えられる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットは検出されなかったが、底面ピットの存在する土坑に共通する土層堆積を示すことから、落し穴と推測する。



挿図52　ＳＫ－23遺構図

ＳＫ－24（挿図53　図版９）

位　置　Ｃ区の北部、Ｊ19グリッドの北寄りで標高30.0m付近に位置する。

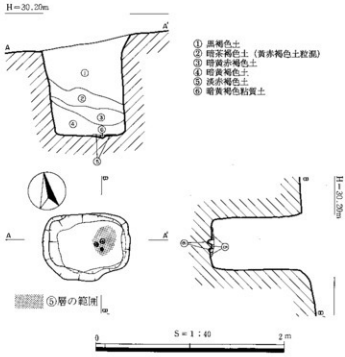
形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな隅丸長方形を呈し、断面形は検出面近くで広がっているが、ほぼ垂直に降りる長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.92m×短軸0.72m、底面で長軸0.68m×短軸0.51m、残存する部分の底面までの最大の深さは1.04mを測る。底面よりピットを３つ検出し、その規模（長軸×短軸－深さ）は北から順に（0.06×0.04－0.12）m、（0.05×0.04－0.08）m、（0.04×0.03－0.06）mを測る。

埋　土　埋土は６層に分層でき、基本となる土は黒褐色粘質土である。⑤層は、底面ピット付近のみで検出、杭の固定材として用いられたと考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



挿図53　ＳＫ－24遺構図

ＳＫ－25（挿図54）

位　置　Ｃ区の中央西側、Ｉ17・18グリッドの中間で標高29.0m付近に位置する。

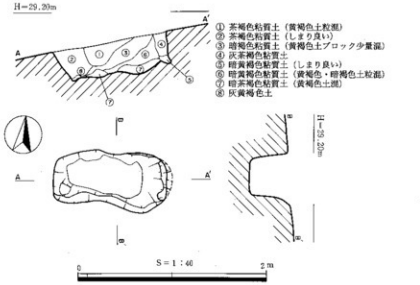
形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.20m×短軸0.61m、底面で長軸0.79m×短軸0.33mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.39mを測る。

埋　土　埋土は８層に分層でき、基本となる土は茶褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。



挿図54　ＳＫ－25遺構図

ＳＫ－26（挿図55）

位　置　Ｃ区の中央部、Ｋ13グリッドの北寄りで、谷の底部近くの標高30.0m付近に位置する。

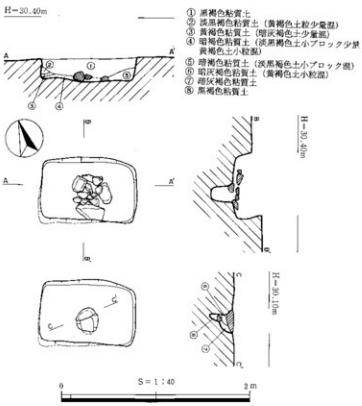
形　態　平面形は、検出面・底面ともに長方形を呈し、断面形は南西側で一部袋状になっているが長方形を呈する。規模は、検出面では長軸1.01m×短軸0.67m、底面で長軸1.01m×短軸0.55m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.25mを測る。底面にピットを検出し、その規模は、長軸0.22m×短軸0.19m、深さ0.23mを測る。

埋　土　埋土は８層に分層でき、基本となる土は暗灰褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　底面より石が多数検出された。杭の固定材として用いられたものと考えられる。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



挿図55　ＳＫ－26遺構図

ＳＫ－27（挿図56）

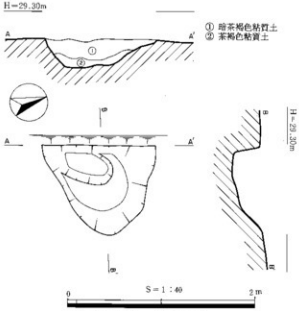
位　置　Ｃ区の北部、Ｉ18グリッドの北寄りで舌状尾根の先端近く、標高29.0m付近に位置する。

形　態　本遺構は、西側が調査区外に及んでおり、平面形は不明である。残存部の断面形は逆台形を呈する。現状での規模は、検出面で長軸1.16m×短軸0.96m、底面で長軸0.47m×短軸0.23m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.29mを測る。

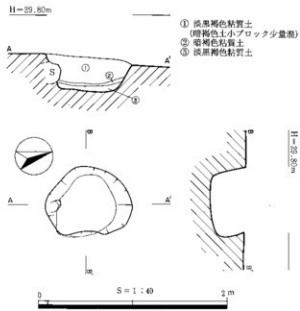
埋　土　埋土は２層に分層でき、基本となる土は暗茶褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。



挿図56　ＳＫ－27遺構図



挿図57　ＳＫ－28遺構図

ＳＫ－28（挿図57）

位　置　Ｃ区の中央部、Ｉ14・Ｊ14グリッドの中間付近、南側の斜面を下った谷底部で、標高29.4m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.84m×短軸0.83m、底面で長軸0.76m×短軸0.56mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.34mを測る。

埋　土　埋土は３層に分層でき、基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から沈澱堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。

ＳＫ－29（挿図58）

位　置　Ｃ区の北部、Ｊ20グリッドのほぼ中央で標高29.0m付近に位置する。検出面南側を一部ＳＩ－08に切られている。

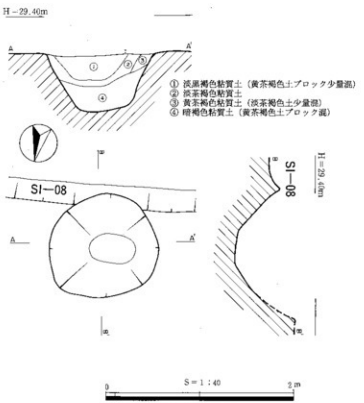
形　態　平面形は、検出面・底面ともにほぼ円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.20m×短軸1.12m、底面で長軸0.48m×短軸0.31mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.64mを測る。

埋　土　埋土は４層に分層でき、基本となる土は暗褐色粘質土である。堆積状況より自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。



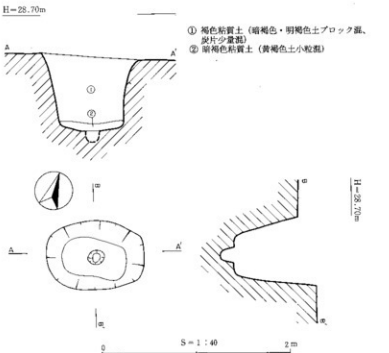
挿図58　ＳＫ－29遺構図

ＳＫ－30（挿図59）

位　置　Ｃ区の北部、Ｋ20グリッドの北西隅で、舌状尾根の先端部が北側に下りはじめる標高28.3m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈している。規模は、検出面で長軸1.04m×短軸0.73m、底面で長軸0.68m×短軸0.39m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.79mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は検出面で長軸0.18m×短軸0.15m、深さ0.13mを測る。

埋　土　埋土は２層に分層でき、基本となる土



挿図59　ＳＫ－30遺構図

は褐色粘質土である。堆積状況より自然堆積と考えられる。底面ピットの埋土は不明である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

ＳＫ－31（挿図60）

位　置　Ｃ区の南東部、Ｌ14グリッドの南寄りで、舌状尾根が南側の谷部に向かって下る標高30.7m付近に位置する。上部にはＳＳ－02が位置し、削平を受ける。

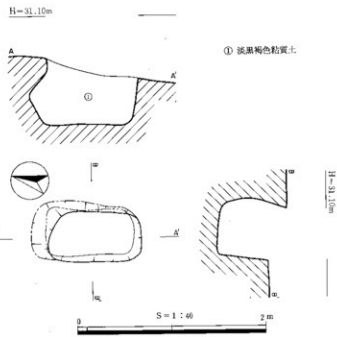
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は一部北東側で中央部が袋状になっているがほぼ長方形を呈する。規模は、検出面で長軸0.98m×短軸0.53m、底面で長軸0.96m×短軸0.52m、中央部最大長軸1.15mを測る。残存する部分の最大の深さは0.69mを測る。

埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　周囲の土坑との埋土の比較より落し穴と推測する。



挿図60　ＳＫ－31遺構図

ＳＫ－32（挿図61）

位　置　Ｃ区の中央部、Ｊ16グリッドの西寄りで標高29.3m付近に位置する。本遺構は、ＳＩ－05の底面下より検出した。

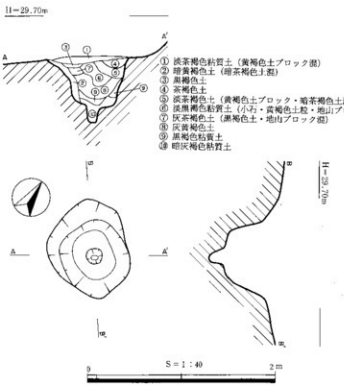
形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな楕円形を呈し、断面形は検出面近くで西側が摺鉢状になる逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸0.91m×短軸0.89m、底面で長軸0.54m×短軸0.43m、残存する部分の最大の深さは0.68mを測る。底面よりピットを検出し、その規模は径0.18m、深さ0.18mを測る。

埋　土　埋土は10層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

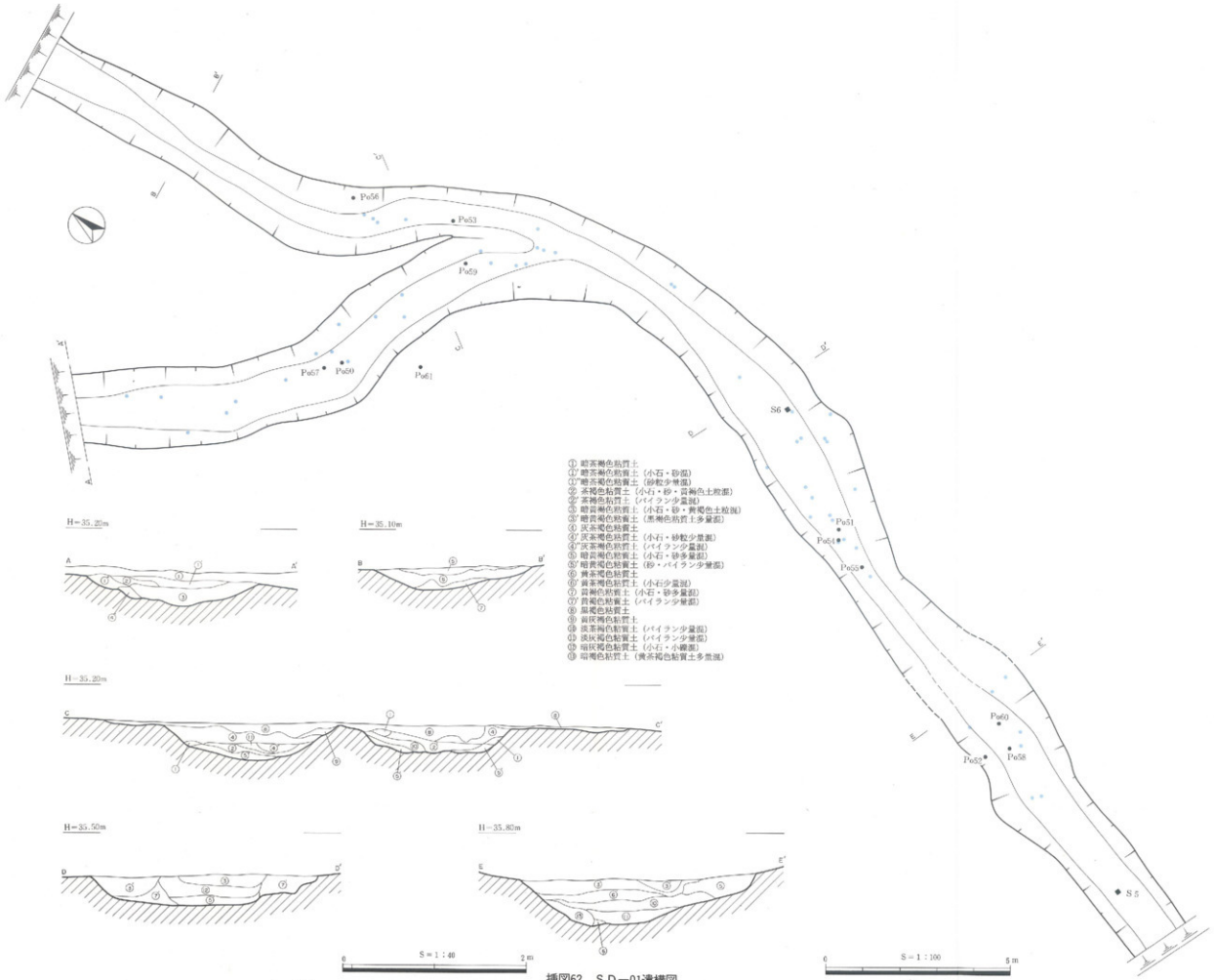
遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

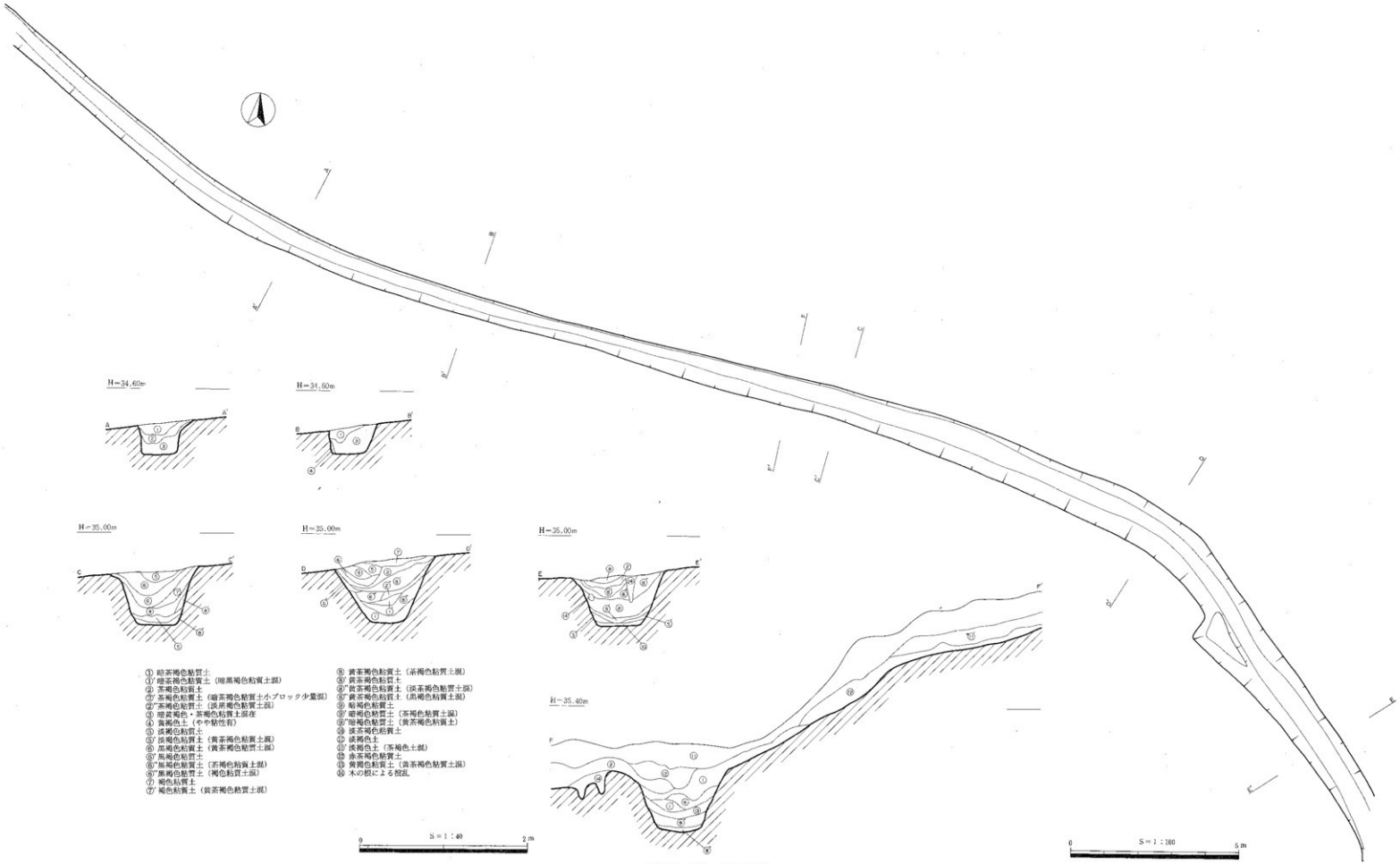
性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



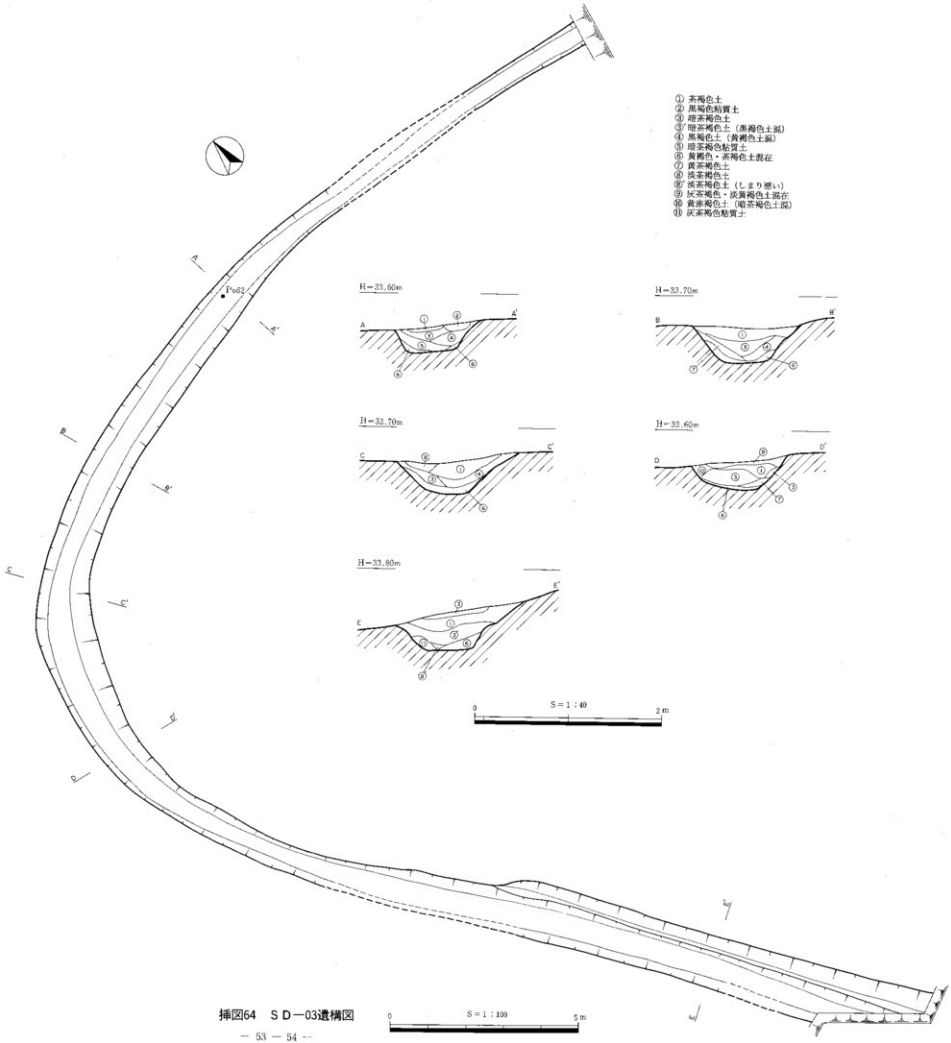
挿図61　ＳＫ－32遺構図



挿図62　ＳＤ－01遺構図



挿図63　ＳＤ－02遺構図



挿図64　ＳＤ―03遺構図

第４節　溝状遺跡

ＳＤ－01（挿図62・65　図版11・16）

位　置　Ａ区のほぼ中央を南北に縦断するように、Ｂ６～Ｃ３グリッドにかけて検出した。検出面での標高は34.6m～35.4mである。

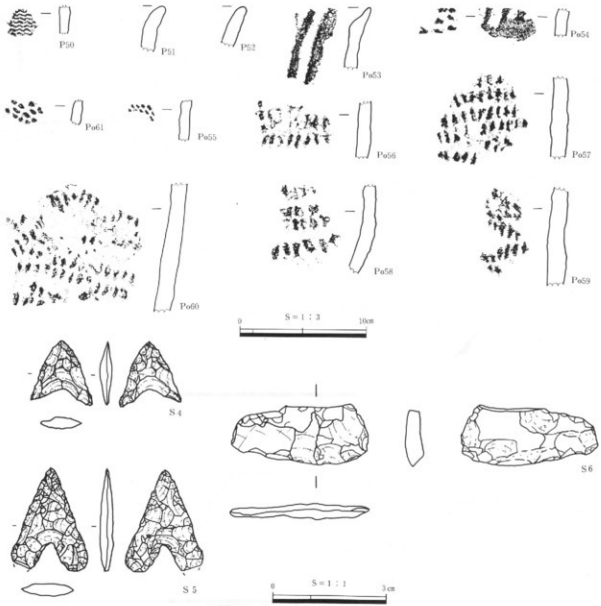
形　態　溝の走向はＣ５グリッド以南でＮ-19°-Ｅである。Ｃ５グリッド以北で、二方向に分岐しておりその走向はＮ-53°-Ｗ、Ｎ-12°-Ｗである。検出規模は、全長40.6m、幅1.3m～3.0m、深さ0.24m～0.50mを測る。

埋　土　場所によって異なるが、３～９層に分層できる。土色は、全体的に黄褐色を帯びている。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに縄文土器口縁部Po51～53、押型文をもつ縄文土器Po50・54～60、石器Ｓ４～６が出土した。Po50は山形文、Po54～60は粗大化した楕円文が施され、Po53・54には内面斜行沈線がある。Ｓ４・５は石鏃、Ｓ６は調整石器である。Po50・51・54～60、Ｓ４・５は溝の底面付近で出土した。なお、溝肩部外で押型文Po61が出土した。

時　期　出土遺物より縄文時代早期と考える。

性　格　自然河川である。



挿図65　ＳＤ－01遺物実測図

ＳＤ－02（挿図63　図版11）

位　置　Ｃ区の南部、K11～G13グリッドにかけて検出した。検出面での標高は34.5m～35.3mである。

形　態　Ｃ区谷部に向かう急斜面の中腹に、丘陵に沿うように構築されている。検出規模は、全長47.7m、幅0.56m～1.91m、深さ0.45～1.29mを測る。走向はN-65°-Wであり、徐々にその底面を低くしつつ地形に沿って蛇行しながら流下している。

埋　土　場所によって異なるが、３～11層に分層できる。

遺　物　出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　用水路と推測する。

ＳＤ－03（挿図64・66　図版11・17）

位　置　Ｃ区の中央、K16・17グリッドからL14～17・M17グリッドにかけて検出した。検出面での標高は33.4m～34.8mである。

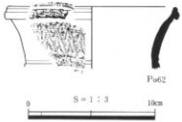
形　態　北側と南側の一部が流失しているが、舌状尾根の中腹を傾斜に沿って巡っている。検出規模は、全長46.8m、残存幅0.56～1.57m、深さ0.28～0.43mを測る。溝はN-32°-WからＳ-5°-Ｅにつながる。

埋　土　場所によって異なるが、５～７層に分層できる。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに須恵器口頭部Po62がある。Po62は谷部出土土器と接合した。

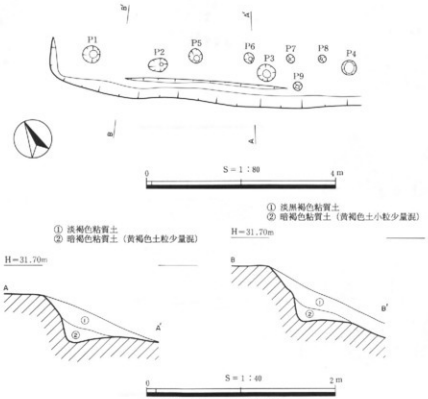
時　期　出土遺物は古墳時代のものだが、土層の観察から時期は下ると考えられ、特定できない。

性　格　ＳＤ－02につながる用水路となる可能性があるが、遺存状態が悪く不明である。



挿図66　ＳＤ－03遺物実測図

第５節　段状遺構



挿図67　ＳＳ－01遺構図

ＳＳ－01（挿図67　図版12）

位　置　Ｃ区の南側、Ｋ13グリッドの南東寄りの北側に傾斜する斜面の裾近くで、標高30.7m～31.4mに位置する。

形　態　東側は調査区外へ延びており、全体形を知ることはできない。現状での規模は、長さ3.4m、幅0.5m～0.6mで、斜面を断面Ｌ字状にカットして平坦面を作っている。平坦面の一部には、壁直下に長さ1.7m、深さ最大0.09mの浅い溝が存在する。掘り込み壁高は最大0.56mを測る。

平坦面で９個のピットを検出した。規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（0.19×0.18－0.40）m、Ｐ２（0.21×0.14－0.29）m、Ｐ３（0.19×0.18－0.19）m、Ｐ４（0.17×0.16－0.14）m、Ｐ５（0.16×0.14－0.28）m、Ｐ６（0.12×0.11－0.19）m、Ｐ７（0.09×0.08－0.22）m、Ｐ８（0.08×0.07－0.17）m、Ｐ９（0.10×0.09－0.28）mを測る。いずれも用途不明であるが、Ｐ１～４、Ｐ５～８のそれぞれはほぼ直線的に並んでおり、柱穴間距離はＰ１～２から順にＰ３～Ｐ４まで、0.74m、1.15m、0.88m、Ｐ５～６から順にＰ７～８まで、0.57m、0.43m、0.34mを測る。

埋　土　埋土は２層に分層でき、いずれも自然堆積が窺われる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。

ＳＳ－02（挿図68・69　図版12・17）

位　置　Ｃ区の南側、Ｋ～Ｌ14グリッドにまたがるほぼ中央で舌状尾根南側の急斜面の裾付近、標高30.2m～30.7m付近に谷部を挟んでＳＳ－01と向かい合うかたちで位置している。

形　態　東側は調査区外へ延びており全体形を知ることはできない。現状での規模は、長さ6.1m、幅0.9m～1.7mで、斜面を断面Ｌ字状にカットして平坦面を作っている。掘り込み壁高は最大0.36mを測る。

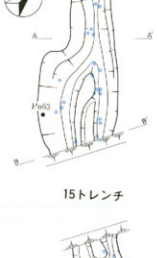
埋　土　埋土は６層に分層でき、いずれも自然堆積が窺われる。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器口縁部片Po63、他にも22点の土師器・須恵器の小片が出土した。

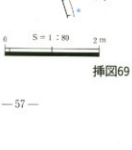
時　期　Po63は小片である上、埋土上面からの出土であるため、時期の特定はできない。

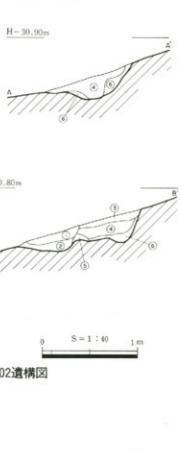
性　格　不明である。

挿図68　ＳＳ－02遺物実測図



15トレンチ





挿図69　ＳＳ－02遺構図

ＳＳ－03（挿図70・71　図版12・17）

位　置　Ｃ区の中央南寄り、Ｉ17～Ｊ16・Ｋ15グリッドにかけて北西－南東方向に延びており、舌状尾根の南西側斜面、標高29.8m～30.8m付近に位置する。本遺構はＳＩ－04・05の上部を切っている。

形　態　検出規模は、長さ24.6m、幅1.6m～3.0mで斜面を断面Ｌ字状にカットして平坦面を作っている。平坦面の一部には、壁直下に長さ4.83m、深さ最大0.09mの浅い溝が存在する。掘り込み壁高は最大0.60mを測る。

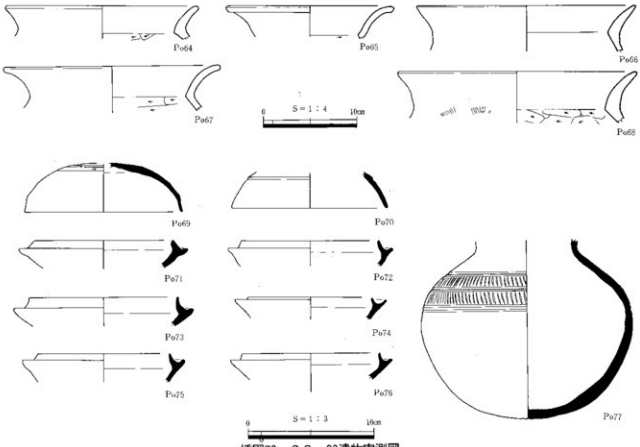
平坦面でピットを検出したが、いずれも用途不明である。

埋　土　埋土は４～７層に分層でき、いずれも自然堆積が窺われる。

遺　物　出土遺物は、図化できたものに土師器甕口縁部Po64～68、須恵器坏蓋Po69、須恵器坏蓋口縁部Po70、須恵器坏身口縁部Po71～76、Ll類部を欠く須恵器長頸壺Po77がある。また、埋土中より出土した小片がＳＩ－04出土Po20と接合した。

時　期　出土遺物の時期は古墳時代後期に属しており、それ以降のものは含まれていないが、古墳時代後期末の須恵器をもつＳＩ－04を切っていることから古墳時代後期末以降であり、出土遺物はＳＳ－03の上部から流れ込んだものと考える。時期の特定はできない。

性　格　不明である。

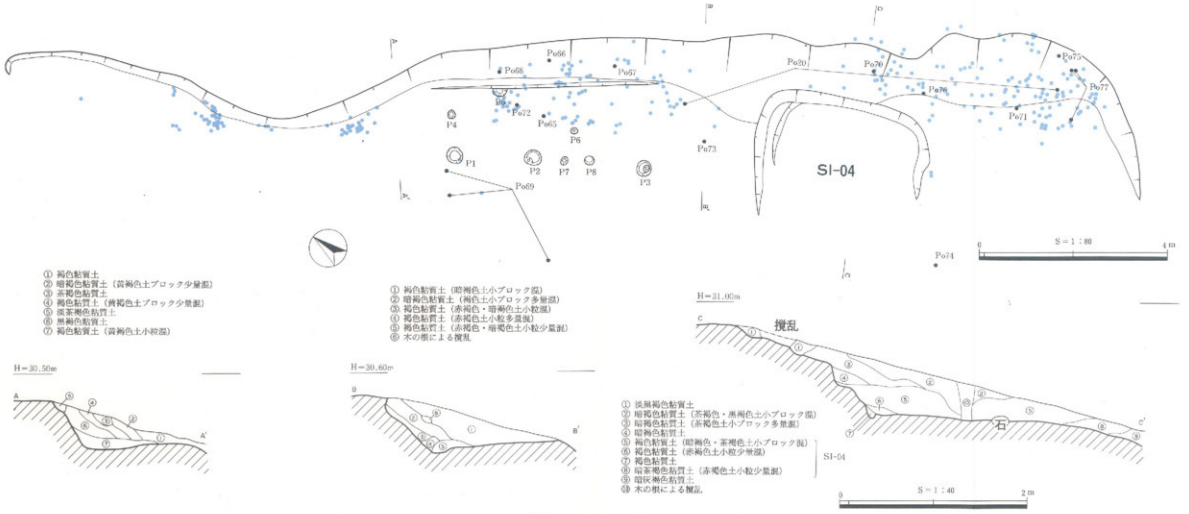


挿図70　ＳＳ－03遺物実測図

ＳＳ－04（挿図72・73　図版17）

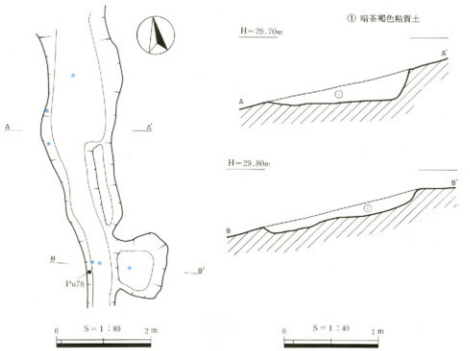
位　置　Ｃ区の中央西隅、Ｉ17・18グリッドの中央西寄り、舌状尾根先端部斜面、標高29.0m～29.6m付近に位置する。

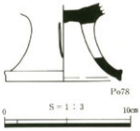
形　態　南側は調査区外に延び、北側は流失しているため、全体形を知ることはできない。現状での規模は、長さ6.3m、幅0.6m～1.8mで、斜面を断面Ｌ字状にカットして平坦面を作っている。掘り込み壁高は最大0.36mを測る。



挿図71　ＳＳ－03遺構図

埋　土　埋土は暗茶褐色粘質土の単層である。
遺　物　出土遺物は、図化できたものに須恵器高坏Po78がある。
時　期　Po78は埋土中より出土したため、時期の特定はできない。
性　格　不明である。





挿図73
ＳＳ－04遺物実測図

挿図72　ＳＳ－04遺構図

ＳＳ－05（挿図15）
位　置　Ｃ区の中央部西寄り、Ｉ～Ｊ16グリッドの中央南寄り付近で、西に向かって緩やかに下っていく標高28.9m～29.8m付近に位置している。
形　態　西側が調査区外に及んでおり、北部壁中央部がＳＩ－03に切られているため、原形を留めていないが、現状での規模は長さ5.9m、幅1.2mで斜面を断面Ｌ字状にカットして平坦面を作っている。掘り込み壁高は最大0.42mを測る。床面でＰ４を検出したが用途は不明である。
埋　土　埋土は５層に分層でき、いずれも自然堆積が窺える。
遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　ＳＩ－03との切り合いの関係より、ＳＩ－03構築以前と考える。
性　格　不明である。

第６節　ピット群

ピット群（挿図６）
Ｃ区の中央部に位置する舌状にのびる尾根の北側斜面のＬ20グリッドと南側斜面のＬ15グリッドの２つの中心をもつ偏った分布を示す。尾根の頂部付近ではほとんど認められなかった。検出したピットの数は計233基である。多くのピットは径15cm前後で深さ10cm程度のものである。ピットに伴う遺物はなく時期の特定はできないが、埋土は縄文時代と考えられる落し穴に基本的な黒褐色粘質土のものが多く、この土は古墳時代後期の住居跡の埋土には含まれないことから、多くは古墳時代後期以前のピットと考えられる。

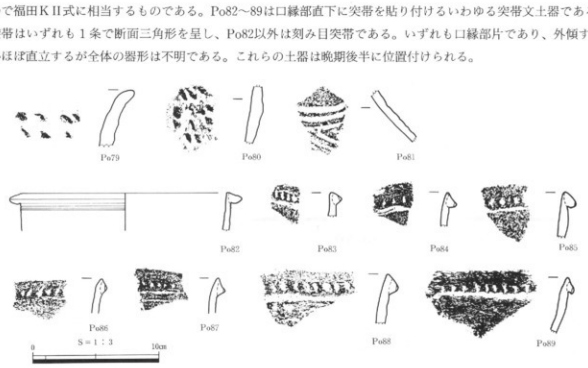
第７節　遺構外の遺物

本遺跡で出土した遺物の多くは、Ｃ区の谷部を中心とする遺構外の包含層中から検出された。時期的には弥生時代から古墳時代のものが中心である。ここでは、出土した遺物を縄文土器、弥生土器、古墳時代以降の土器・土製品、石器に分けて記述する。

縄文土器（Po79～89　挿図74　図版17）

縄文土器はいずれもＣ区の谷部から出土したもので数は少なく、早期の土器は２点、中期の土器が１点、あとは晩期のものである。

Po79・80は早期の押型文である。Po79は大きく外反し端部を丸くおさめる口縁部で、外面には粗大化した楕円文を斜位に施文する。Po80は粗大化した楕円文を施文した胴部片。Po81は外面に幅広の３条の沈線を施すもので福田ＫⅡ式に相当するものである。Po82～89は口縁部直下に突帯を貼り付けるいわゆる突帯文土器である。突帯はいずれも１条で断面三角形を呈し、Po82以外は刻み目突帯である。いずれも口縁部片であり、外傾するかほぼ直立するが全体の器形は不明である。これらの土器は晩期後半に位置付けられる。



挿図74　遺構外出土縄文土器

弥生土器（Po90～122　挿図75　図版18）

弥生土器には壺・甕・底部・高坏・脚部がみられる。

壺（Po90～95）は６点である。Po90は肩が張らず、なだらかな頸部から大きく外反する口縁部にいたる。口縁端部は内傾して上下に拡張され、外面に３条の凹線を施す。頸部には４条の凹線を施す。Po91・92は大きく外反する口縁部をもち、口縁端部は内傾して上下に拡張され、外面に３条の凹線を施す。Po93は緩く外反する口縁部をもち、口縁端部は内傾して上下に拡張され、外面に３条の凹線と刻み目を施す。Po94は内傾して立ち上がる無頸壺。口縁端部は内側に肥厚し、上部が平坦面をなす。口縁部外面に５条の凹線を施す。以上の５点は中期後葉に位置付けられる。Po95は外面に１条の沈線と刺突文を施す。前期のものであろう。

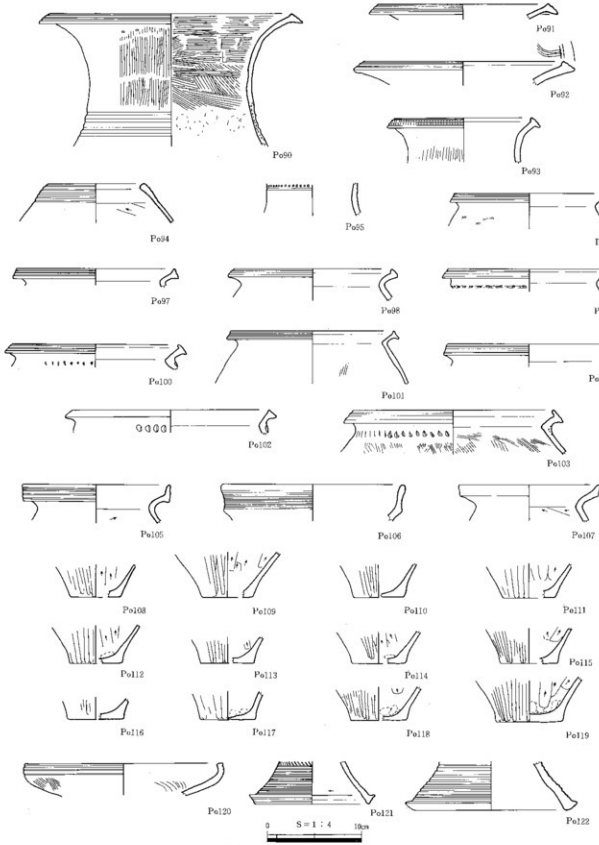
甕（Po96～107）は12点である。Po96～104は頸部が「く」の字状に屈曲し、口縁端部が内傾して上下に拡張するもので、外面に２～４条の凹線を施すが、Po102の凹線はナデ消される。Po99・100・102・103には頸部に刻み目突帯が巡る。以上の９点は中期後葉に位置付けられる。Po105・106はほぼ直立か外傾する複合口縁をもち、外面に櫛描平行沈線を施すもの。Po107はやや外傾する短い複合口縁。以上の３点は後期後葉に位置付けられる。

底部（Po108～119）は、いずれも中期から後期のもので平底である。手法的には外面はヘラミガキ、内面はヘ

ラケズリされており底部にユビオサエの認められるものもある。

高坏（Po120）は口縁部がやや内傾し、口縁端部の上部が平坦部をなすもの。坏部は椀状をなす。

脚部（Po121・122）は「ハ」の字状に開き、脚端部は拡張されて面をなし、外面に凹線または沈線を施すもの。Po121は端部平坦面に２状の凹線を施す。時期的には中期から後期前半に位置付けられる。



挿図75　遺構外出土弥生土器

古墳時代以降の土器・土製品

古墳時代以降の土器・土製品には土師器・手捏ね土器・須恵器・瓦質土器・土製品がある。ここでは、種別ごとに概観を述べる。

土師器（Po123～183　挿図76～78　図版19・20）

土師器には甕・脚台部・低脚坏・高坏・椀・土師質土器がある。出土点数は多いが、小片であるため実測出来たものについてのみ掲載した。

甕（Po123～175）には「く」の字状口縁のものと退化した複合口縁をなすものがある。「く」の字状口縁のものには、口縁部が細長く端部をつまみ出すようにしておさめるもの（Po123～127）と、口縁部が短めでやや厚く端部を丸くおさめるもの（Po128～171）がある。手法的には口縁部内外面ともヨコナデ調整し、頸部以下は外面をハケメ調整、内面をヘラケズリ調整するものだが、Po159・161は口縁部内面がヨコハケメ調整後にヨコナデ調整を行ったものである。退化した複合口縁をなすものには、口縁端部を丸くおさめるもの（Po172～174）、口縁端部が平坦面をなすもの（Po175）がある。手法的には「く」の字状口縁のものと同じである。

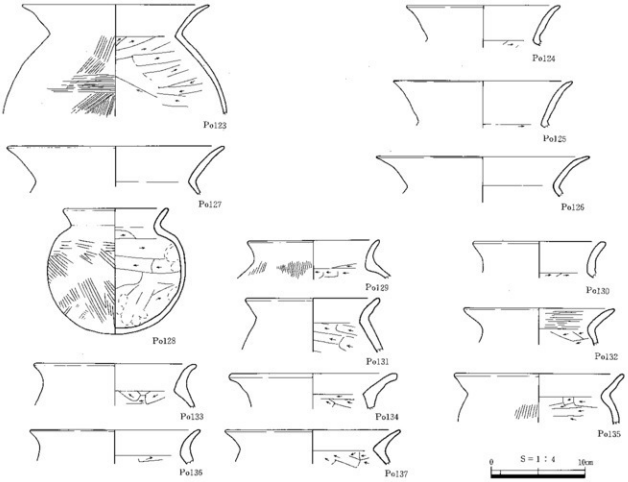
脚台部（Po176）は台付甕等の脚台部と考えられるものである。

低脚坏（Po177・178）は脚部のみ出土した。2点とも「ハ」の字状に開くもので、脚端部がやや肥厚し平坦面をなすものである。

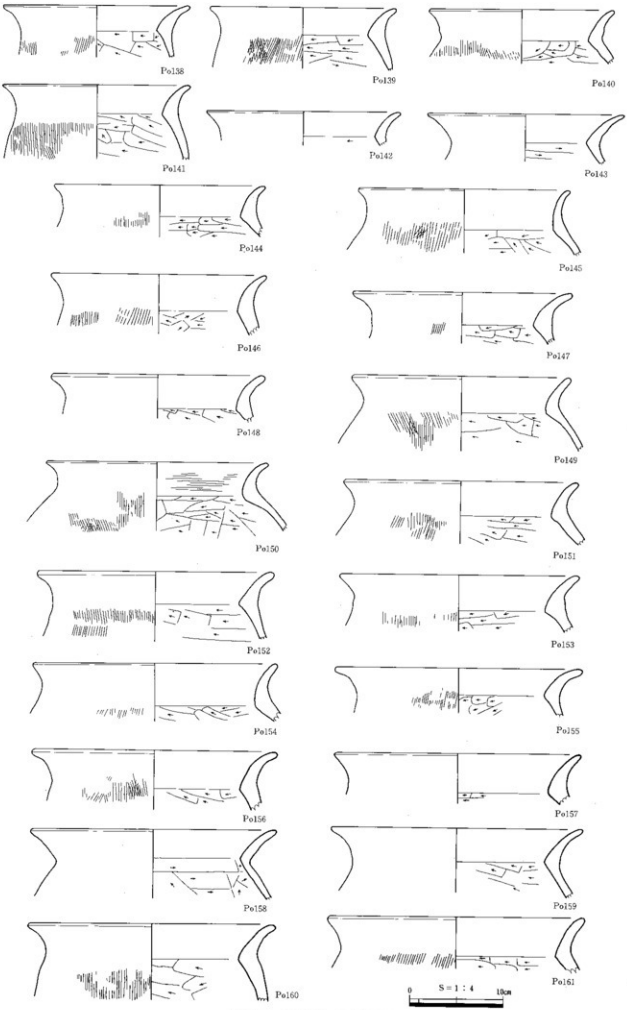
高坏（Po179～182）はいずれも内湾する坏部のもので、Po179は坏部が深い椀状を呈するもの、Po180～182は坏部が浅い椀状を呈するものである。

椀（Po183）は丸底から緩く内湾して立ち上がるものだが口縁部は欠損する。

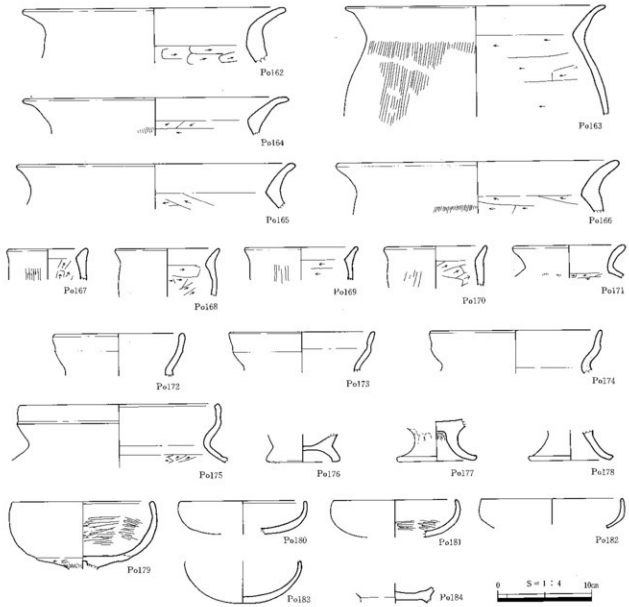
土師質土器（Po184）は高台を貼り付ける皿あるいは坏の底部である。風化のため調整は不明瞭である。



挿図76　遺構外出土土師器(1)



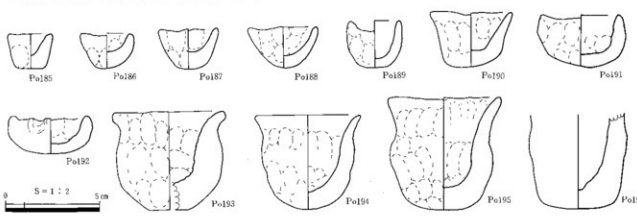
挿図77　遺構外出土土師器(2)



挿図78　遺構外出土土師器(3)

手捏ね土器（Po185～196　挿図79　図版20）

Po185～191は小形で椀状を呈するもの。Po192は浅い椀状を呈し、口縁部の一部に注ぎ部を意識したような凹みがある。Po193～195は口縁部を折り曲げて外傾させる壺状を呈する。Po196はほぼ直立して立ち上がるもので口縁部を欠損する。底部外面に板圧痕が残る。



挿図79　遺構外出土手捏ね土器

須恵器（Po197～275　挿図80～83　図版21～25）

須恵器には坏蓋・坏身・高坏・口頸部片・甕・壺・甑・胴部片がある。これらの他にも甕の胴部片など出土点数は多いが、小片であるため実測出来たものについてのみ掲載した。

坏蓋（Po197～219）には、外面に稜が残り口縁端部内面に段をもつもの（Po197～200）、外面には稜が残るが口縁端部を丸くおさめるもの（Po201）、外面の稜が失われるもの（Po203～211）、天井部外面につまみが付くもの（Po212～219）に分けられる。Po212～217は中央部が凹むつまみ、Po218は凹まった中央に円錐形の突起をもつつまみ、Po219は環状つまみをもつ。

坏身（Po220～241）には、立ち上がりが長く口縁端部内面に段をもつもの（Po220）、立ち上がりは短いが口縁端部内面に段をもつもの（Po221）、立ち上がりは短く口縁端部を丸くおさめるもの（Po222～236）、受部がなくなり坏蓋が逆転したような形状のもの（Po237）、高台の付かない坏で底面に回転糸切り痕を残すもの（Po238・239）、高台付坏（Po240・241）がある。

高坏（Po242～257）には、坏蓋を坏部に転用したかのようなもの（Po242・243）、浅い椀状の坏部を呈するもの（Po244～246・248～250）、口縁端部を内外に引き出し平坦面をつくる坏部のもの（Po247）、外反して下方に下る脚部（Po251～256）、外反した後に内湾して下方に下る脚部（Po257）がある。

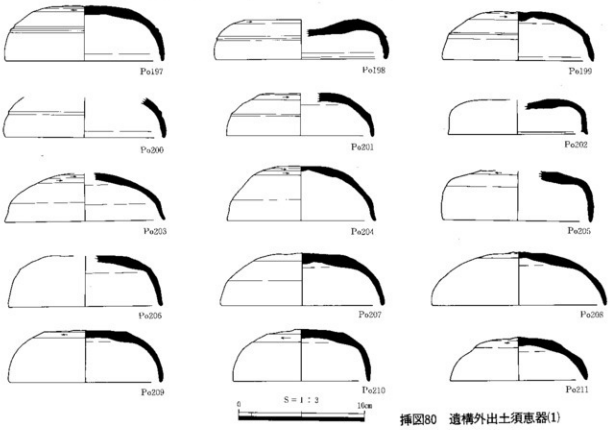
口頸部片（Po258～261）は、外傾して立ち上がり口縁端部に平坦面をなすもの。

甕（Po262～268）では、外傾する口頸部（Po262～265）、外面に刻み目・ハケメ・沈線を施す大型甕の口頸部（Po266）、口縁端部を欠く外面に波状文を施す大型甕の口頸部（Po267）、外面にヘラ記号をもつ胴部片（Po268）であり、全体が分かるものはない。

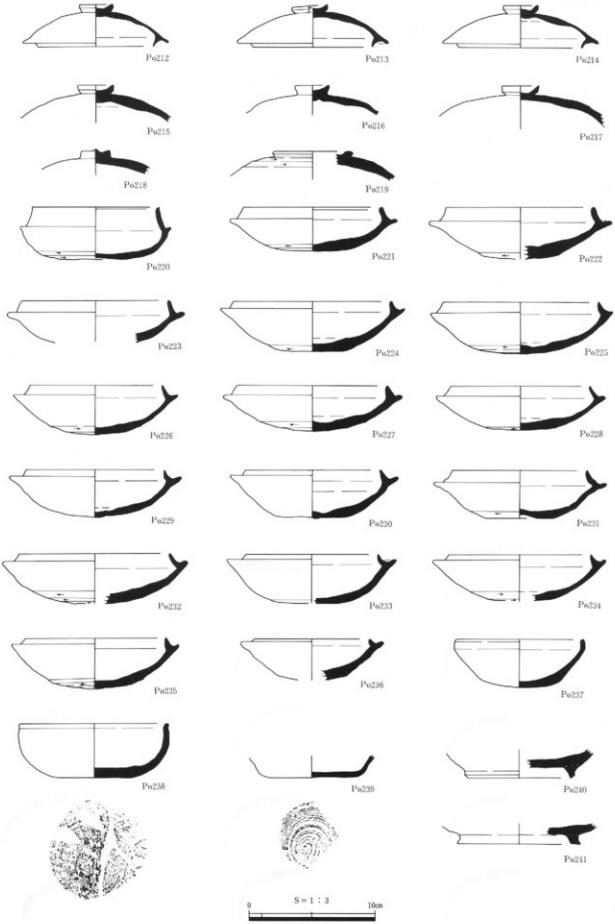
壺（Po269～273）には、ほぼ直立する口頸部をもつ直口壺（Po269）、口頸部がやや外反する小型壺（Po270）、口径に比べて器高が低く外面にカキメを施す短頸壺（Po271）、肩部が張り底部外面にカキメを施す壺胴部（Po272）、口頸部は緩く外反して長く伸びるもの（Po273）がある。

甑（Po274）は球形をなす体部に円形孔を穿孔するもの。

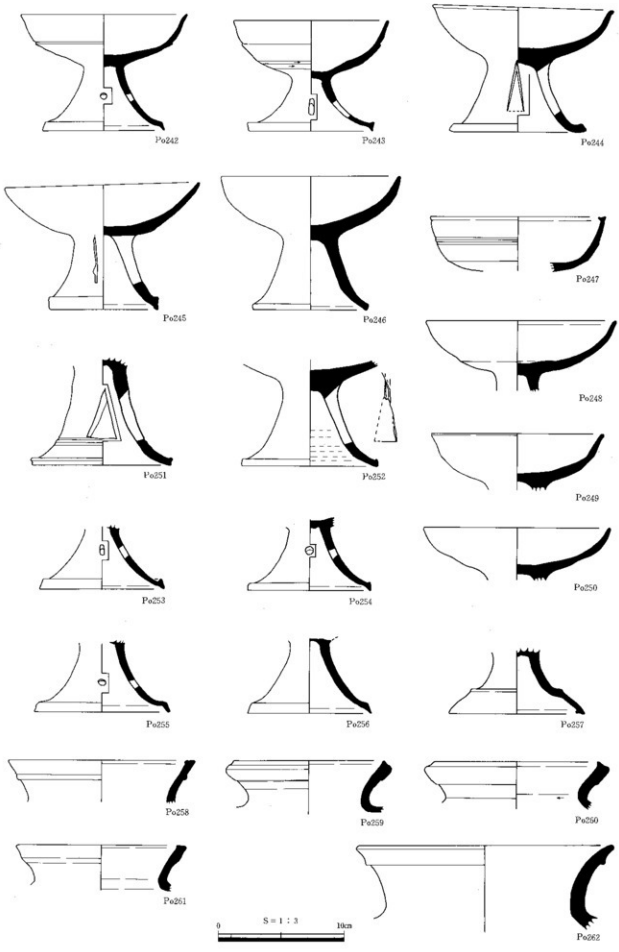
胴部片（Po275）は外面に凹線の円圏と刺突帯からなる文様が残り円形状の穿孔痕が認められる。甑あるいはミニチュアの甕類の胴部の可能性が考えられる。



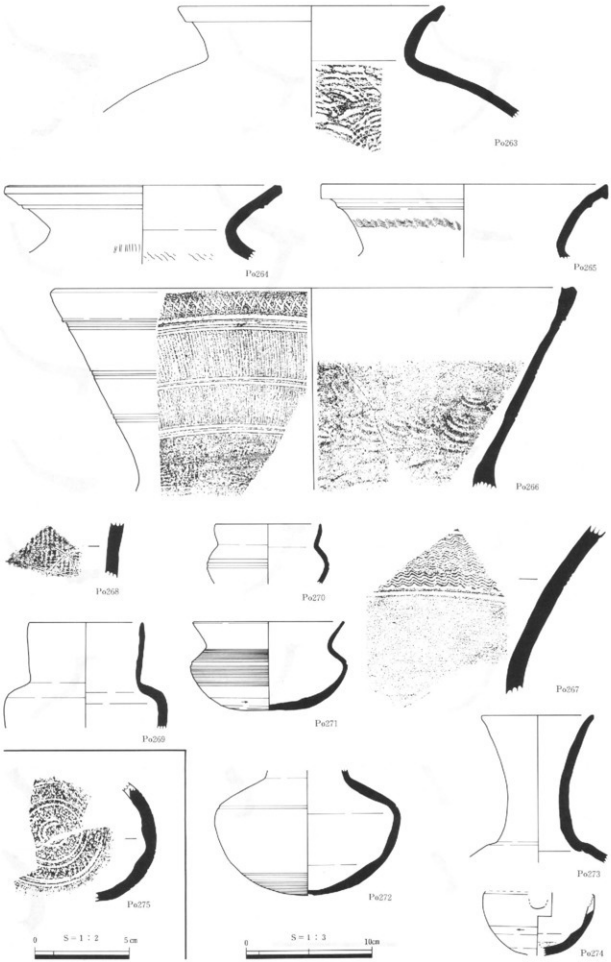
挿図80　遺構外出土須恵器(1)



挿図81　遺構外出土須恵器(2)



挿図82　遺構外出土須恵器(3)

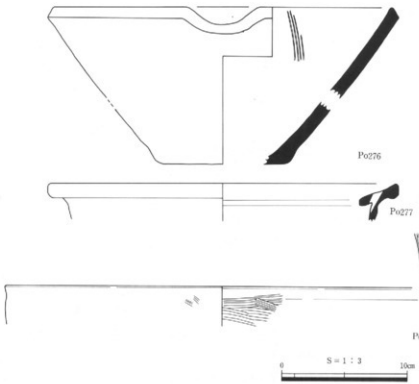


挿図83　遺構外出土須恵器(4)

瓦質土器（Po276～278　挿図84　図版25）

瓦質土器には擂鉢・土鍋・鉢がある。

擂鉢（Po276）は口縁端部が外下がりの平坦面をなすもの。内面に櫛描条線が残る。土鍋（Po277）は口縁部片。鉢（Po278）はほぼ直立する口縁部片。

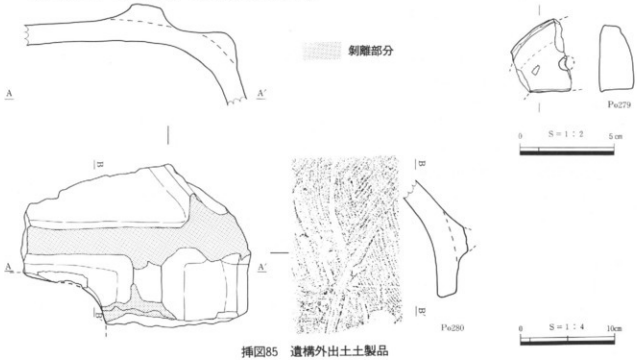


挿図84　遺構外出土瓦質土器

土製品（Po279・280　挿図85　図版25）

Po279は円形孔の痕跡が残るが、形態・用途は不明。Po280は外面に隆帯を貼付けるもの。家形埴輪か陶棺の一部の可能性が考えられる。

2点の他には、図化できなかったが竈片が出土した。



挿図85　遺構外出土土製品

石器

遺構外より出土した石器類は、剥片石器としては石鏃、石錐、石匙、ナイフ形石器が認められる。礫石器としては、石皿が2点認められるだけである。

石材別では、剥片石器の多くがサヌカイトであり、黒曜石があまりないことが注目される。なお、一般にサヌカイトとは四国産のもののことで、四国産以外のものである場合は「サヌカイトに類似した安山岩」とするべきであるが、厳密な分析ができないためここではサヌカイトと称するものとする。

剥片石器

石鏃（S 7～19　挿図86　図版26）

完成品6点、未成品もしくは欠損したものが7点である。石材的には、サヌカイト製11点、黒曜石製1点、不明1点である。これらの中で、S19を除く11点については以下の2類型に分類できる。S19は黒曜石製の石鏃上半部と考えられるものであるが、欠損部が多いため全体形は不明である。

Ⅰ　凹基無茎鏃

Ⅰ－A　鍬形鏃

逆U字状の大きな抉入、角状の大きな脚部を持つ早期の指標的な石鏃であり、S 7・8の2点が出土した。2点ともサヌカイト製で、ほぼ正三角形を呈する。全体的に非常に細かい調整が施される。

Ⅰ－B　剥片鏃

素材剥片の縁辺のみに調整を施す抉入の浅い石鏃であり、総数4点（S 9～12）である。石材的には、いずれもサヌカイトである。S 9は板状の剥片を素材とし、縁辺に沿ってほぼ直角に剥離を施す。S10は一部に大きな剥離面を有す。S11・12は大型であるが、欠損するとともに風化のため剥離面の判断が困難である。

Ⅰ－C　鍬形鏃・剥片鏃を除く凹基無茎鏃

S13・14の2点である。S13は全体的に調整が粗く、先端部・脚部は明瞭ではない。抉入は非常に浅い逆U字状を呈し、側縁部はほぼ直線状である。石材は不明である。S14は調整の粗いもので先端を欠損する。石材はサヌカイト。

Ⅱ　平基無茎鏃

S15～18の4点で、いずれもサヌカイトである。S15は側縁部がやや膨らむもので一部に大きな剥離面を有す。S16・17は二等辺三角形を呈し、側縁部は直線状であり、調整はほぼ一定している。S18は二等辺三角形を呈し、上半部の側縁が膨らむ。調整は細かい。

石錐（S20　挿図86　図版26）

1点のみの出土であり、石材は黒曜石である。つまみ部を欠損するが、意識的に鋭い錐部を作出していることから石錐とした。錐部は偏平な菱形をなし鋭利である。

石匙（S21　挿図87　図版26）

1点のみの出土であり、石材はサヌカイトである。横型のもので、つまみを含めて完存する。刃部の調整は細かいが、厚さがあるため鋭利とはいえない。

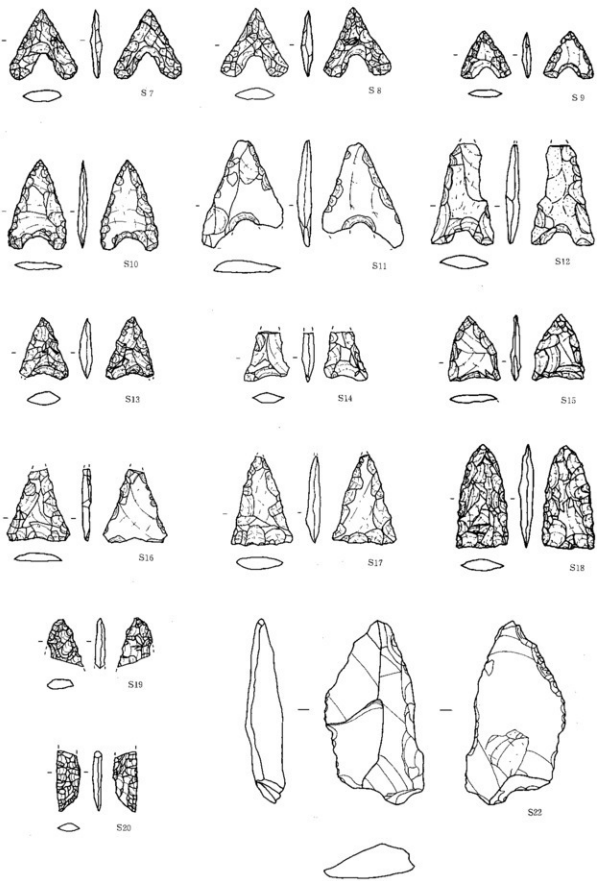
ナイフ形石器（S22　挿図86　図版26）

縦長剥片を素材とする。背面は2枚の剥離面から構成され、右縁には腹面側からの細部調整が連続して施される。腹面の左縁上半には、刃こぼれ状の剥離痕が認められる。石材は良質の玉髄。C区谷部の堆積土底面の砂層中から出土した。流れ込んだものであり、本来の原位置は不明。

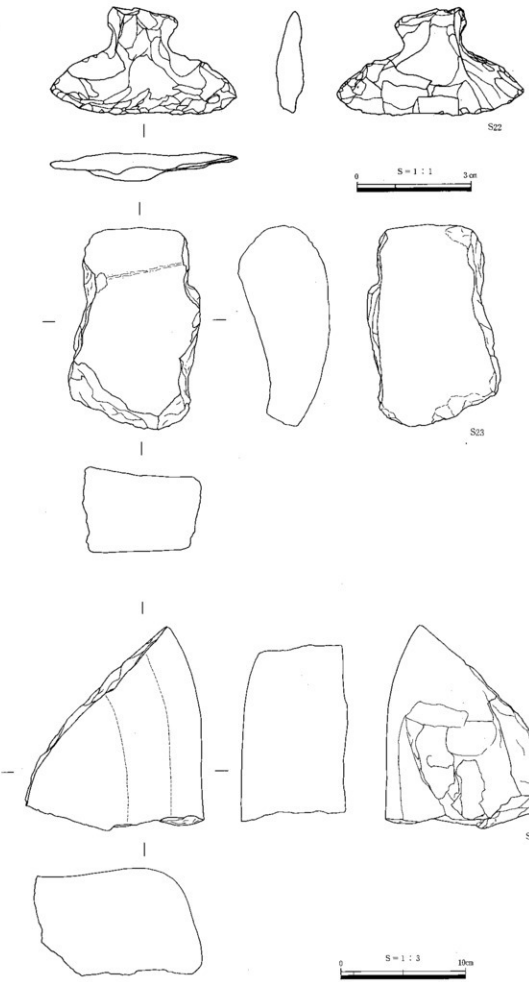
礫石器

石皿（S23・24　挿図87　図版26）

S23・24の2点である。2点とも大形の礫を素材とするが、多くを欠損する。S24は凹みはわずかであるが、周囲の礫表面に光沢面を持つ。



挿図86　遺構外出土石器(1)



挿図87　遺構外出土石器(2)

第4章　まとめ

泉中峰・泉前田遺跡の調査では、竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡1棟、土坑・土壙32基、溝状遺構3条、段状遺構5基、そしてピット群を検出した。時期の決定できる遺構は多いとは言えないが、可能な限り時代的な変遷を追ってみたい。

時期の判明した最古の遺構はA区のSD—01である。南から北に向けて下っていく自然河川と考えられるものであり、埋土中より押型文土器片が出土した。押型文土器片はすべて小破片であるうえに数も少なく全体形のわかるものはない。ほとんどは粗大化した楕円文のものだが、1点のみではあるが山形文のものも出土した。この時代の明確な遺構は検出されておらず、標高の高くなる調査地南側に住居跡などを含む縄文時代早期の遺跡が存在することが推測される。今後注意する必要がある。

SD—01の東側約60mのB区内にSK—09が存在する。遺構上面がかなり削平されているらしく遺存状態が悪く、遺物も石匙1点が出土したのみで時期決定の判断資料となる土器が出土しなかったため時期の特定が出来ないが、平面形はほぼ円形であり底面の壁際に径10cm程度の小穴が巡る形態をしている。断定は出来ないものの縄文時代の住居跡の可能性が考えられる遺構である。

その後、時期の判明する遺構は縄文時代晩期後半の突帯文土器期まで認められない。突帯文土器期の遺構はC区の舌状にのびる尾根頂部に位置するSK—07である。この土坑には俗に「クロボク」と呼ばれる黒褐色粘質土の単純層が埋土中にあり、この層中から小片ではあるが口縁部片3点を含む突帯文土器が出土した。遺物が出土しないことが多い土坑においては稀な例であり、同様の形態をする土坑の時期を考えるうえで貴重な資料となった。SK—07には底面ピットは存在しない。近接する位置にある尾高御建山遺跡で検出されたSK—39・77は黒褐色粘質土の単純層をもち底面ピットも存在する土坑であるが、両土坑から出土した炭化木を利用した放射性炭素年代測定では縄文時代後期後半にあたるB．P．3200～3400の値が得られた(1)。底面ピットの存在する土坑はその形態から落し穴と考えられているものであるが、底面ピットのないものについても埋土に類似性が認められるものは同じく落し穴と考えた。得られた時期は縄文時代後期～晩期であり、中国地方における他の遺跡例とも矛盾はしない(2)。時期を特定出来ないが落し穴とした他の土坑についてもほぼ同じ時期と考えられるが、埋土を判断資料としていることから、いつまでそのような埋土が形成可能なのかが問題となる。土坑群と近接する位置にある古墳時代中期から後期の住居跡の埋土には黒褐色粘質土の単純層は認められない。これよりその時期までには削平などによりクロボクは無くなるようであり、落し穴とした土坑の最大下限は古墳時代中期である。

弥生時代と断定できる遺構は認められない。

古墳時代になるとC区の舌状にのびる尾根据に竪穴住居が構築される。全体的に遺存状態が悪く不明な点も多いが、形態は方形を基調とする。あまり良好な土器資料をもたないが、時期は5世紀半ばごろから7世紀半ばごろのものである。

B区とC区の尾根に挟まれて谷部がある。谷部からは土師器・須恵器を中心とした多くの土器が出土した。接合関係をみると、谷部内での接合のほかに尾根頂部出土のものとの接合、あるいは段状遺構出土土器との接合が認められる。これは、谷部出土土器の少なくとも一部は尾根上からの転落であることを意味する。また、埴輪か陶棺の一部と考えられる土製品の出土、尾根頂部では土坑やピットの密度が極めて低いことなどから考えて削平されて消失した古墳の存在が推測される。

以上簡単に調査結果をまとめてみたが十分な考察はできなかった。今後の調査研究に待つところが大きい。

最後に、発掘調査及び報告書作成にあたり、指導・助言・協力を頂いた各位に深甚の謝意を表します。

註　(1)『尾高御建山遺跡・尾高古墳群』　財団法人 鳥取県教育文化財団　1994
　　(2)稲田孝司「西日本の縄文時代落し穴覚」『論苑　考古学』　1993

挿表1　竪穴住居跡一覧表

（△は残存値）

住居番号	挿図番号	図版番号	形態	規模(m)	床面積(㎡)	残存壁高(m)	主柱穴(本)	遺物	時期	備考
01	8·10	3·13	隅丸方形	4.7×1.7△	11.6△	0.5	4	土師器甕・高坏(赤色顔料塗付) 須恵器坏身・高坏	7世紀前半	焼土
02	11~13	4·13	方形	4.9×3.4△	16.7△	0.42	4	土師器甕　須恵器坏蓋・坏身・高坏・壺	7世紀中頃	
03	14·15	5·13	隅丸方形	3.5△×1.5△	5.2△	0.65	1	土師器甕　須恵器蓋坏　打製石庖丁	不明	
04	16·17	5·14	隅丸方形	3.2×2.0△	6.2△	0.32	不明	土師器甕　須恵器坏蓋・坏身・高坏・椀	7世紀中頃	側溝あり
05	18·19	6·14	方形	4.7×1.1△	5.2△	0.38	1	土師器甕　須恵器高坏・坏蓋・坏身 編　磨石	6世紀前半	側溝あり 焼土　炭
06	20·21	7·15	長方形	6.6△×5.95	33.3△	0.78	4	土師器甕・台付椀(赤色顔料塗付) 須恵器高坏・坏蓋・甕	5世紀中頃	
07	22·23	7·15	隅丸方形	4.0△×1.6	6.4△	0.32	2	須恵器高坏	不明	側溝あり
08	20·21	7·15	隅丸長方形	4.95×4.45	19.4	0.50	不明	なし	不明	側溝あり
09	24		隅丸方形	3.6△×1.4△	5.0△	0.42	4	なし	不明	側溝あり

挿表2　掘立柱建物跡一覧表

遺構名	挿図番号	図版番号	桁×梁(間)	規模(桁)(m)		規模(梁)(m)		床面積(㎡)	主軸方向	遺物	時期
SB−01	25	8	2×2	3.66	3.65	3.36	3.41	12.30	N-22°-E	なし	不明

挿表3　土坑・土壙一覧表

（△は残存値）

遺構名	挿図番号	図版番号	平面形	底面形	規模（長軸－短軸）cm		深さ(cm)	底面ピット（長径×深さ）cm	長軸方向	遺物	備考
					検出面	底面					
SK-01	26	9	楕円形	楕円形	175-147	66-38	152		N-10°-W		
SK-02	27	9	楕円形	楕円形	82-52	43-32	97	16×28	N-13°-W		
SK-03	28		円形	円形	241-234	154-148	34		N-20°-W		
SK-04	29		隅丸長方形	隅丸長方形	△100-84	77-56	83		N-21°-W		
SK-05	30	9	円形	円形	74-61	43-39	111	10×17	N-4°-W		
SK-06	31・32	10・16	隅丸長方形	隅丸長方形	266-241	210-173	62		N-22°-W	土師器甕・甑脚坏 須恵器坏蓋・坏身・高坏	
SK-07	33・34	16	円形	円形	97-84	80-77	88		N-75°-W	突帯文土器	
SK-08	35		長方形	長方形	123-64	77-28	105	8×6	N-67°-W		
SK-09	36・37	10・16	円形	楕円形	419-352	396-335	14	47×23	N-18°-W	石庖	ピット（長47×短31－深23）cm 縄文時代の住居跡か？
SK-10	38・39	16	楕円形	楕円形	108-77	69-38	15		N-60°-W	土師器甕胴部	
SK-11	40		楕円形	隅丸長方形	120-102	64-58	102	16×38	N-12°-E		
SK-12	41		円形	円形	86-78	51-50	97		N-30°-W		
SK-13	42		円形	円形	87-71	50-33	94	19×23	N-40°-W		
SK-14	43		隅丸長方形	隅丸長方形	76-64	59-57	104		N-50°-W		
SK-15	44		楕円形	楕円形	110-96	51-43	136		N-22°-E		
SK-16	45		楕円形	楕円形	81-63		27		N-18°-W		
SK-17	46		隅丸長方形	隅丸長方形	73-56	63-57	95	17×24	N-46°-W		
SK-18	47		隅丸長方形	隅丸長方形	125-83	104-56	90		N-20°-E		
SK-19	48		円形	円形	92-90	58-52	100	14×12	N-78°-W		
SK-20	49	9	円形	円形	77-68	46-43	145		N-55°-W		
SK-21	50		長方形	楕円形	98-77	75-55	63	32×28	N-77°-E		
SK-22	51		隅丸長方形	隅丸長方形	129-87	74-58	86	36×17	N-34°-W		
SK-23	52		方形	方形	63-61	48-46	55		N-58°-W		
SK-24	53	9	隅丸長方形	隅丸長方形	92-72	68-51	104	6×12 5×8 4×6	N-78°-W		
SK-25	54		隅丸長方形	隅丸長方形	120-61	79-33	39		N-87°-E		
SK-26	55		長方形	長方形	101-67	101-55	25	22×23	N-18°-E		
SK-27	56		楕円形	楕円形	116-96	47-23	29		N-18°-E		
SK-28	57		円形	円形	84-83	76-56	34		N-35°-W		
SK-29	58		円形	円形	120-112	48-31	64		N-31°-E		
SK-30	59		隅丸長方形	隅丸長方形	104-73	68-39	79	18×13	N-16°-W		
SK-31	60		隅丸長方形	隅丸長方形	98-53	96-52	69		N-17°-W		中層部最大長軸1.15m
SK-32	61		楕円形	楕円形	91-89	54-43	68	18×18	N-73°-E		

挿表4　土器・土製品観察表

①口径　②器高　③最大径　④底部径　⑤脚部径　⑥長さ　⑦幅　⑧厚さ　※復元値　△残存値　◎推定値

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種別 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po 1 10 13	1267 (1736)	S I -01	土師器 甕	①24.0※ ②4.8△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部タテ・左方向へラケズリ。	細粒含む	良好	内外面淡茶褐色	
Po 2 10 13	1257 (1726) 1262 (1731) 1314 (1791) 1719 (2601)	S I -01	土師器 高坏	①15.0※ ②3.6△	内湾気味に外傾して立ち上がる。口唇部は外反する。端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面赤茶色	内外面赤色顔料塗付
Po 3 10 13	1322 (1796)	S I -01	須恵器 坏身	①10.0 ②3.7	立ち上がりは短く内傾し、立ち上がり端部及び受部先端は丸くおさめる。底部はやや平たい。	外面…底部当へラケズリ後ナデ。他は回転ナデ。 内面…底部中央不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細粒含む	良好	内外面灰青色	
Po 4 10 13	1242 (1711) 1243 (1712) 1244 (1713) 1245 (1714) 1246 (1715) 1280 (1749)	S I -01	須恵器 高坏	①16.2※ ②15.2△	坏部は内湾して立ち上がり、端部は丸くおさめる。	外面…回転ナデ。 内面…口縁部回転ナデ。底部不整方向ナデ。	緻密	良好	外面淡灰青色	
Po 5 13 13	1691 (2259) (2298)	S I -02	土師器 甕	①20.6※ ②5.6△	外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面赤褐色	
Po 6 13 13	1685	S I -02	土師器 甕	①16.4 ②14.4	短く外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。肩部は張らない。	外面…口縁部ヨコナデ。胴部上半タテハケ。下半横方向ハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。胴部上方向へラケズリ。底部指頭圧痕。	密	良好	内外面淡褐色	
Po 7 13 13	1518 1690 (2233)	S I -02	須恵器 坏蓋	①11.4※ ②3.8△	口縁部は内湾しながら下り、端部近くで外反気味となる。端部は丸くおさめる。稜はない。	外面…天井部回転へラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po 8 13	1727 (2869)	S I -02	須恵器 坏身	①10.4※ ②1.7△	立ち上がりは外反しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po 9 13 13	1690 (2232)	S I -02	須恵器 高坏	②7.9△ ⑤10.7※	坏部底面はゆるく内湾する。脚部は外反して下方に下り、端部は上下に引き出され丸くおさめる。脚部3方向に円形透し。	外面…坏部回転へラケズリ後回転ナデ。脚部回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面淡灰褐色	三方透し
Po10 13 13	1690 (2243)	S I -02	須恵器 口縁	①14.8※ ②5.25△	直線的にやや外傾しながら立ち上がる口縁。口縁端部は平坦面をなし、内側へわずかに引き出す。	外面…口縁部回転ナデ。基部にタタキ目痕。 内面…口縁部回転ナデ。頸部同心円文タタキ。	密	やや不良	内外面淡灰褐色	
Po11 14 13	1706 (2492)	S I -03	土師器 甕	①20.0※ ②5.5△	外反する「く」の字状口縁。口縁端部はつまみ出し気味に丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po12 14 13	1708 (2522)	S I -03	土師器 甕	①15.0※ ②3.6△	外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…風化により調整不明。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密。細砂混	良好	内外面淡赤褐色	
Po13 14 13	1704 (2417) 1707 (2476)	S I -03	須恵器 坏蓋	①12.6※ ②3.3△	口縁部はやや内湾しながら端部に至る。端部内側に鈍い段をなす。口縁部と天井部の境に鈍い稜がつく。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po14 17 13	1687 (2192) (2193)	S I -04	土師器 甕	①14.0※ ②3.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面赤茶色	
Po15 17 14	1687 (2196)	S I -04	土師器 甕	①12.4※ ②3.0△	外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。全体的に薄手で小型。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部上方向へラケズリ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po16 17 14	1569 (2067)	S I -04	須恵器 坏蓋	①12.0※ ②2.8△	口縁部はやや内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。口縁部と天井部の境には鈍い稜がつく。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po17 17 14	1684 (2041)	S I -04	須恵器 坏身	①9.4※ ②3.4△	口縁部はやや外反しながらゆるやかに内湾する。端部は丸くおさめる。底部はほぼ平ら。	外面…口縁部回転ナデ。底部へラケズリ。底部中央ヘラ切り未調整。 内面…口縁部回転ナデ。底部不整方向ナデ。	緻密	良好	内面灰色 外面淡灰青色	
Po18 17 14	1683 (2040)	S I -04	須恵器 高坏	②8.7△ ④9.2 ⑤16.1	坏部口縁部はやや内湾気味に上方にのびる。口縁端部は丸くおさめる。脚部は直線気味に下方に下り、端部で段をなし下方に屈曲する。脚部2方向に線状の透し。	外面…坏底部回転へラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰褐色	二方透し
Po19 17 14	1557 (2055) 1586 (2084) 1881 (5824) (5833) 1884 1886 (6176)	S I -04	須恵器 口縁	①12.0※ ②2.4△	直線的に外傾する口縁部。口縁端部は外側へ大きく引き出す。口縁部下に1条の沈線が巡りその下で段をなす。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po20 17 14	1341 (1820) 1406 (1886) 1574 (2072)	S I -04 S S -03	須恵器 椀	①10.0※ ②5.9△	直立気味に立ち上がり、口縁部直下で内側へゆるく屈曲する。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	若干自然釉

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po21 19 14	1852 (4594)	S I -05	土師器 甕	①15.4※ ②9.2△	口縁部は「く」の字状。胴部はふくらみが小さく、口縁の広がりと同程度のふくらみをもつ。口縁端部は丸くおさめる。	内面…口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリのあとナデ調整。 外面…口縁部工具によるヨコナデ。胴部ハケ目。	砂粒を含む	良好	内面黄橙色 外面橙色	頸部から胴部にかけて部分的にスス付着。
Po22 19 14	1848 (4558)	S I -05	土師器 甕	①16.2※ ②5.6△	口縁は「く」の字状。ややふくらみ加減になっている。口縁端部はつまみ出し。	風化のため調整不明。	やや粗	良好	内外面明赤褐色	
Po23 19 14	1822 (4028) 1849 (4577)	S I -05	須恵器 高坏坏部	①12.0※ ②2.6△	坏部はわずかに内湾しながら外傾し、口縁端部でわずかに外反し、引き出すようにしておさめる。外面の口縁部と底部の境に稜をもつ。	外面…口縁の上約2cmのところに稜線があり、それを境に口縁部側は回転ナデ。天井部側はケズリ。	緻密。1mm以下の細かい砂粒を含む	良好	内外面灰黄褐色	
Po24 19 14	1849 (4575)	S I -05	須恵器 坏身	①11.4※ ②2.4△	立ち上がりは内傾する。端部はつまみ出す。受部は上方にのびる。	内外面ナデ調整。	緻密	良好	内外面淡黄褐色	
Po25 19 14	1851 (4593)	S I 05	須恵器 坏蓋	①9.6 ②3.9	口縁部は内湾し直立気味。端部は丸くおさめる。天井部は丸く中央がくぼんでいる。天井部と口縁部の境は不明瞭。	外面…口縁部回転ナデ。天井部ヘラ切り後ナデ調整。 内面…口縁部回転ナデ。天井部不整方向ナデ。	緻密	やや不良	内外面褐灰色	内面ヘラ記号。焼成時の火ぶくれがみられる。
Po26 19 14	1877 (5314) 1889 (6643) 1905 (6127)	S I -05	須恵器 脚部	②2.2△ ⑤8.6※	透し孔は直線の切り込みを入れる。脚端部は外側に張りだきせ、丸くおさめる。	内外面工具による丁寧な回転ナデ。	緻密。1mm以下の砂粒を少量含む	良好	内面灰黄褐色 外面灰色	
Po27 20 15	1878 (5455) (5475) (5476) (5477) (5478) (5479) (5481) (5482) (5483) (5488) (5493)	S I -06	土師器 甕	①17.0 ②15.7∧	やや外傾して立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部は平坦面をなす。	外面…口頸部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。胴部右方向ヘラケズリ。	1～2mmの砂粒少量含む	やや不良	内外面淡褐色	
Po28 20 15	1846 (4483)	S I 06	土師器 甕	①22.4※ ②4.5∧	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	1～2mmの砂粒を含む	良好	内外面褐色	
Po29 20 15	1846 (4459) (4480)	S I -06	土師器 高坏	①14.2※ ②5.1∧	坏部は底部から屈曲して外方へ直線的にのび、端部はやや外反し丸くおさめる。口縁部と底部との境に明瞭な段をもつ。	内外両風化のため調整不明。	密	やや不良	内外面橙色	
Po30 20 15	1846 (4356) (4462) (4526) 1861	S I 06	土師器 台付椀	②3.2△ ⑤11.2※	台付きの椀底部。台部は薄く高い。	外面…ヨコナデ 内面…不整方向ナデ。	2mm以内の砂粒を含む	良好	内外面黄橙色	内外面赤色顔料塗布
Po31 20 15	1878 (5473)	S I -06	須恵器 坏蓋	①14.2※ ②4.0△	口縁部は内湾しながら下り、端部近くで外側に屈曲させる。端部はつまみ出すようにおさめる。稜は上下を強くナデることで高く突出させている。	外面…回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	1～2mmの砂粒を含む	不良	内外面暗褐色	
Po32 20 15	1845 (4497)	S I -06	須恵器 坏蓋	②2.8∧	天井頂部に中央部の凹むつまみがつく。つまみ中央は少し盛り上がり「W」状を呈する。	外面…天井部カキ目。つまみ・口縁部回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内面灰色 外面青灰色	
Po33 20 15	1854 (4345) (4350) (4368) (4369) (4376) (4378) (4415) (4417) (4425) (4451) (4490) (4498) (4499) (4510) (4517) (4543) 1862 (4734) (4744) (4745) (4746) 1873 1879 (5457) (5468) (5472)	S I -06	須恵器 甕	①14.9※	口頸部から口縁部にかけて直線気味に外傾し、口縁端部は上方へ細く引き出される。端部外面は強くナデてやや凹ませる。口縁部は肥厚する。	外面…口縁部回転ナデ。肩部タテハケ。胴部下半カキ目。 内面…口縁部回転ナデ。肩部・胴部同心円文タタキ。	密	やや不良	内外面灰白色	
Po34 20 15	1845 (4428) (4430) (4431) 1862 (4755) (4757) (4761)	S I -06	須恵器 甕	①11.6 ②9.3∧	口縁部はやや外反しながら外傾し、口縁端部外面は平坦面をなす。肩部はあまり張らない。	外面…口縁部回転ナデ。胴部平行タタキ。 内面…口縁部から基部回転ナデ。基部以下車輪文タタキ。	密	良好	内外面緑灰色	
Po35 20 15	1845 (4542)	S I -06	須恵器 口縁	②4.4△	外反しながら外傾する口縁。端部は上方へ引き出される。口縁部は肥厚し、端部下に稜がつく。稜の下には1条の沈線を挟んで2条の櫛状工具による波状文が巡る。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po36 20 15	1845 (4501)	S I -06	須恵器 口縁	②6.7△	ゆるく外反しながら外傾する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。口縁部は肥厚し、3条の沈線の間に櫛状工具による2条の波状文が巡る。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	調整・焼成等よりPo267と同一個体の可能性有り
Po37 20 15	1845 (4421) (4422) (4426) (4427) (4435) (4447) (4489) 1862 (4751) 1879 (5469)	S I -06	須恵器 底部	②10.8△ ③19.6*	底部はやや内湾する平坦面をなす。胴部は直立気味に立ち上がる。平瓶の底部か？	外面…粗いカキ目 内面…底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰白褐色	平瓶か？
Po38 22 16	1808 (3870)	S I -07	須恵器 高杯	①13.0* ②8.8 ⑤10.0*	坏部口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、端部は引き出すようにしておさめる。外面の口縁部と底部の境に段をもつ。脚部は外反して下方に下り、端部は上下にわずかに引き出し丸くおさめる。脚部2方向に円形の透し。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。口縁部回転ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面褐色	二方透し
Po39 32 16	623 (848)	S K-06	須恵器 甕	①14.4* ②3.9△	口縁部は内湾気味に立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部は内側へわずかに肥厚し、上部が平坦面をなす。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po40 32 16	497 (723) 637 (938)	S K-06	須恵器 甕	①15.4* ②2.2△	口縁部はやや外反気味に端部に至る。端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密。微細砂粒含む	良好	内外面黄褐色	
Po41 32 16	946 (974)	S K 06	土師器 低脚坏脚部	②4.15△ ⑤7.9	「ハ」の字状に開く脚部。脚端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。脚基部にユビオサエ痕。 内面…脚部下半ヨコナデ。上半ヘラオサエ後粗いナデ。坏部底面ナデ。	密	良好	内外面橙黄褐色	
Po42 32 16	263(457) 264(458) 269(463)	S K-06	須恵器 坏蓋	①12.1* ②4.1△	口縁部はゆるやかに内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。天井部はほぼ平ら。	外面…天井部のほとんど回転ヘラケズリ。頂部はヘラ切り未調整。口縁部回転ナデ。 内面…天井部頂部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	不良	内外面灰白色	
Po43 32 16	266 (460) 270 (464) 272 (466) 273 (467) 274 (468) 624 (922)	S K-06	須恵器 坏身	①10.2 ②3.4	立ち上がりは外反しながら内傾する。端部は薄く引き出される。受部は斜め上方へのびる。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po44 32 16	500 (726)	S K-06	須恵器 高坏脚部	②1.9△ ⑤12.4◎	ゆるやかに外反しながら下方へのびる。脚端部が内側に屈曲する。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内面黄褐色 外面灰褐色	
Po45 32 16	175 268 (462) 285	S K-06	須恵器 口頸部	①15.0* ②4.4△	口縁部はやや外反しながら端部に至る。端部は内側へわずかに肥厚し、上部が平坦面をなす。頸部に1条の稜線。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内面灰青色 外面灰茶白色	
Po46 34 16	545 (771)	S K-07	縄文土器 口縁部	②2.0△	やや外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめ刻み目を施す。	内外面ナデ。	細砂粒を含む	良好	内外面灰色	
Po47 34 16	477 (717)	S K 07	縄文土器 口縁部	②2.5△	やや外傾する口縁部。口縁端部は丸くおさめ刻み目を施す。	内外面ナデ。	1～2㎜程度の砂粒多く含む	良好	内面橙褐色 外面暗灰褐色	
Po48 34 16	472(712)	S K-07	縄文土器 口縁部	②1.7△	ほぼ直立する口縁部。口縁端部は丸くおさめ、上端に刻み目を施す。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	内外面ナデ。	1～2㎜程度の砂粒含む	良好	内外面黒茶色	
Po49 38 16	493 (720)	SK-10	土師器甕	②6.7△	甕胴部の破片。肩部はあまり張らない。	外面…頸部付近にタテハケ後ヨコナデ。肩部以下ヨコナデ。 内面…肩部に指頭圧痕残る。肩部以下に斜め上方向のヘラケズリ。	1～2㎜の砂粒含む	良好	内外面淡黄褐色	
Po50 65 16	342 (536)	S D-01	縄文土器 押型文	②2.2△	外面に押型文（山形文）を施す。	外面…横位の山形文。 内面…ナデ。	1～2㎜の砂粒・繊維を含む	良好	内外面褐色	
Po51 65 16	344 (538)	S D-01	縄文土器 口縁	②3.8△	ゆるく外反する口縁部。端部は丸くおさめる。	内外面風化のため調整不明。	1～2㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面黄褐色	
Po52 65 16	375 (584)	S D-01	縄文土器 口縁	②3.4△	外傾する口縁部。端部は丸くおさめる。	内外面ナデ。	1～2㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面黄褐色	
Po53 65 16	244 (296)	S D-01	縄文土器 口縁	②5.0△	ゆるく外反する口縁部。端部は尖り気味におさめる。	外面…ナデ。 内面…深く幅広い斜行沈線。	砂粒・繊維を含む	良好	内面赤茶色 外面暗茶色	口縁端部内面にスス付着
Po54 65 16	346 (540)	S D-01	縄文土器 押型文	②2.2△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…斜位の楕円文。 内面…深く幅広い斜行沈線。	細砂粒・繊維を含む	良好	内面黄褐色 外面赤茶色	
Po55 65 16	308 (503)	S D-01	縄文土器 押型文	②3.2△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…斜位の楕円文。 内面…風化のため調整不明。	細砂粒・繊維を含む	良好	内面赤茶色 外面茶褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po56 65 16	341 (535)	SD-01	縄文土器 押型文	②6.7△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…ナデ。	1～2㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内面茶褐色 外面暗茶色	
Po57 65 16	331 (526)	SD-01	縄文土器 押型文	②6.3△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…風化のため調整不明。	1～2㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内面赤褐色 外面暗茶褐色	
Po58 65 16	372 (581)	SD-01	縄文土器 押型文	②7.3△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…上半に浅く幅広く斜行沈線。下半ナデ。	1～4㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面茶色	
Po59 65 16	334 (529)	SD-01	縄文土器 押型文	②8.0△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…ナデ。	1～5㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面黒茶色	
Po60 65 16	482(586)	SD-01	縄文土器 押型文	②10.2△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…ナデ。	1～3㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面黄茶褐色	
Po61 65 16	217 (284)	A区 遺構外	縄文土器 押型文	②1.9△	外面に押型文（楕円文）を施す胴部片。	外面…斜位の楕円文。 内面…ナデ。	1㎜程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面茶	
Po62 66 17	449 (683) 964 (1351)	SD-03 C区谷部	須恵器 口頸部	①13.4※ ②6.0△	ゆるく外反して立ち上がり、口縁端部で上下に拡張される。端部外面に1条の沈線を施す。頸部には櫛描波状文が巡り、頸部下端に1条の沈線を施す。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面濃灰色	
Po63 68 17	641 (946)	SS-02	土師器 甕	①13.4※ ②2.7△	内湾気味に外傾する口縁部。端部は内側へ引き出すようにおさめる。	内外面ナデ。	1～2㎜の砂粒を含む	良好	内外面赤褐色	
Po64 70 17	1701	SS-03	土師器 甕	①20.4※ ②3.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面灰褐色	外面スス付着
Po65 70 17	1379 (1852)	SS-03	土師器 甕	①17.8※ ②3.35△	わずかに内湾してから外反する「く」の字状口縁。端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面赤褐色	
Po66 70 17	1390 (1870)	SS-03	土師器 甕	①23.2※ ②4.9△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…風化のため調整不明。	密	良好	内外面赤褐色	
Po67 70 17	1362 (1841)	SS-03	土師器 甕	①23.0※ ②4.8△	外反する「く」の字状口縁。端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	外面スス付着
Po68 70 17	108 (22) 110 (25) 1688 (2217)	SS-03 T-1	土師器 甕	①25.2※ ②6.3△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出すようにしておさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	細粒含む	良好	内外面淡茶褐色	
Po69 70 17	1335 (1814) 1337 (1816) 1338 (1817)	SS-03	須恵器 坏蓋	①12.6※ ②3.9△	口縁部は内湾しながら下り、端部近くでわずかに外反する。端部は丸くおさめる。稜はない。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部回転ナデ後不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po70 70 17	1718 (2594)	SS-03	須恵器 坏蓋	①12.6※ ②2.9△	口縁部はやや内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。口縁部と天井部の境にはやや鈍い稜がつく。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po71 70 17	1668 (2166)	SS-03	須恵器 坏身	①11.0※ ②2.2△ ③13.6※	立ち上がりは直線気味に内傾し端部に至る。端部は引き出し気味に丸くおさめる。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po72 70 17	1326 (1805)	SS-03	須恵器 坏身	①11.0※ ②2.05△	立ち上がりはやや外反しながら内傾し端部に至る。端部は丸くおさめる。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面淡灰褐色	
Po73 70 17	1724 (2862)	SS-03	須恵器 坏身	①12.0※ ②2.3△ ③14.4※	立ち上がりはやや外反しながら内傾し端部に至る。端部は薄く引き出される。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po74 70 17	1457 (1937)	SS-03	須恵器 坏身	①10.0※ ②1.7△ ③12.2※	立ち上がりはやや内湾しながら内傾し端部に至る。端部は引き出し気味に丸くおさめる。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面淡褐色	
Po75 70 17	1414 (1894)	SS-03	須恵器 坏身	①10.6※ ②2.3△	立ち上がりはやや外反しながら内傾し端部に至る。端部は薄く引き出される。受部は斜め上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰褐色	
Po76 70 17	1443 (1923)	SS-03	須恵器 坏身	①11.0※ ②2.1△ ③13.0※	立ち上がりは直線気味でやや内傾し端部に至る。端部は薄く引き出される。受部はやや上方へ引き出される。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po77 70 17	572 (798) 679 (1061) 1017 (1406) 1410 (1840) 1411 (1891) 1412 (1892) 1667 (2165) 1723 (2691) 1728 (2906) 1749 (3212) 1753 (3352) (3354) 1758 (3451) 1805 (3783) 1866 (5113) 1881 (5746) (5750) 1882 (5957) 1884 1886 (6303) 1890	SS-03 C区谷部	須恵器 長頸壺	①8.2※ ②14.3△ ③17.0※	頸部以上を欠く長頸壺。胴部は肩部がやや張る。肩部外面には2条単位の沈線が3対巡り、沈線間にヘラ状工具による刻み目が2段にわたり施される。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	
Po78 73 17	1316 (1797)	SS-04	須恵器 高坏	②6.3△ ④9.4※	坏部口縁部を欠損。脚部はゆるく外反して下方へ下り、端部は上下に引き出されて丸くおさめる。脚部2方向に線状の透し。	外面…回転ナデ。 内面…坏部底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。脚部回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	二方透し
Po79 74 17	13	T-13	縄文土器 押型文	②4.8△	ゆるく外反する口縁部。端部は丸くおさめる。外面に押型文(楕円文)を施す。	外面…斜位の楕円文。 内面…ナデ。	1mm程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面褐色	
Po80 74 17	850 (1235)	C区	縄文土器 押型文	②4.5△	外面に押型文(楕円文)を施す胴部片。	外面…縦位の楕円文。 内面…ナデ。	1mm程度の砂粒・繊維を含む	良好	内外面橙褐色	
Po81 74 17	1886 (6172)	C区谷部	縄文土器 肩部	②5.7△	外面に幅広の3条の沈線を施す。	内外面ナデ。	1～2mmの砂粒を含む	良好	内外面橙褐色	
Po82 74 18	1734 (3075)	C区谷部	縄文土器 口縁部	①16.4※ ②3.1△	やや外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにおさめる。外面に突帯を貼付ける。	内面ナデ。	密。1～2mm程度の砂粒を含む	良好	内外面橙褐色	
Po83 74 18	1842	C区谷部	縄文土器 口縁部	②1.9△	ほぼ直立する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。外面に刻み目突帯を貼付ける。	内外面ナデ。	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	内外面橙褐色	
Po84 74 18	1880	C区谷部	縄文土器 口縁部	②2.7△	やや外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	内外面ナデ。	1mm程度の砂粒を含む	良好	内外面褐色	
Po85 74 18	1882 (5964)	C区	縄文土器 口縁部	②3.7△	やや外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	内外面風化のため調整不明。	1～2mmの砂粒を含む	やや不良	内外面淡褐色	
Po86 74 18	1886 (6418)	C区谷部	縄文土器 口縁部	②2.9△	外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	内外面ナデ。	密。1～2mm程度の砂粒含む	良好	内外面褐色	
Po87 74 18	1886 (6163)	C区谷部	縄文土器 口縁部	②2.9△	やや外反して外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	外面…ナデ。 内面…条痕。	密	良好	内外面灰褐色	
Po88 74 18	1704 (2469)	C区谷部	縄文土器 口縁部	②4.0△	外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	外面…条痕。 内面…ナデ。	密。1～2mm程度の砂粒を含む	良好	内外面褐色。	スス付着
Po89 74 18	985 (1372)	C区	縄文土器 口縁部	②4.5△	外傾する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。口縁部直下に刻み目突帯を貼付ける。	外面…口縁端部から突帯直下までナデ。他は条痕。 内面…ナデ。	密。1～3mm程度の砂粒を含む	良好	内面橙褐色 外面褐色	
Po90 75 18	1715 (2535) (2536)	C区谷部	弥生土器 壺	①25.8※ ②14.0△	大きく外反する口縁部。端部は上下へ拡張され外面に3条の凹線を施す。頸部には4条の凹線で相対的に浮き上がらされた3条の突帯。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコハケ。頸部ヨコ・ナナメハケ。一部ユビオサエ。	緻密。細砂混	良好	内外面淡褐色	外面スス付着
Po91 75 18	1756 (3418) 1880	C区谷部	弥生土器 壺	①17.8※ ②1.6△	大きく外反する口縁部。端部は下方へ拡張され外面に3条の凹線を施す。	内外面ヨコナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰茶色	
Po92 75 18	683 (1065)	C区谷部	弥生土器 壺	①21.1※ ②2.6△	大きく外反する口縁部。端部は上方へ拡張し、外面に3条の凹線を施す。口縁部内面に弧文を施す。	内外面ヨコナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰褐色	スス付着
Po93 75 18	1872 (5250)	C区谷部	弥生土器 壺	①14.2※ ②4.7△	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線を施した後に刻み目。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…ヨコナデ。	密。1mm程度の砂粒含む	良好	内外面褐色	
Po94 75 18	1769 (3512)	C区谷部	弥生土器 無頸壺	①10.2※ ②4.15△	内傾して立ち上がる口縁部。口縁端部は内側に肥厚し上部が内傾する平坦面をなす。口縁部外面に5条の凹線を施す。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po95 75 18	1866 (5098) (5105)	C区谷部	弥生土器 壺	①9.6※ ②3.4△	外面に1条の沈線と刺突文を施す。	内外面ヨコナデ。	密。1～2mm程度の砂粒多く含む	やや不良	内外面淡褐色	
Po96 75 18	1886	C区谷部	弥生土器 甕	①15.8※ ②3.8△	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。肩部タテハケ。 内面…ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po97 75 18	1715 (2658)	C区谷部	弥生土器 甕	①16.7※ ②1.8へ	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線を施す。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面茶褐色	
Po98 75 18	1715 (2645)	C区	弥生土器 甕	①16.8※ ②3.4△	口縁端部上端をつまみあげるくりあげ口縁。外面に4条の凹線を施す。	内外面ヨコナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面淡褐色	
Po99 75 18	1752 (3325) 1761 (3464) 1777 (3566) (3568) 1805 (3838)	C区谷部	弥生土器 甕	①17.3※ ②2.4△	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に2条の凹線を施す。頸部に刻み目突帯が巡る。	内外面ヨコナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰褐色	
Po100 75 18	1715 (2575)	C区谷部	弥生土器 甕	①17.4※ ②2.5△	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に4条の凹線を施す。頸部に刻み目突帯が巡る。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面橙褐色	
Po101 75 18	1765 (3487)	C区谷部	弥生土器 甕	①17.2※ ②5.6へ	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に3条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。肩部以下風化のため調整不明。 内面…口頸部ヨコナデ。肩部タテハケ。	密	良好	内外面褐色	スス付着
Po102 75 18	1886	C区谷部	弥生土器 甕	①20.8※ ②2.5△	口縁端部は内傾し上端を拡張する。外面には凹線が施されるがナデ消される。頸部に刻み目突帯が巡る。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po103 75 18	123 (146)	T-1	弥生土器 甕	①21.3※ ②4.7△	口縁端部は内傾し上下に拡張する。外面に4条の凹線を施す。頸部に刻み目突帯が巡る。	外面…口頸部ヨコナデ。胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。胴部ナナメハケ。	密。1㎜程度の砂粒を含む	良好	内外面淡黄褐色	
Po104 75	1866	C区谷部	弥生土器 甕	①17.0※ ②2.4△	口縁端部は内傾し上端を拡張する。外面に3条の凹線を施す。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po105 75 18	1721 1722	C区谷部	弥生土器 甕	①15.5※ ②5.1へ	ほぼ直立する複合口縁。外面に櫛描平行沈線を施す。屈曲部の稜はわずかに下垂する。	外面…ヨコナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。肩部右方向ヘラケズリ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰褐色	
Po106 75 18	1881	C区谷部	弥生土器 甕	①19.2※ ②3.9△	外反する複合口縁。外面に櫛描平行沈線を施す。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po107 75 18	1866 (4895)	C区谷部	弥生土器 甕	①14.8※ ②3.8△	やや外傾する短い複合口縁。	外面…ヨコナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。肩部左方向ヘラケズリ。	密。1～2㎜程度の細粒含む	良好	内外面赤褐色	
Po108 75 18	1866 (5110)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.5△ ④5.4※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…ヘラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po109 75 18	1777 (3567)	C区谷部	弥生土器 底部	②4.8△ ④5.4※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…ヘラケズリ。	密	良好	内外面茶褐色	
Po110 75 18	1893 (6681)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.5△ ④5.5※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…ナデ。	密	良好	内面褐色 外面橙褐色	
Po111 75 18	1886 (5109)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.65△ ④5.6※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ユビオサエ。	密	良好	内外面褐色	
Po112 75 18	1886 (4965)	C区谷部	弥生土器 底部	②4.1△ ④5.6※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ユビオサエ。	密	良好	内外面赤褐色	
Po113 75 18	1866 (4946)	C区谷部	弥生土器 底部	②2.8△ ④5.6※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po114 75 18	102 (89)	T-1	弥生土器 底部	②3.4△ ④5.8※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ユビオサエ。	密	良好	内外面褐色	
Po115 75 18	1866 (4966)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.8△ ④6.0※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po116 75 18	1887 (6620)	C区谷部	弥生土器 底部	②2.2△ ④6.0※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…ナデ。	密	良好	内面褐色 外面黒褐色	
Po117 75 18	1874 (5449)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.05△ ④6.0※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部風化のため調整不明。底部ユビオサエ。	密	良好	内面褐色 外面灰褐色	
Po118 75 18	1866 (4967) (4971)	C区谷部	弥生土器 底部	②3.6△ ④6.0※	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ナデ・ユビオサエ。	密	良好	内外面褐色	
Po119 75 18	1859 (4675)	C区谷部	弥生土器 底部	②4.8△ ④7.1	平底。	外面…体部ヘラミガキ。底部ナデ。 内面…体部ヘラケズリ。底部ユビオサエ。	密	良好	内外面黒褐色	黒斑有
Po120 75 18	1715 (2630) 1722 (2687)	C区谷部	弥生土器 高坏	①20.8※ ②3.5△	坏部は直線的に外上方へのび、口縁部はわずかに内湾し短く立ち上がる。口縁端部は内側へ肥厚し上部は平坦面をなす。口縁部外面に3条の凹線を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。坏底部不整方向のハケメ。 内面…口縁部ヨコナデ。坏底部タテハケ。	密	良好	内外面赤茶褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po121 75 18	1886 (6354)	C区谷部	弥生土器 脚部	②4.5△ ④12.0※	「ハ」の字状に開く脚部。端部は拡張されて面をもち、外面に2条の凹線を施す。脚部には12条の凹線、上端に左上りの斜行沈線を施す。	外面…ヨコナデ。 内面…脚部ヘラケズリ後ナデ。端部ヨコナデ。	1㎜程度の砂粒を含む	良好	内外面褐色	
Po122 75 18	1865 (4810)	C区谷部	弥生土器 脚部	②3.8△ ⑤12.2※	「ハ」の字状に開く脚部。端部は拡張されて平坦面をなす。脚部外面に凹線を施す。	内外面ヨコナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面赤褐色	
Po123 76 19	1715 (2538)	C区谷部	土師器 甕	①19.8※ ②11.8△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は細長く、端部はつまみ出すようにしておさめる。肩は張らない。	外面…口縁部ヨコナデ。肩部以下ヨコ・ナナメハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向へラケズリ。	密。細砂混	良好	内面淡赤褐色 外面赤褐色	スス付着
Po124 76 19	1886 (6377)	C区谷部	土師器 甕	①16.2※ ②4.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は細長く、端部はつまみ出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po125 76 19	1728 (2967)	C区谷部	土師器 甕	①19.0※ ②4.95△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は細長く、端部はつまみ出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	スス付着
Po126 76 19	1882 (5895) (5994)	C区	土師器 甕	①22.6※ ②4.0△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は細長く、端部はつまみ出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部風化のため調整不明。	密。細砂混	良好	内外面茶褐色	
Po127 76 19	1882 (5905)	C区谷部	土師器 甕	①23.0※ ②6.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は細長く、端部は丸くおさめる。	内外面風化のため調整不明。	密。細砂混	良好	内外面茶褐色	
Po128 76 19	1882 (5946) (6063) (6107)	C区谷部	土師器 甕	①11.0 ②13.2 ③15.0※	短く外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。胴部は肩部が張る。	外面…口縁部ヨコナデ。胴部上半粗いナナメハケ。下半不整方向ハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。胴肩部右方向へラケズリ。体部左方向へラケズリ。底部に指頭圧痕。	密	良好	内外面淡黄褐色	
Po129 76 19	1216 (1608)	C区	土師器 甕	①14.0※ ②4.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。やや薄手。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面黄褐色	黒斑有り
Po130 76 19	258	C区 T-15	土師器 甕	①14.6※ ②3.8△	直立気味に外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は平坦状になる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po131 76 19	1704 (2386)	C区谷部	土師器 甕	①14.7※ ②5.7△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部スス付着のため調整不明。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	スス付着
Po132 76 19	1882 (5984)	C区谷部	土師器 甕	①16.0※ ②3.9△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出し気味におさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコハケ。頸部左方向へラケズリ。	緻密。細粒混	良好	内外面茶褐色	
Po133 76 19	164 (153)	T-1	土師器 甕	①17.2※ ②4.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部はやや外側へ折り曲げるようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po134 76 19	1874 (5595) 1881 (5723)	C区谷部	土師器 甕	①17.2※ ②3.7△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部はやや肥厚し丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密。1㎜程度の砂粒含む	良好	内外面灰褐色	
Po135 76 19	1882 (5985)	C区谷部	土師器 甕	①17.8※ ②5.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。全体に薄手で小型。	外面…口縁部から頸部ヨコナデ。頸部下半タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面淡褐色	
Po136 76 19	1886 (6260)	C区谷部	土師器 甕	①18.0※ ②3.6△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部はつまみ出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po137 76 19	1881 (5642)	C区谷部	土師器 甕	①18.5※ ②3.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁部は薄手で、端部は引き出し気味におさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	スス付着
Po138 77	1726	C区谷部	土師器 甕	①19.8※ ②5.6△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内面灰褐色 外面黄褐色	
Po139 77 19	1866 (4857) (4868)	C区谷部	土師器 甕	①19.4※ ②6.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部以下タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下左方向へラケズリ。	密	良好	内外面赤褐色	
Po140 77 19	1886 (6228)	C区谷部	土師器 甕	①19.6※ ②5.1△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	外面スス付着
Po141 77 19	1887 (6522)	C区谷部	土師器 甕	①19.8※ ②7.9△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部以下タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下左方向へラケズリ。	密	良好	内面褐色 外面黒褐色	
Po142 77 19	1750 (3261)	C区谷部	土師器 甕	①20.7※ ②3.1△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面暗灰褐色	
Po143 77 19	1704 (2456)	C区谷部	土師器 甕	①20.6※ ②5.0△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出すようにしておさめる。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po144 77 19	922 (1309)	C区	土師器 甕	①22.4※ ②5.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密。微細粒含む	良好	内面赤褐色 外面赤茶褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	層位 遺構	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po145 77 19	1887 (6617)	C区谷部	土師器 壺	①22.6㎜ ②6.6△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部の開きは弱い。口縁端部はわずかに肥厚し丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po146 77 19	168	T-1	土師器 壺	①22.6㎜ ②25.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	繊密。雲母含む	良好	外面黒色	
Po147 77 19	1886 (6374)	C区谷部	土師器 壺	①22.8㎜ ②25.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密。砂粒微含む	良好	内外面淡褐色	
Po148 77 19	1866 (4852)	C区谷部	土師器 壺	①22.7㎜ ②24.7△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は厚手で丸くおさめる。	外面—ヨコナデ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po149 77 19	1721	C区谷部	土師器 壺	①23.2㎜ ②27.9△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面淡褐色	
Po150 77 19	1881 (5821)	C区谷部	土師器 壺	①23.6㎜ ②27.3△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出し気味にしておさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部以下タテハケ。 内面—口縁部ヨコハケ後粗いヨコナデ。頸部以下ヘラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po151 77 19	1868 (5070)	C区谷部	土師器 壺	①25.6㎜ ②26.7△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po152 77 19	1882 (6032)	C区谷部	土師器 壺	①25.6㎜ ②27.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	繊密	良好	内外面茶褐色	
Po153 77 19	1865 (4798) (4800)	C区谷部	土師器 壺	①25.4㎜ ②26.0△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po154 77 19	1805 (4801) (4838) 1866 (4968)	C区谷部	土師器 壺	①26.0㎜ ②26.1△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po155 77 19	1040 (1429)	C区	土師器 壺	①25.8㎜ ②24.8△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po156 77 19	1866 (4953)	C区谷部	土師器 壺	①25.0㎜ ②26.3△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部相いタテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po157 77 19	1866 (5143)	C区谷部	土師器 壺	①26.0㎜ ②28.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—ヨコナデ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面黒色	スス付着
Po158 77 19	1865 (4794)	C区谷部	土師器 壺	①26.9㎜ ②27.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—ヨコナデ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向へラケズリ。	密	良好	内外面焦茶色	スス付着
Po159 77 19	1865 (4855)	C区谷部	土師器 壺	①26.6㎜ ②26.9△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は引き出し気味に丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコハケ後ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密。1～2㎜程度の砂粒含む	良好	内面茶褐色 外面茶褐色	スス付着
Po160 77 19	1704 (2403)	C区谷部	土師器 壺	①26.2㎜ ②28.2△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。頸部はあまり張らない。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部以下タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部以下左方向へラケズリ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po161 77 19	1886 (6245)	C区谷部	土師器 壺	①27.5㎜ ②25.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコハケ後ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po162 78 19	1816 (3914)	C区谷部	土師器 壺	①27.9㎜ ②25.8△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—ヨコナデ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po163 78 19	1887 (6639)	C区谷部	土師器 壺	①27.6㎜ ②11.8△	外傾する「く」の字状口縁。端部近くで屈曲が大きくなる。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部相いタテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。胴部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po164 78 19	1866 (5047)	C区谷部	土師器 壺	①28.0㎜ ②24.1△	外傾する「く」の字状口縁。端部近くで屈曲が大きくなる。端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po165 78 19	1839 (4142)	C区谷部	土師器 壺	①29.6㎜ ②24.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—ヨコナデ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po166 78 19	1873 (5229)	C区谷部	土師器 壺	①30.0㎜ ②25.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	内面スス付着
Po167 78 19	1887 (6518)	C区谷部	土師器 壺	①8.6㎜ ②3.2△	外傾する短い口縁。口縁端部は丸くおさめる。全体的に小型。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面—口縁部ヨコナデ。頸部右上方向へラケズリ。	繊密。細砂含	良好	内面淡茶褐色 外面暗赤褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po168 78 19	1887 (6512)	C区谷部	土師器 甕	①11.0※ ②6.1△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。全体的に薄手で小型。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po169 78 19	1887 (6508)	C区谷部	土師器 甕	①12.0※ ②3.5△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部はわずかに肥厚し丸くおさめる。全体的に薄手で小型。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部左方向へラケズリ。	緻密。細粒混	良好	内外面淡茶褐色	
Po170 78 19	1887 (6501)	C区谷部	土師器 甕	①12.0※ ②4.3△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。全体に薄手で小型。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密。細粒混	良好	内外面淡茶褐色	
Po171 78 19	1715 (2640)	C区谷部	土師器 甕	①12.0※ ②3.4△	外傾する「く」の字状口縁。口縁端部はやや肥厚し、上部を強くナデて平坦面をなす。	外面…口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ。 内面…口縁部ヨコハケ後ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密	良好	内外面褐色	
Po172 78 20	1885	C区	土師器 甕	①14.0※ ②4.4△	外傾して立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po173 78 20	1874 (5421) (5422)	C区谷部	土師器 甕	①15.4※ ②4.3△	外傾して立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色	
Po174 78 20	1882 (6108) 1885	C区谷部	土師器 甕	①18.2※ ②4.7△	外傾して立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色	スス付着
Po175 78 20	170	T-10	土師器 甕	①21.6※ ②6.2△	直立気味に立ち上がる退化した複合口縁。口縁端部はやや肥厚して内傾する平坦面をなし、凹線が巡る。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。頸部右方向へラケズリ。	密。1㎜程度の砂粒含む	良好	内外面褐色	
Po176 78 20	1715 (2641)	C区谷部	土師器 脚台部	②3.0△ ⑤7.9	ゆるく内湾しながら開く脚台。	外面…ヨコナデ。 内面…底部ナデ。脚台部左方向へラケズリ。頂部ユビオサエ。	密	良好	内外面褐色	
Po177 78 20	1865 (4792)	C区谷部	土師器 低脚坏	②4.2△ ⑤8.0※	「ハ」の字状に開く脚部。脚端部は上方にわずかに肥厚し、直立気味の平坦面をなす。	外面…ヨコナデ。 内面…脚上部ヘラオサエ。他はヨコナデ。坏部風化のため調整不明。	密	良好	内外面橙黄褐色	
Po178 78 20	1881 (5862)	C区谷部	土師器 低脚坏	②3.25△ ⑤9.0	「ハ」の字状に開く脚部。脚端部は上方にわずかに肥厚し、外傾する平坦面をなす。	内外面ヨコナデ。	密	やや不良	内外面橙黄褐色	
Po179 78 20	1874 (5593) (5594) 1886 (6165)	C区谷部	土師器 高坏	①15.0※ ②7.2△	口縁部はやや内湾気味に内傾し、端部は外側にわずかに肥厚し、上部は内傾する平坦面をなす。胴部は内湾する。	外面…脚部との接合部に放射状のハケメ。上方に横方向ハケ後ナデ。口縁部から胴部ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。胴部横方向へラミガキ。底部不整方向ヘラミガキ。	緻密。細砂粒混	良好	内外面赤茶色	
Po180 78 20	1722 (2734) 1885	C区谷部	土師器 坏部	①13.3※ ②3.6△	椀状の坏部。口縁部は内湾しながらやや内傾する。端部は平坦面をなす。	外面…口縁部ヨコナデ。底面風化のため調整不明。 内面…ヨコナデ。	密	良	内外面赤茶色	
Po181 78 20	1882 (5992)	C区谷部	土師器 坏部	①13.0※ ②4.1△	椀状の坏部。口縁部は内湾しながらやや内傾する。口縁端部は丸くおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ後ナデ消し。 内面…口縁部ヨコナデ。底部横方向へラミガキ。	緻密	良好	内面淡赤褐色 外面赤褐色	
Po182 78	1706 (2464)	C区谷部	土師器 坏部	①15.0※ ②3.2△	椀状の坏部。口縁部は直線的にやや内傾する。口縁端部は外側へつまむようにおさめる。	外面…口縁部ヨコナデ。底部風化のため調整不明。 内面…ヨコナデ。	緻密	良好	内外面淡赤褐色	
Po183 78 20	195	T-17	土師器 椀	②4.5△	丸底の椀。口縁端部を欠くが口縁部はほぼ内湾しながら内傾する。	内外面ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po184 78 20	1756 (3420)	C区谷部	土師質土器 底部	②1.7△	高台の付く底部。	外面…高台内部風化のため調整不明。体部から高台部ヨコナデ。 内面…底部不整方向ナデ。	密	良	内外面赤茶色	
Po185 79 20	369	C区	手捏ね土器	①2.4※ ②1.9	平底からやや内湾しながら外傾する立ち上がり。	内外面ユビオサエ後ナデ。	粗い	良	内外面淡茶褐色	
Po186 79 20	369	C区	手捏ね土器	①3.0※ ②1.9△	尖り気味の底部から内湾しながら外傾する立ち上がり。端部は丸くおさめる。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po187 79 20	1189 (1583)	C区	手捏ね土器	①3.2 ②2.1	丸みをもつ底部からゆるく内湾しながら外傾する。口縁端部は引き出し気味におさめる。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po188 79 20	1839	C区	手捏ね土器	①3.2※ ②2.2△	尖り気味の底部から内湾しながら外傾する立ち上がり。	内外面ユビオサエ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po189 79 20	733 (1115)	C区	手捏ね土器	①2.6 ②2.5	平底からゆるく内湾しながら外傾する。口縁端部は引き出し気味におさめる。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po190 79 20	835 (1220)	C区谷部	手捏ね土器	①4.4 ②3.0	底部よりわずかに外反して立ち上がり口縁端部に至る。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密。1㎜程度の砂粒含む	良好	内外面褐色	
Po191 79 20	1886 (6148)	C区	手捏ね土器	①4.1 ②2.8△	底部から直立気味に短く立ち上がる口縁。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po192 79 20	1012 (1907)	C区谷部	手捏ね土器	①4.4※ ②2.0△	口縁部が短く立ち上がる浅い椀形を呈す。口縁部の一部に注ぎ部を意識したような凹みがある。底部は丸底。	内外面ユビオサエ後ナデ。	密	良好	内面褐色 外面黒褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po193 79 20	1882 (6122)	C区谷部	手捏ね土器	①6.0 ②5.3	内湾しながら外傾し、強いユビオサエで頸部をつくる。口縁部は外側へ折り曲げるようにしておさめる。	外面…口縁部から頸部ユビオサエ。胴部以下ユビオサエ後ナデ。 内面…ユビオサエ。	密。細粒混	良好	内面淡褐色 外面黒褐色	
Po194 79 20	68	T-1	手捏ね土器	①5.6※ ②5.0	小壺形を呈し、強く押えることで頸部をなす。口縁端部は外側に折り曲げておさめる。	外面…頸部ユビオサエ。口縁部・胴部ユビオサエ後ナデ。 内面…ユビオサエ後ナデ。	密。微細粒含む	良好	内外面灰褐色	黒斑有り
Po195 79 20	92 (92)	T-1	手捏ね土器	①6.0 ②6.0	小壺形を呈し、強く押えることで頸部をなす。口縁端部は外側に折り曲げておさめる。	外面…頸部ユビオサエ。口縁部・胴部ユビオサエ後ナデ。 内面…口縁部ユビオサエ後ナデ。胴部ユビオサエ。	密。1～2㎜程度の砂粒含む	良好	内外面橙褐色	黒斑有り
Po196 79 20	1728 (2956)	C区谷部	手捏ね土器	①5.0※ ②6.0△	丸みをもつ平底から直立気味に立ち上がる。	外面…風化のため調整不明。 内面…ヨコナデ。	密。1㎜程度の砂粒含む	良好	内外面灰褐色	底部外面に籾圧痕
Po197 80 21	1882 (5947) 1884	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.8※ ②4.4△	口縁部はゆるく内湾しながら直立気味に端部に至る。端部内面は鋭い段をなす。稜は2条の沈線によって相対的に浮び上がらせている。天井部は平ら。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po198 80 21	1733 (3050) 1880 1884 1885 (4664)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①14.0※ ②3.2△	口縁部は内湾気味に端部に至る。稜は1条の沈線を巡らせるもので、稜の上部もわずかに凹ませる。口縁端部内面の段は沈線を1条巡らせたものである。	外面…天井頂部ヘラ切り後粗いナデ。他の天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po199 80 21	1715 (2609) 1728 (2899)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.2※ ②3.9△	口縁部はわずかに内湾気味に端部に至る。端部内面は1条の沈線により段を意図している。稜は幅広で鈍い。天井部はほぼ平ら。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部中央不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po200 80	1721	C区谷部	須恵器 坏蓋	①13.0※ ②3.2△	口縁部は内湾しながら端部に至る。端部内面は鈍い段を呈する。口縁部と天井部の境に1条の沈線を巡らし、相対的に稜を浮び上がらせている。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面褐色	
Po201 80	1721	C区谷部	須恵器 坏蓋	①11.0※ ②3.4△	口縁部はゆるく内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。稜は鈍い。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	やや不良	内外面灰青色	
Po202 80 21	140 (86) 1887 (6573)	T-1 C区谷部	須恵器 坏蓋	①11.2※ ②2.8△	口縁部はほぼ直立し、端部は外反し内側へわずかに引き出す。端部外面はわずかに凹む。天井部は中央が凹む。	外面…天井部ヘラ切り後粗いナデ消し。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po203 80 21	1731 (3025)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.8※ ②3.8△	口縁部はゆるく内湾しながら下り、端部近くで外反する。端部は丸くおさめる。稜はない。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po204 80 21	1721 1722 (2808)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.0※ ②4.3△	口縁部は内湾しながら下り、端部近くで外反する。端部は丸くおさめる。稜はない。天井部はほぼ平ら。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	不良	内外面灰白色	
Po205 80	1723 (2745) 1749 (3192) 1755 (3387)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.25※ ②4.0△	口縁部はほぼ直立気味に端部に至る。端部は丸くおさめる。天井部は平らに近くなる。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po206 80	18	T-1	須恵器 坏蓋	①12.4※ ②4.1△	口縁部は直線的に下り、端部でわずかに外反する。端部は丸くおさめる。稜はない。天井部は平ら気味。	外面…天井部風化のため調整不明。口縁部回転ナデ。 内面…天井部の一部風化のため調整不明。他は回転ナデ。	密	不良	内外面淡黄灰色	
Po207 80 21	1731 (3021) (3028) 1738 (3139) 1884	C区谷部	須恵器 坏蓋	①13.2 ②4.2	口縁部はゆるく内湾しながら下り端部に至る。端部は丸くおさめる。稜は退化するが、わずかに痕跡が認められる。	外面…天井部ヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po208 80 21	1825 (4158) (4169)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①14.0※ ②4.3	口縁部はゆるく内湾しながら下り、端部は薄く引き出し気味に丸くおさめる。稜は失われている。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰茶色	
Po209 80	1715 (2664)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.4※ ②4.2△	口縁部はやや内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。稜はない。天井部はほぼ平ら。	外面…天井部ヘラ切り後粗いナデ消し。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po210 80 21	1723 (2835) 1833 (4274) (4275) 1840	C区谷部	須恵器 坏蓋	①11.0※ ②4.2△	口縁部はほぼ直立気味に端部に至る。端部は丸くおさめる。天井部はほぼ平ら。	外面…天井部ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po211 80 21	1754 (3370) (3372)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①11.0 ②3.5	口縁部はゆるく内湾しながら端部に至る。端部は丸くおさめる。稜はない。	外面…天井部ヘラ切り後粗いナデ消し。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰白色	
Po212 81 21	1886 (6302) (6419) 1893 (6712)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①9.2※ ②3.4△	天井頂部に中央部の凹むつまみがつく。つまみ中央は少し盛り上がり「W」状を呈する。内面には蓋の口縁端部よりも下方にのびるかえりがつく。かえり端部は薄く引き出される。全体的に薄手。	外面…天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面淡灰色	
Po213 81 21	1603 (2302) 1713	C区谷部	須恵器 坏蓋	①9.6※ ②3.4△	天井頂部に中央部の凹むつまみがつく。つまみ中央は少し盛り上がり「W」状を呈する。内面には蓋の口縁端部よりも下方にのびるかえりがつく。かえり端部は薄く引き出される。全体的に薄手。	外面…天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po214 81 21	1874 (5507) 1886 (6436) 1887 (6551)	C区谷部	須恵器 坏蓋	①12.8※ ②4.4△	天井頂部に中央部の凹むつまみをもつ。つまみ中央がわずかに盛り上がる。内面には蓋の口縁端部よりも下方にのびるかえりがつく。かえり端部は薄く引き出される。全体的に薄手。	外面…回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po215 81 21	1866 (5056) 1887 (6577)	C区谷部	須恵器 坏蓋	②3.0△	天井頂部に中央部の凹むつまみをもつ。	外面…回転ナデ。 内面…天井部中央不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	不良	内外面灰褐色 (一部黄褐色)	
Po216 81 21	782 (1165)	C区谷部	須恵器 坏蓋	②2.4△	天井頂部に外反して立ち上がり中央の凹むつまみをもつ。	外面…天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po217 81 21	840 (1225)	C区谷部	須恵器 坏蓋	②3.4△	天井頂部に中央部の凹むつまみをもつ。	外面…回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po218 81 21	1752 (3331)	C区谷部	須恵器 坏蓋	②2.0△	天井部中央にほぼ直立して立ち上がり、凹まった中央に円錐形の突起をもつつまみがつく。突起は外縁部よりも高くのびる。	外面…回転ナデ。 内面…天井頂部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	やや不良	内外面灰白色	
Po219 81 21	1758 (3453)	C区谷部	須恵器 坏蓋	②2.3△	天井部に環状つまみをもつ。つまみ上部は平坦面をなす。	外面…天井部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…天井部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po220 81 22	1715 (2647) 1721	C区谷部	須恵器 坏身	①10.2※ ②4.3	立ち上がりはほぼ直線的に内傾し端部に至る。端部はやや内傾する鈍い段をなす。受部はほぼ水平方向に短く引き出される。底部はほぼ平ら。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	
Po221 81	404	C区	須恵器 坏身	①11.0※ ②3.5△	立ち上がりは直線的で内傾する。端部は丸みを持つ平坦面となる。受部は直線的にほぼ水平方向に引き出される。	外面…底部回転ヘラケズリ。底部中央はヘラ切り後ナデ消し。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	
Po222 81	1813 (3963) 1855 (4661) 1874 (5629)	C区谷部	須恵器 坏身	①12.0※ ②4.1△	立ち上がりはゆるく外反しながら内傾し、端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平方向へ引き出される。	外面…底部ヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	外面に自然釉
Po223 81	1199 (1593) 1225 (1617)	C区谷部	須恵器 坏身	①11.6※ ②3.4△	立ち上がりは直線的に内傾し、端部は丸くおさめる。受部は厚く、ほぼ水平方向に引き出される。	外面…回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	
Po224 81 22	1715 (2603) 1721 1731 (3032)	C区谷部	須恵器 坏身	①14.8※ ②4.0△	立ち上がりは直線的でやや内傾する。端部は丸くおさめる。受部はやや上方へ引き出される。内面底部に円文の当て具痕が残る。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密。1㎜程度の砂粒含む	良好	内外面暗灰色	
Po225 81 22	1323 (1782)	C区谷部	須恵器 坏身	①14.3※ ②3.7△	立ち上がりは直線的に内傾し、端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平方向へ引き出される。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…底部回転ナデ後不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po226 81	1191 (1585) 1192 (1586)	C区谷部	須恵器 坏身	①13.1※ ②4.0△	立ち上がりは外反しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部はやや斜め上方へ引き出される。	外面…底部回転ヘラケズリ。底部中央ヘラ切り未調整。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面淡褐色	
Po227 81	1874 (5366) 1882 (6116)	C区谷部	須恵器 坏身	①12.5※ ②4.2	立ち上がりはやや外反しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部は水平方向へ短く引き出し丸くおさめる。	外面…底部回転ヘラケズリ。底部中央ヘラ切り後一部粘土を補充してナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	やや不良	内面赤茶色 外面灰茶色	
Po228 81	1769 (3505)	C区谷部	須恵器 坏身	①11.2※ ②3.6△	立ち上がりは直線的に内傾し、端部は薄く引き出される。受部はほぼ水平方向へ短く引き出される。	外面…底部ヘラ切り後ナデ消し。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po229 81	297 (492) 1436 (1916) 1822 (4029)	C区 SＩ 05 SS-03	須恵器 坏身	①11.0※ ②3.8△	立ち上がりはゆるく外反しながら内傾する。端部は薄く引き出す。受部はやや斜め上方へ引き出し、端部は尖り気味。	外面…底部回転ヘラケズリ。底部中央ヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po230 81 22	1762 (3466)	C区谷部	須恵器 坏身	①10.8※ ②3.9△	立ち上がりは直線的に内傾し、端部は丸くおさめる。受部はやや上方へ引き出される。外面底部に板目痕が残る。	外面…底部ヘラ切り後ナデ消し。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	
Po231 81 22	1833 (4278) 1866 (4927) (4930)	C区谷部	須恵器 坏身	①10.7※ ②3.9△	立ち上がりはやや外反しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部はほぼ水平方向へ引き出される。底部が内側へ凹む。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po232 81 22	1730 (3010) 1740 (3145) 1749 (3201)	C区谷部	須恵器 坏身	①12.0※ ②4.0△	立ち上がりはやや外傾しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部は斜め上方へ引き出され、丸くおさめる。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	
Po233 81 22	1833 (4272)	C区谷部	須恵器 坏身	①10.6※ ②4.0△	立ち上がりはゆるく外反しながら内傾し、端部は薄く引き出される。受部は斜め上方へ引き出され、端部は水平方向の平坦面をなす。	外面…底部回転ヘラケズリ。底部中央はヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po234 81 22	1205 (1594) 1721 1728 (2893) 1733 (3039) 1881 (5663) (5838) 1882 (6082)	C区谷部	須恵器 坏身	①11.4※ ②3.7△	立ち上がりは短く、外反しながら内傾する。端部は薄く引き出される。受部は斜め上方へのびる。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	緻密。細粒混	良好	内外面淡灰青色	
Po235 81 22	91 (32)	T-1	須恵器 坏身	①11.3※ ②4.1△	立ち上がりは外反しながら内傾し、端部は薄く引き出す。受部は短く斜め上方へ引き出される。	外面…底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…底部回転ナデ後不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po236 81 22	3138 4929	C区谷部	須恵器 坏身	①9.4※ ②3.3△	立ち上がりは短く、外反しながら内傾し、端部は丸くおさめる。受部は斜め上方へ引き出される。	外面…底部ヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	外面に自然釉
Po237 81 22	1855 (4695)	C区谷部	須恵器 坏身 (皿か碗)	①10.0※ ②3.9△	口縁部はやや肥厚し直立気味となる。底部は平坦気味となる。	外面…底部ヘラ切り未調整。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	やや不良	内外面灰青色	
Po238 81 22	126 (31)	T-1	須恵器 坏	①11.6※ ②4.2△	口縁部はほぼ直立するが、端部直下を強くナデて沈線状とし、端部をわずかに外反気味とする。端部は丸くおさめる。	外面…底部回転糸切り。他は回転ナデ。 内面…底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	不良	内外面黄灰色	
Po239 81 22	1705 (2433)	C区谷部	須恵器 坏底部	②1.8△ ④6.5	底部。	外面…坏部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面…底部中央不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po240 81 22	653 (1035) 1177 (1571) 1855 (4682) 1881 (5731)	C区谷部	須恵器 高台付坏	②2.30△ ④8.2	「ハ」の字状に開く短い高台。高台端部は外傾する平坦面をなす。	外面…回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰褐色	
Po241 81 22	707 (1089) 1126 (1519) 1726 (3114)	C区谷部	須恵器 高台付坏	①10.0※ ②1.7△ ④10.0※	「ハ」の字状に開く短い高台。高台端部は外側へ引き出すようにおさめる。接地面は平ら。	外面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	1～2㎜の砂粒を含む	良好	内外面灰褐色	
Po242 82 23	1715 (2620) 1723 (2692) 1874 (5514)	C区谷部	須恵器 高坏	①13.3※ ②9.4 ⑤9.8※	坏部口縁部はやや内湾して上方へのび、端部で外反して丸くおさめる。外面の口縁部と底部の境に段がつく。脚部は外反して下方に下り、端部は下方に屈曲する。脚部3方に円形透し。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。口縁部回転ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	三方透し
Po243 82 23	1721	C区谷部	須恵器 高坏	①12.4※ ②8.9 ⑤10.0	坏部口縁部はやや内湾気味に上方にのび、端部は引き出すようにしておさめる。坏底部は一段凹む。外面の口縁部と底部の境に段をもつ。脚部は外反して下方に下り、端部は上下に引き出され、内面に段をもつ。脚部3方向に長方形の透し。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面濃灰色	三方透し
Po244 82 23	1728 (2837)	C区谷部	須恵器 高坏	②10.1△ ④11.0	坏部口縁部はやや内湾気味に上方にのびるが、口縁端部は外側に曲がる。端部は丸くおさめる。脚部は外反して下方に下り、端部で段をなし下方に屈曲する。脚部2方向に三角形の透し。	外面…回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。脚部ヘラ状工具によるナデ。他は回転ナデ。	密。砂粒少量含む	良好	内外面灰色	二方透し
Po245 82 23	1866 (4963)	C区谷部	須恵器 高坏	①15.6 ②10.2 ⑤8.4	坏部口縁部はやや内湾して立ち上がり、端部は丸くおさめる。脚部はやや外反して下方へ下り、端部は上下に引き出されて丸くおさめる。脚部2方向に線状の透し。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。口縁部回転ナデ。脚部回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	二方透し
Po246 82 23	1712 1805 (3858)	C区谷部	須恵器 高坏	①9.2※ ②10.8△ ⑤9.0	坏部口縁部は内湾して立ち上がり端部は丸くおさめる。脚部はやや外反して下方へ下り、端部でわずかに上下に肥厚させ、端部外面は強くナデられてわずかに凹む。透しはない。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。脚部回転ナデ。	密	良好	内外面暗灰色	
Po247 82 23	168	T-1	須恵器 高坏	①14.0※ ②4.4△	口縁部はやや内湾して立ち上がり、端部は内外へ薄く引き出され、端部上面は凹む。外面の端部下は強くナデられることにより凹む。口頸部中位に2条の沈線が巡り、口縁部と底部の境で屈曲する。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面青灰色	
Po248 82 23	1749 (3193) 1753 (3358)	C区谷部	須恵器 高坏	①15.2※ ②5.7△	坏部口縁部は内湾しながら上方へのびるが口縁端部で外側へ曲がる。端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面淡灰色	
Po249 82 23	1762 (3469) 1770 (3521) 1782 (3648) 1805 (3846) 1893 (6665)	C区谷部	須恵器 高坏	①13.8※ ②4.5△	坏部口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。端部は外側に折り曲げられ丸くおさめる。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密。細砂混	良好	内外面灰青色	
Po250 82 23	1728 (2905)	C区谷部	須恵器 高坏	①15.0※ ②4.2△	坏部はやや内湾して上方にのび、端部は丸くおさめる。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po251 82 23	1721	C区谷部	須恵器 高坏脚部	②8.0△ ⑤11.2	脚部は外反して下方に下り、脚端部で段をなし内側へ屈曲する。脚部3方向に三角形の透し。透しの下に2条の沈線。脚端部は強くナデて凹ませる。	内外面回転ナデ。	密	不良	内外面暗灰褐色	三方透し

遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po252 82 23	1866 (4905) (4906) (4922)	C区谷部	須恵器 高坏脚部	②8.6△ ⑤11.0※	坏部口縁部を欠損。脚部はゆるく外反して下方に下り、脚端部に至る。端部は上方に引き出される。脚部2方向に三角形の透し。	外面…坏部底面回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面…坏部底面不整方向ナデ。他は回転ナデ。脚部ヘラ状工具によるナデ。	密	やや不良	内外面灰褐色	二方透し
Po253 82 23	1775 (3392)	C区谷部	須恵器 高坏脚部	②5.0△ ⑤10.0※	脚部は外反して下方に下り、端部で上下に細く引き出され、内面に段をもつ。脚部中位の3方に隅丸長方形透し。	内外面回転ナデ。	緻密	不良	内外面灰白色	三方透し
Po254 82 24	1887 (6585)	C区谷部	須恵器 高坏脚部	②5.8△ ⑤9.8	脚部は外反して下方に下り、端部で下方に屈曲させる。屈曲部外面上部に1条の沈線を施す。脚部中位の3方に円形透し。	内外面回転ナデ。	緻密。細砂粒	良好	内外面灰青色	三方透し
Po255 82 24	35 165 (155)	T-1	須恵器 高坏脚部	②5.9△ ⑤10.8※	脚部は外反して下方に下り、端部で下方に屈曲させ丸くおさめる。内面に明瞭な段をもつ。円形の透しが入る。	外面…脚上半わずかにカキ目痕。他は回転ナデ。 内面…回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	円形透し
Po256 82 24	1810 (3907)	C区谷部	須恵器 高坏脚部	①10.0※ ②6.0△ ⑤9.8※	脚部は外反して下方に下り、端部で下方に屈曲させ、薄く引き出すようにしておさめる。透しの有無不明。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰茶色	
Po257 82 24	1881 (5730)	C区谷部	須恵器 高坏脚部	②6.1△ ⑤10.8	脚部は外反した後に内湾して端部に至る。外面中位に稜がつく。端部内面には短いかえりがつく。透し無し。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面濃灰色	
Po258 82	1777 (3566) 1880 1882 (5865)	C区谷部	須恵器 口縁	①15.0※ ②3.4△	口頸部から口縁部にかけて直線気味に外傾し口縁端部はやや凹む平坦面をなし、内側へ引き出す。口頸部中位に1条の突帯を巡す。	内外面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白色	
Po259 82 24	1077 (1466) 1715 (2550) (2551)	C区谷部	須恵器 口縁	①12.0※ ②4.2△	口頸部から口縁部にかけて、直線気味に外傾し、口縁端部は上方へ引き出される。端部外面は強くナデて凹ませる。口縁部は肥厚する。	外面…回転ナデ。 内面…基部にタタキ痕。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po260 82 24	1722 (2731)	C区谷部	須恵器 口縁	①13.2※ ②3.7△	口頸部から口縁部にかけて直線気味に外傾し、口縁端部は上方へ細く引き出される。端部外面は強くナデて凹ませる。口縁部は肥厚する。	外面…回転ナデ。 内面…基部にタタキ痕。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰白色	
Po261 82 24	1824 (4044)	C区谷部	須恵器 口縁	①13.6※ ②3.65△	口頸部から口縁部にかけて直線気味に外傾し、口縁端部は平坦面をなし、内外両方向へわずかに引き出す。口縁部はわずかに肥厚する。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰茶色	
Po262 82 24	1736 (3087)	C区谷部	須恵器 甕	①20.0※ ②6.6△	口頸部から口縁部にかけてゆるく外反し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部は肥厚し、下端で段をなす。	内外面回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	
Po263 83 24	124 130 (51)	T-1	須恵器 甕	①21.4※ ②8.9△	口縁部はゆるく外反し、端部は丸くおさめる。口縁部は肥厚し下端で段をなす。	外面…基部以下に不明瞭なタタキ痕。他は回転ナデ。 内面…基部以下に円弧状タタキ。他は回転ナデ。	密。砂粒少量含む	やや不良	内外面灰褐色	
Po264 83 24	1855 (4632) 1886 (6271)	C区谷部	須恵器 甕	①22.0※ ②6.0△	口頸部から口縁部にかけては、直線気味に大きく外傾し、口縁端部は上面と外面の2面をつくる。口縁部下端は1条の沈線によって稜をつくる。	外面…基部から体部にかけ平行タタキ。他は回転ナデ。 内面…基部から体部にかけてタタキ後粗いナデ消し。他は回転ナデ。	緻密	良好	内外面灰青色	
Po265 83 24	1886	C区谷部	須恵器 甕	①23.0※ ②5.8△	口頸部から口縁部にかけてゆるく外反する。口縁端部下に稜がつき、稜の下に櫛状工具による波状文が巡る。	外面…回転ナデ。 内面…基部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	外面及び内面の殆んどに自然釉
Po266 83 24	822 (1205) 824 (1207) 1700 (2355) (2380) 1705 (2443) (2444) (2446) (2447) (2449) 1715 (2637) (2638) 1721 1723 (2704) (2707) 1728 (2906) 1749 (3214) 1758 (3448) 1805 (3795) 1821 (4022) (4023) 1824 (4106) (4110) 1825 (4125) (4126) (4134) 1832 (4234) 1843 1865 (4705) 1881 (5686) 1886 (6144)	C区谷部	須恵器 甕	①41.5※ ②16.3△	直線的に外傾し、口縁端部は丸くおさめる。端部内面は斜め上方へ細く引き出される。口縁部外面には「×」の字状の刻みが巡り、以下にタテハケと沈線からなる文様。	外面…口縁部ナデ。口縁部以下ヨコハケ後、タテハケ。その後で2条からなる3段の沈線。下段沈線以下ヨコハケ後ナデ。 内面…上半回転ナデ。下半円文タタキ後ナデ消し。	密	良好	内外面青灰色	

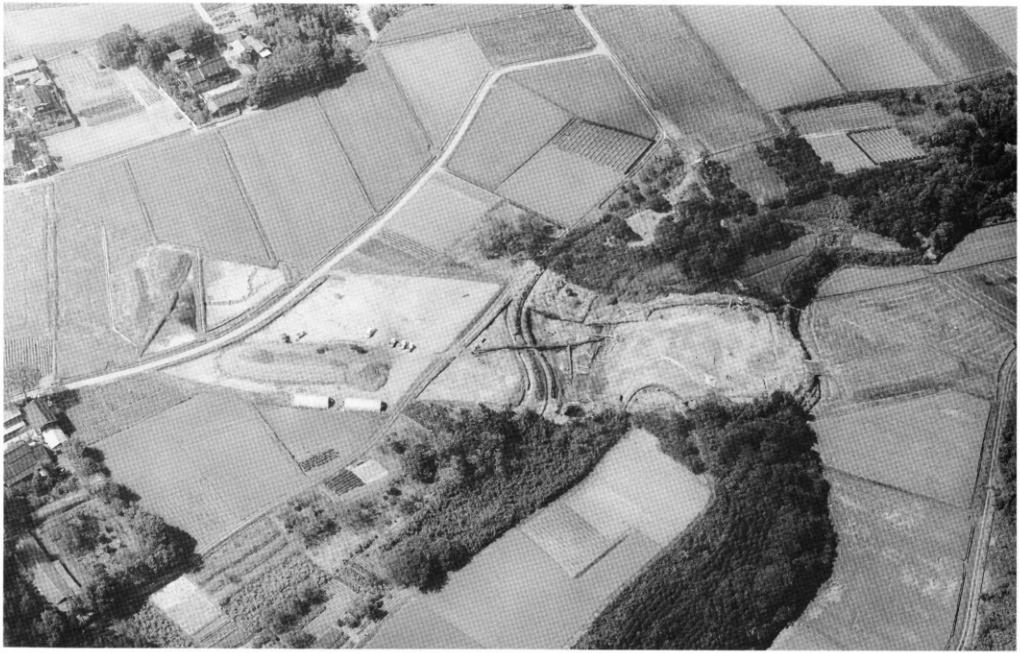
遺物番号 挿図番号 図版番号	取上番号	出土位置	種類 器種	法量(cm)	形態	手法	胎土	焼成	色調	備考
Po267 83	255	C区	須恵器 壁面部	②12.9△	外反する口頸部。2条の沈線の間に縦状工具による複状文を施す。口縁端部は欠損する。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	調整・胎土等よりPo37と同一個体の可能性有り
Po268 83 24	320 (515)	C区	須恵器 壁胴部	②3.4△	ヘラ記号の残る胴部片。	外面一格子状タタキ。 内面一円文タタキ。	密	良好	内外面青灰色	ヘラ記号有り
Po269 83 24	1733 (3046) (3047) 1738 (3130) (3134) 1741 (3450) 1778 (3602) 1800 (3780)	C区谷部	須恵器 直口壺	①9.2※ ②8.45△	口頸部はほぼ直立し、肩部は張る。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面濃灰色	
Po270 83 25	1723 (2857)	C区谷部	須恵器 小型壺	①8.5※ ②4.85△	口頸部は外傾しながらゆるく内湾する。口縁部は丸くおさめる。体部に2条の沈線。	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po271 83 24	152 (128) 1715 (2625) (2652) 1721 1723 (2821) 1865 (4836) (4837) (4840)	C区谷部	須恵器 短頸壺	①12.2※ ②7.1	口縁部は直線的に外傾する。端部は外傾する平坦面をなす。肩部は張り、胴最大径部に1条の沈線を施す。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部上半カキ目。回転ナデを挟み底部回転ヘラケズリ。 内面一底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po272 83 25	1866 (4914) (5052) 1874 (5502)	C区谷部	須恵器 壺胴部	②19.0△ ③14.0※	口頸部を欠く壺。肩部が張り、最大径部やや上方に1条の沈線を施す。	外面一底部回転ヘラケズリ後カキ目。他は回転ナデ。 内面一底部不整方向ナデ。他は回転ナデ。	密	良好	内外面青灰色	
Po273 83 25	1753 (3359)	C区谷部	須恵器 長頸壺	①9.0※ ②11.3△	口頸部はゆるく外反し口縁端部は丸くおさめる。	外面一回転ナデ。 内面一口頸部上半回転ナデ。下半しぼり痕。頸接合部以下回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po274 83 25	161 (149) 168 1866 (4916) (5119)	T-1 C区谷部	須恵器 瑞	②5.0△ ②9.0※ ③1.9※	ほぼ球形をなす体部。中央部に円形孔を穿孔。最大径部に沈線。	外面一底部回転ヘラケズリ後回転ナデ。他は回転ナデ。 内面一底部に指頭圧痕。他は回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po275 83 25	1159 (1553) 1306 (1776) 1320 (1861)	C区谷部 尾根先端部	須恵器 胴部	②6.2△	体部には沈線の円圏と刺突帯からなる文様がつく。上端に円形状の穿孔痕が残る。	外面一ヘラ状工具による回転ナデ。 内面一回転ナデ。	密	良好	内外面灰色	
Po276 84 25	116 120 452 (452) 814 (1197)	T-15 T-16 C区谷部	瓦質土器 擂鉢	①27.2※ ②12.7△	口縁部は端部が外下がりの平坦面をなす。内面に帯縁条線がみられる。	内外面ヨコナデ。	密	不良	内外面灰白色	
Po277 84 25	807 (1190)	C区	瓦質土器 土鍋	①28.0※ ②2.9△	外側へ折り曲げ肥厚させた口縁部。内面の一部は拡張されて2孔を穿つ。	内外面ナデ。	緻密	良好	内面灰青色	外面スス付着
Po278 84 25	1169 (1563)	C区谷部	瓦質土器	①46.0※ ②4.3△	ほぼ直立する口縁部。端部は内外に肥厚し、上部は平坦面をなす。	外面一黒化のため調整不明。一部にハケメ。口縁端部平坦面横方向ハケ。 内面一口縁端部ヨコハケ後ヨコナデ。他は横方向ナデ。	密	やや不良	内外面灰褐色	
Po279 85 25	447 (681)	C区尾根上	土製品	①3.8△ ②2.8△ ③1.8△	上部はゆるく弧をなし、端部は平坦面をなすが、上下が低く引き出される。下部は平坦面が直線的に続くが、左端で角度を始める。右側面に円孔の痕跡が残る。		緻密	良好	内外面淡灰青色	
Po280 85 25	1796 (2466)	C区谷部	土製品	①17.3△ ②24.2△	外面に簡単を貼付け、ゆるく内湾する。左下部にゆるく弧状をなす切断面が残る。	外面一ハケ後ナデ消し。 内面一タテハケ。	2～3mmの砂粒・雲母を含む	良好	内外面淡褐色	

挿表5　石器観察表

（　）は残存値

遺物番号	取上番号	挿図番号	図版番号	出土位置	器分類	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	調整	備考
S1	1716(2589)	14	13	SI-03	打製石庖丁	サヌカイト	4.95	6.9	1.0	33.0		
S2	1858(4609) 1857(4608)	19	14	SI-05	磨石		15.3	6.5	4.2	570		
S3	403(623)	37	16	SK-09	石匙	サヌカイト	4.4	6.9	0.65	19.6		
S4	214	65	16	SD-01	石鏃	サヌカイト	1.7	1.6	0.3	0.5	両面	凹基無茎
S5	481(576)	65	16	SD 01	石鏃	サヌカイト	2.75	2.05	0.39	1.5	両面	凹基無茎 左脚部欠損
S6	215(281)	65	16	SD-01	調整石器	サヌカイト	3.65	1.65	0.4	2.8		横長剥片
S7	1900	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	サヌカイト	1.82	1.8	0.3	0.7	両面	凹基無茎
S8	1896	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	1.8	1.8	0.3	0.6	両面	凹基無茎
S9	1899	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	サヌカイト	1.25	1.3	0.25	0.3	両面	凹基無茎
S10	1897	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	サヌカイト	2.4	1.53	0.25	0.8	片面 周縁	凹基無茎
S11	1895	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	2.8	(2.15)	0.39	1.5	片面 周縁	凹基無茎 両脚部欠損
S12	1886(6301)	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	(2.65)	1.65	0.33	1.2	両面	凹基無茎 先端部・右側縁欠損
S13	1910	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃		1.65	1.3	0.35	0.5	両面	凹基無茎 左脚部欠損
S14	1901	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	サヌカイト	(1.3)	1.15	0.3	0.4	両面	凹基無茎 先端部欠損
S15	1898	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	サヌカイト	1.7	1.4	0.25	0.5	周縁	平基無茎
S16	1869	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	(1.9)	1.7	0.25	0.7	片面 周縁	平基無茎 先端部欠損
S17	1894	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	(2.1)	1.68	0.37	1.1	周縁	平基無茎 先端部欠損
S18	1840	86	26	C区谷部	石鏃	サヌカイト	2.75	1.35	0.35	1.3	両面	平基無茎
S19	1911	86	26	C区谷部 砂層中	石鏃	黒曜石	(1.3)	(0.95)	(0.27)	0.3	両面	両脚部欠損
S20	248(316)	86	26	B区掘下中	石鏃	黒曜石	(1.6)	0.62	0.26	0.3		
S21	1834(4306)	87	26	C区谷部	(横型)石匙	サヌカイト	2.85	4.9	0.75	8.0		
S22	1886(6152)	86	26	C区谷部 砂層中	ナイフ形石器	玉髄	4.95	2.65	0.9	12.6		縦長剥片剥片
S23	1844	87	26	C区谷部B区側	石皿	角閃石輝石安山岩	(16.2)	(10.7)	7.1	1470		
S24	1721	87	26	C区谷部	石皿	無斑晶安山岩	16.4	14.4	8.3	2550		

図　　版



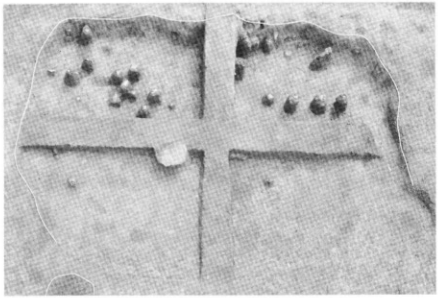
泉中峰・泉前田遺跡全景（東より）

図版1

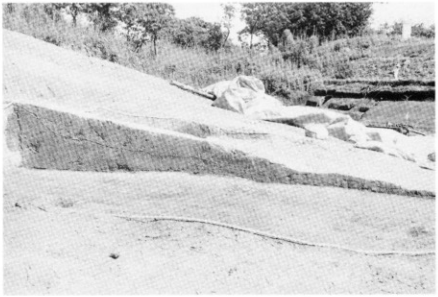
図版 2

A区全景（北東より）

C区全景（北西より）

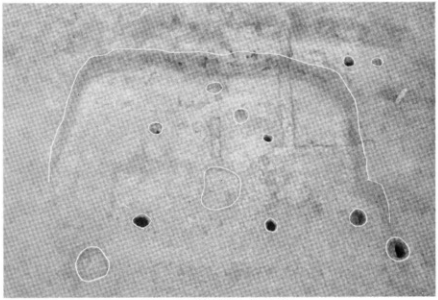


ＳＩ-01 遺物出土状況(1)（西より）



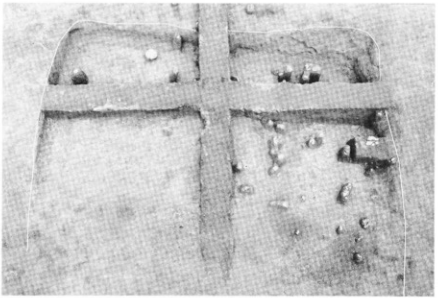
ＳＩ-01 土層断面（北西より）

ＳＩ-01 遺物出土状況(2)（南東より）



ＳＩ-01 完掘状況（西より）

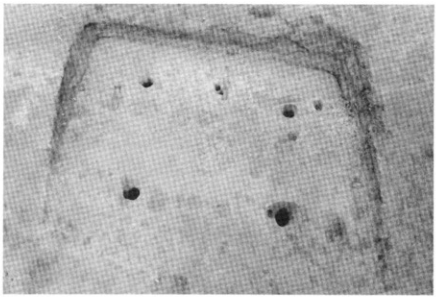
図版３



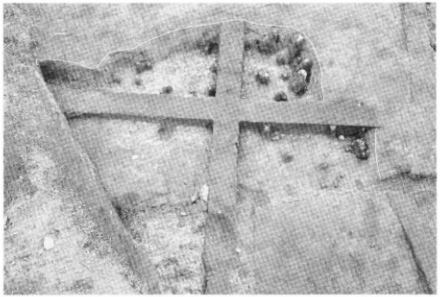
S I -02 遺物出土状況（南西より）

S I -02 土層断面（南東より）

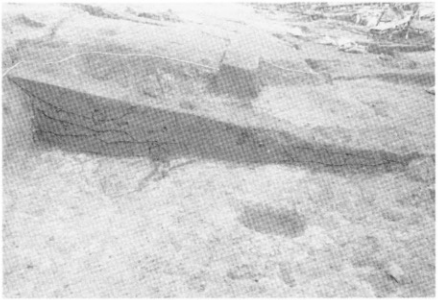
S I -02 遺物接写（北より）



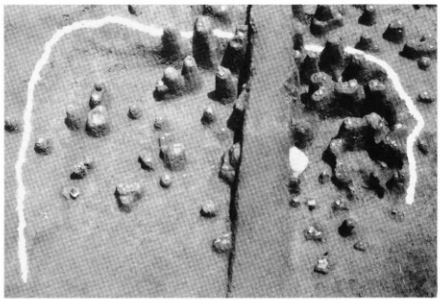
S I -02 完掘状況（南より）



ＳＩ-03 遺物出土状況（南西より）



ＳＩ-03 土層断面（北より）

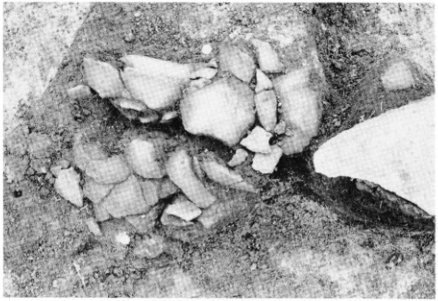


ＳＩ-04 遺物出土状況（南西より）

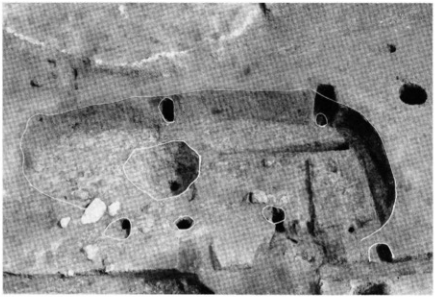
ＳＩ-04 土層断面（北西より）

ＳＩ-05 遺物出土状況(1)（西より）

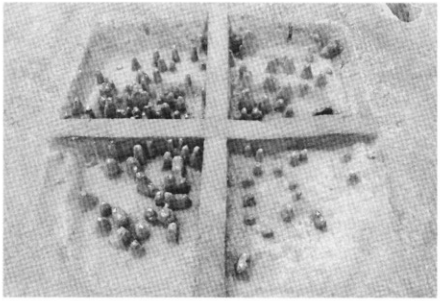
ＳＩ-05 土層断面（北より）



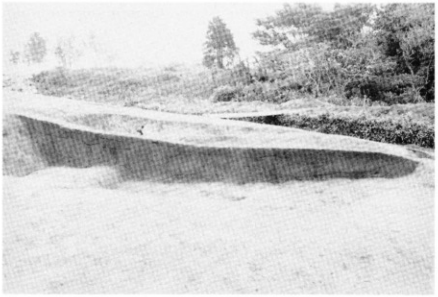
ＳＩ-05 遺物出土状況(2)（南より）



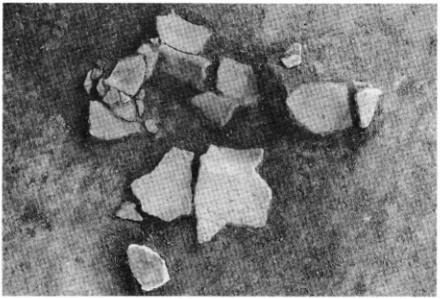
ＳＩ-05 完掘状況（南東より）



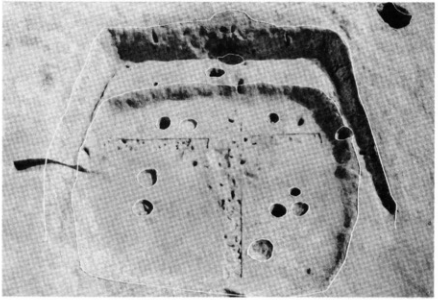
S I -06・08 遺物出土状況(1)（北より）



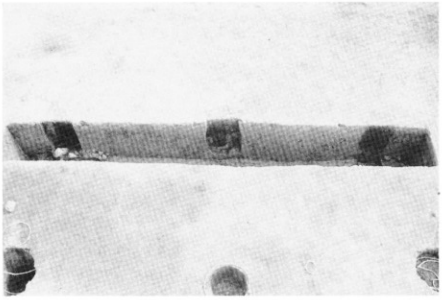
S I -06・08 土層断面（東より）



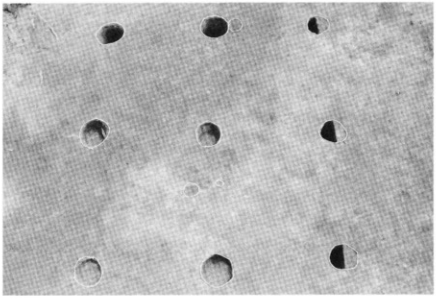
S I -06・08 遺物出土状況(2)（北より）



S I -06・08 完掘状況（北より）



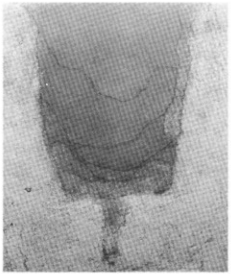
SB-01 土層断面（北より）



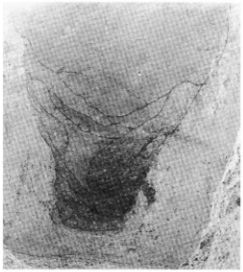
SB-01 完掘状況（東より）

C区谷部土層断面（北西より）

作業風景

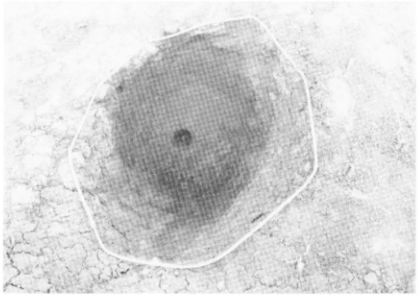


ＳＫ-02 土層断面（北西より）

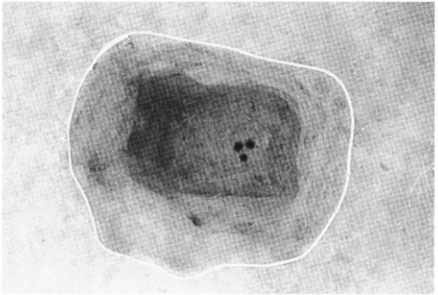


ＳＫ-01 土層断面（南東より）

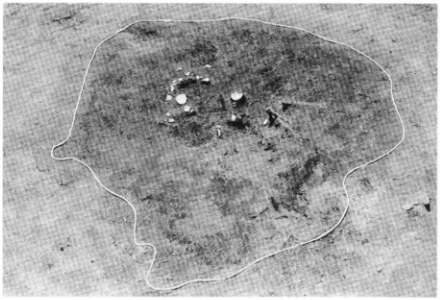
ＳＫ-20 土層断面（南東より）



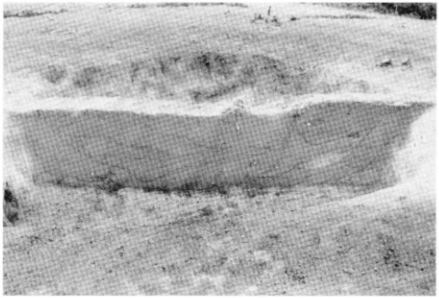
ＳＫ-05 完掘状況（南より）



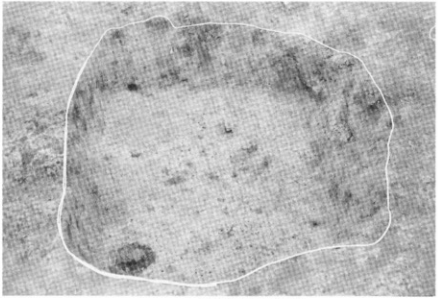
ＳＫ-24 完掘状況（南西より）



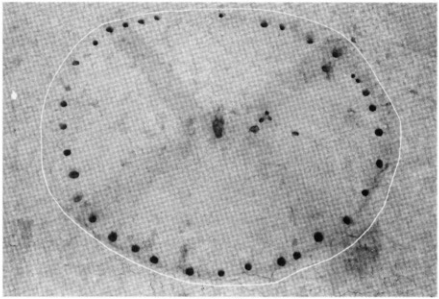
SK-06 検出状況（東より）



SK-06 土層断面（西より）

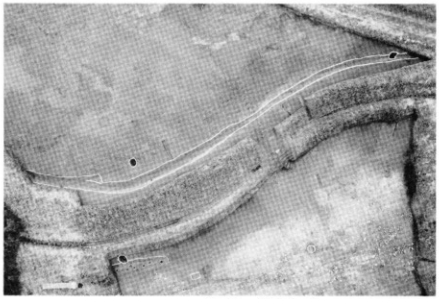


SK-06 完掘状況（南より）

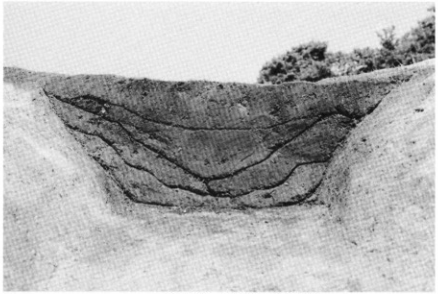


SK-09 完掘状況（南より）

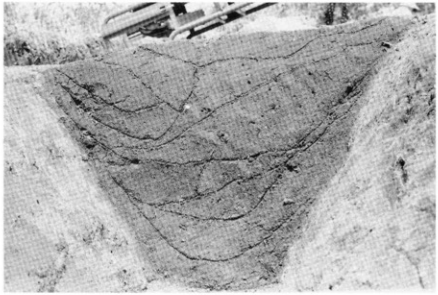
SD-01 土層断面（南より）



SD-02 完掘状況（北東より）

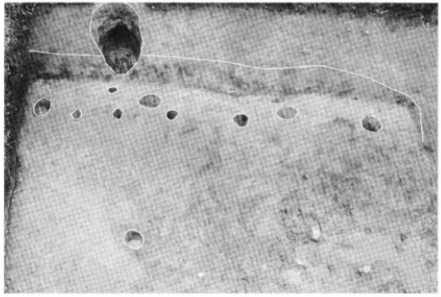


SD-03 土層断面（西より）

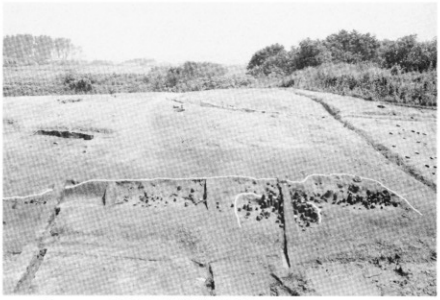


SD-02 土層断面（西より）

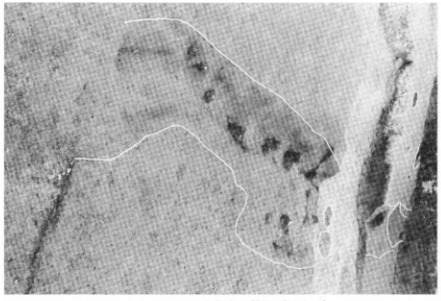
図版11



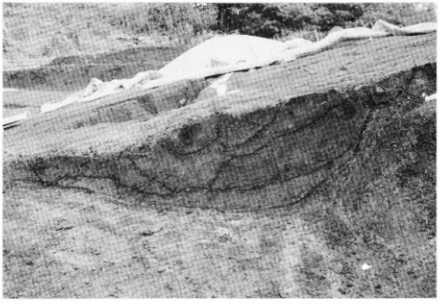
ＳＳ-01 完掘状況（北東より）



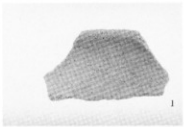
ＳＳ-03 遺物出土状況（南西より）

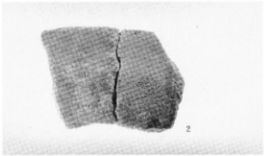


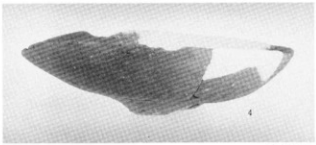
ＳＳ-02 遺物出土状況（西より）

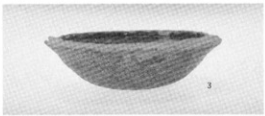


ＳＳ-03 土層断面（南東より）

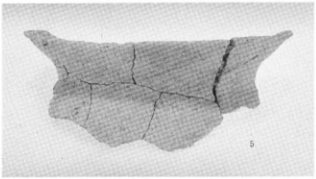


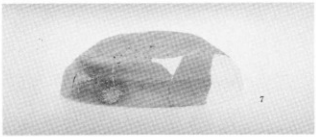


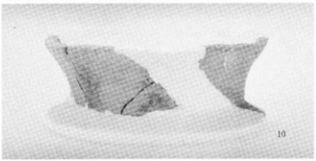


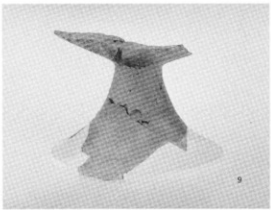


S I -01 出土遺物

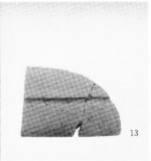


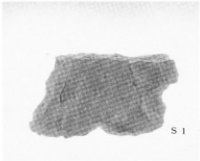






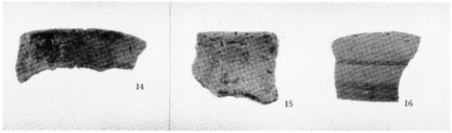
S I -02 出土遺物

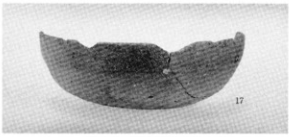


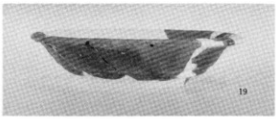


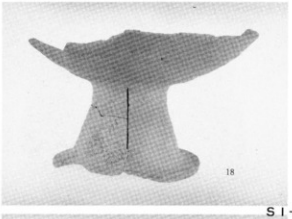
S I -03 出土遺物

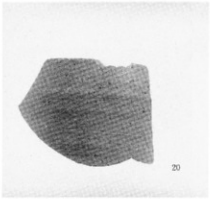
図版14



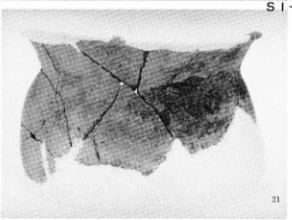


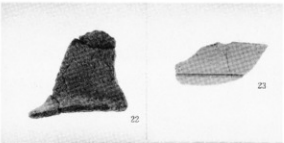






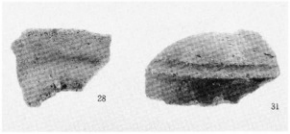
S I -04 出土遺物





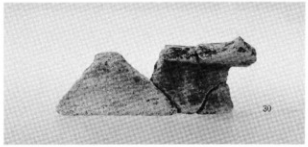
S I -05 出土遺物

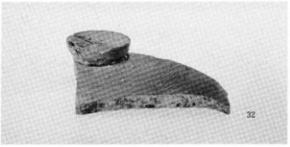
27

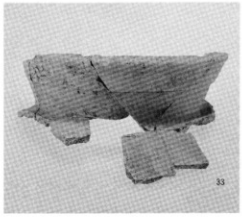

28

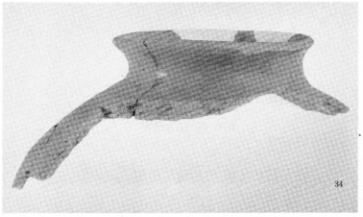
31

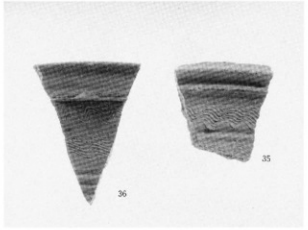
29


30

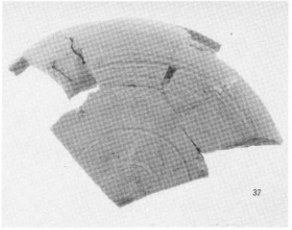

32


33


34


35

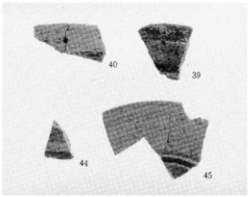
36

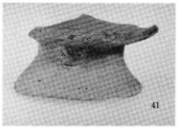

37

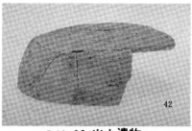
S I -06 出土遺物

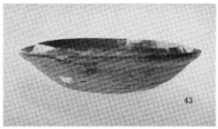
図版16

S I -07 出土遺物

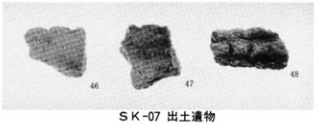






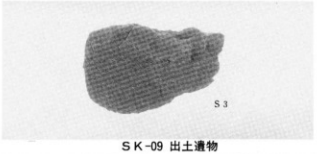


S K -06 出土遺物

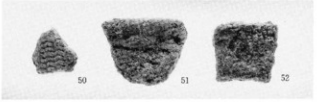


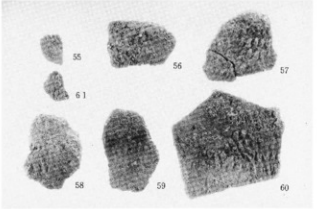
S K -07 出土遺物

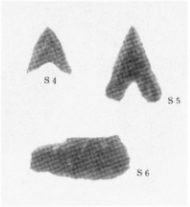
S K -10 出土遺物



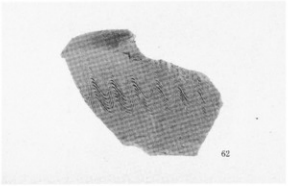
S K -09 出土遺物



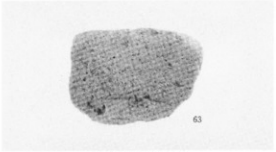




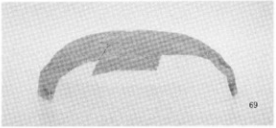
S D -01 出土遺物

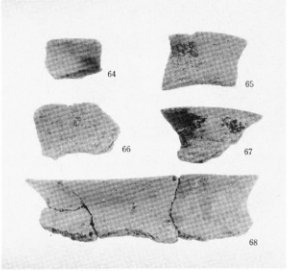


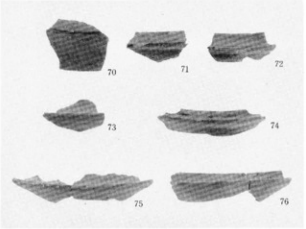
SD-03 出土遺物

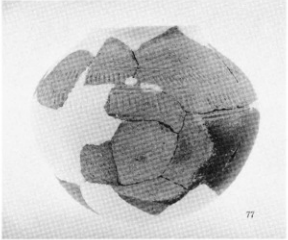


SS-02 出土遺物

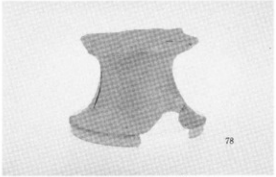




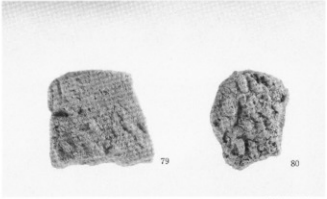




SS-03 出土遺物

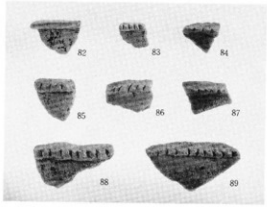


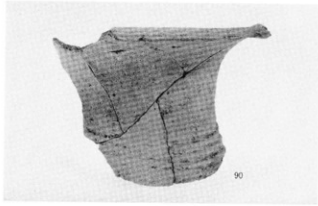
SS-04 出土遺物

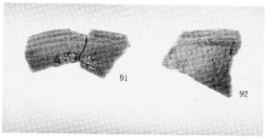


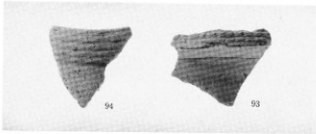
遺構外出土縄文土器

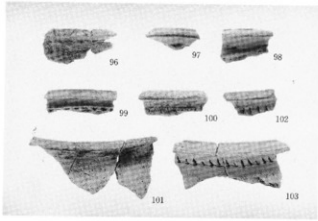
図版18

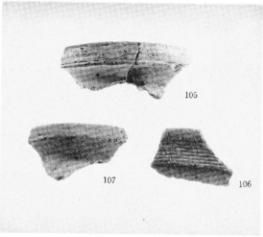


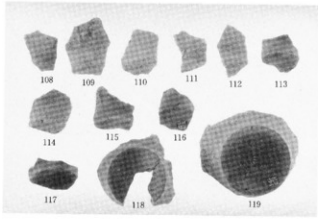


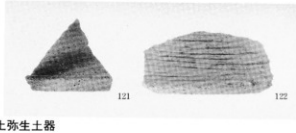




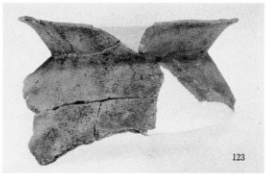


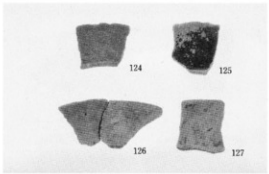




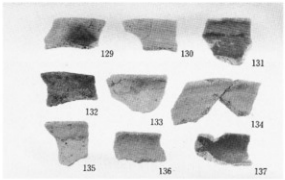


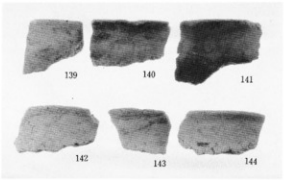
遺構外出土弥生土器

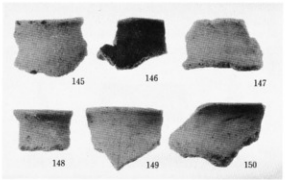

123

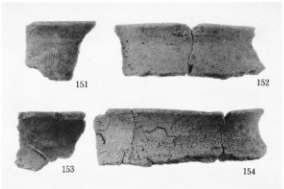

124 125 126 127

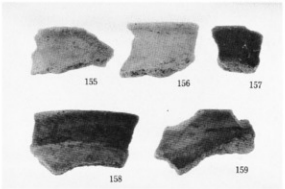
128

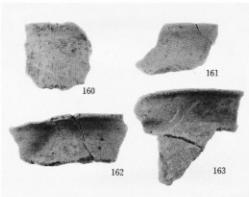

129 130 131 132 133 134 135 136 137

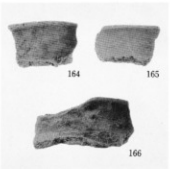

139 140 141 142 143 144

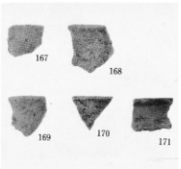

145 146 147 148 149 150


151 152 153 154


155 156 157 158 159

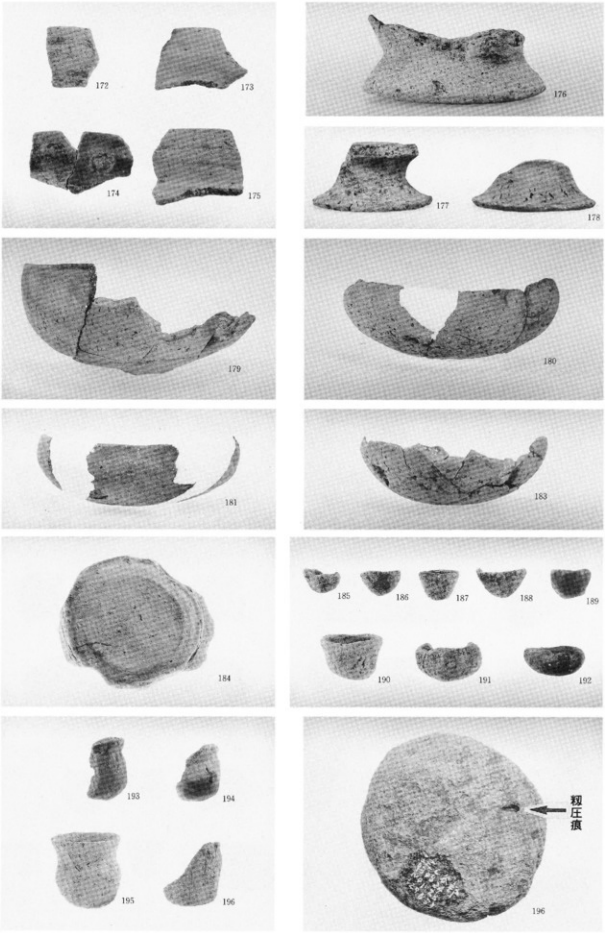

160 161 162 163


164 165 166

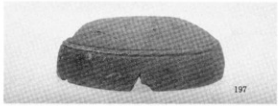

167 168 169 170 171

遺構外出土土師器（1）

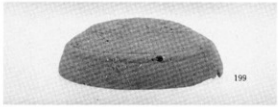
図版20

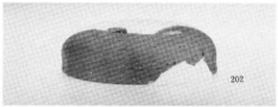


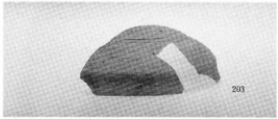
遺構外出土土師器（2）・手捏ね土器

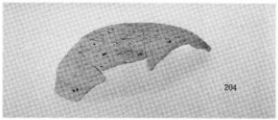

197

198

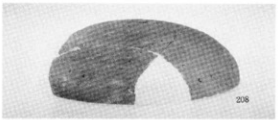

199

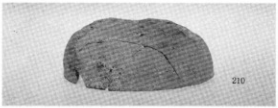

202

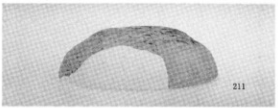

203

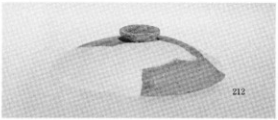

204

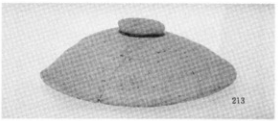
207

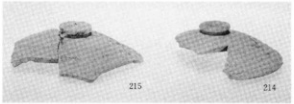

208


210

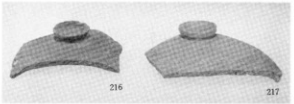

211


212

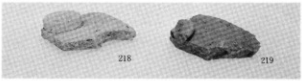

213


215

214


216

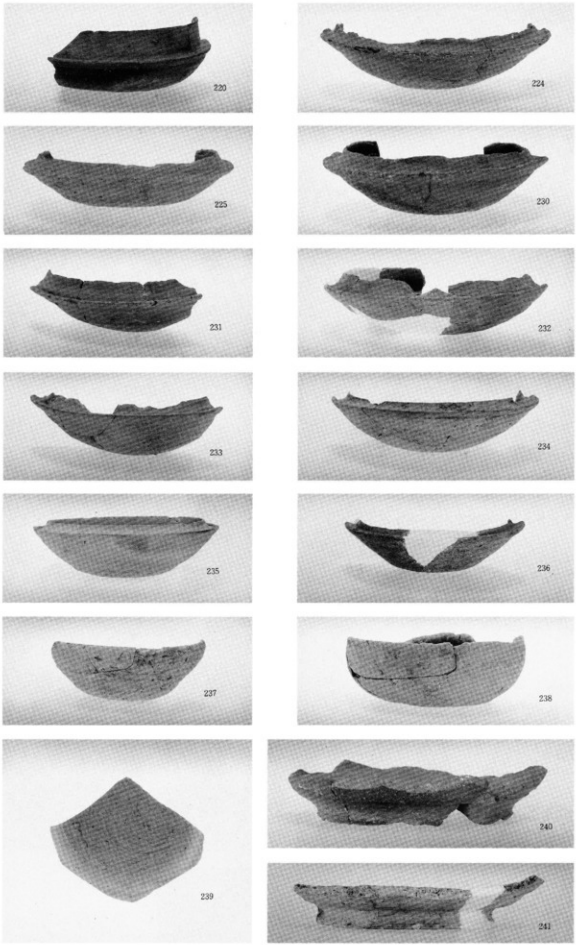
217


218

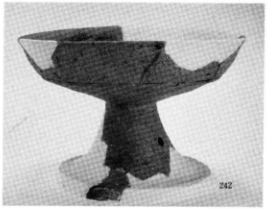
219

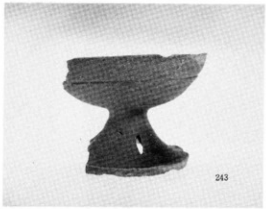
遺構外出土須恵器（1）

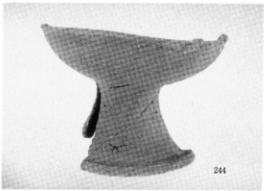
図版22



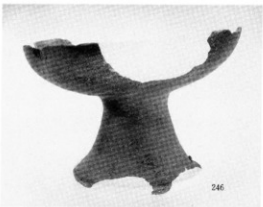
遺構外出土須恵器（2）


242

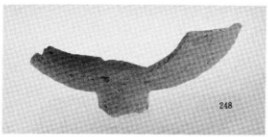

243


244

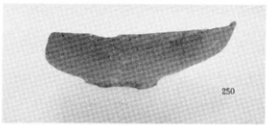
245


246

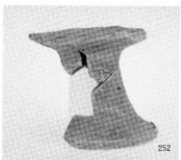
247

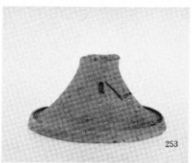

248

249


250

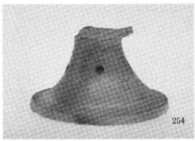
251

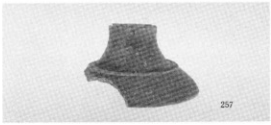

252

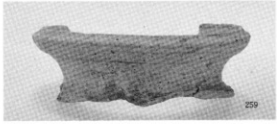

253

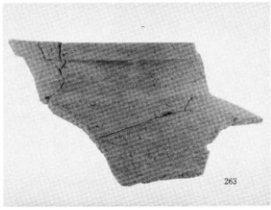
遺構外出土須恵器（3）

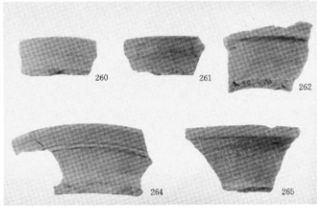
図版24

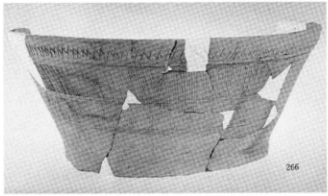


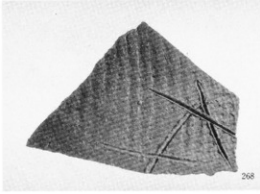


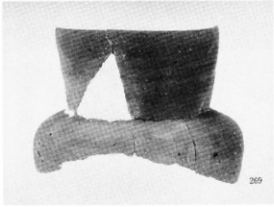




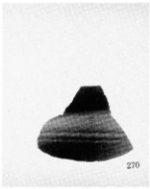


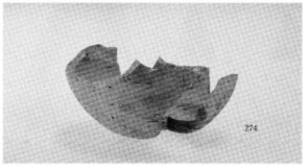


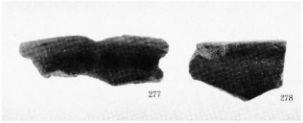


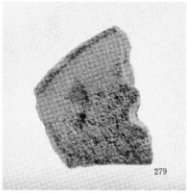


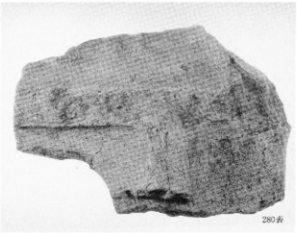
遺構外出土須恵器（4）





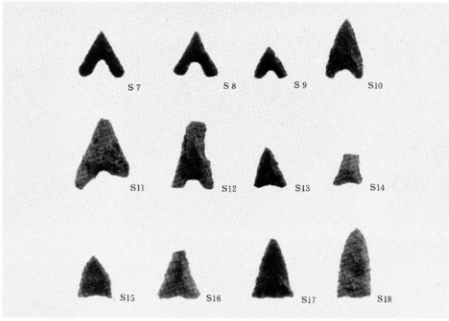


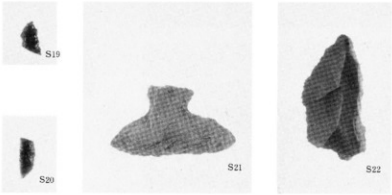


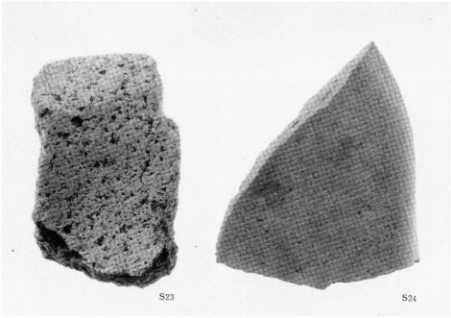


遺構外出土須恵器（5）・瓦質土器・土製品

図版26







遺構外出土石器

鳥取県教育文化財団調査報告書35
一般国道9号米子道路埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

鳥取県米子市

泉中峰・泉前田遺跡

発　行　1994年3月
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
〒680　鳥取市東町1丁目271番地
電話（0857）26-8397
印　刷　中央印刷株式会社